

アイヌ民族の耳飾りに関する基礎的研究

—国内博物館等収蔵資料を中心として—

亀丸由紀子

目次 はじめに

- 1 先行研究と課題
 - 2 分類型式および種類について
 - 3 調査方法および対象資料について
 - 4 分析
 - 5 考察
- 資料篇

Key Words アイヌ民族 (Ainu)、耳飾り (Earrings)

はじめに

本稿の目的は、日本国内の博物館等施設に収蔵されているアイヌ民具資料のうち、伝世資料と出土資料に位置付けられる耳飾り資料を対象として、資料情報の分析および型式分類を行い、耳飾りの年代別型式変化を整理し工法を明らかにすることである。

耳飾りはアイヌ語で「ニンカリ (ninkari)」などと呼ばれ、首飾りや腕輪などとともにアイヌの装身具として位置づけられている。uciw-ninkari (細い金属の両端が合わさって一つの輪になった耳環) やotama (下に小さな玉飾りの下がった耳環) という耳飾りの種類についての名称も見ることができるが、ninkariは一般的に金属製の直径七、八センチ前後の耳飾りのことを指す(田村1996)。

耳飾りは通常2個1対であり、左右両方の耳たぶに通して身につけた。「子供のときから男女ともにニンカリをつけており、夜寝るとき以外はあまり外さなかった」(萱野1978) というように、アイヌの人々は、主に盛装時や葬送儀礼の際に身につけたタマサイやシトキとは違って、耳飾りを日常的に身につけていたことがわかる。

児玉作左衛門らによる『アイヌ民族誌』(児玉1969)の中に、「外国人のアイヌ調査」として、17世紀前半のイタリア人宣教師として知られるGirolamo de Angelisを始め、19世紀後半のThomas Wright Blakistonら30人の調査記録概要の記載があるが、調査者の多くが耳飾りについて言及し、「3装身具一耳輪は約二掌幅の長さ

の銀製の輪である。これがないときには、男女とも約一掌幅の長さの絹紐をさげる」(児玉ほか1969:43)や「2衣服(中略)男女とも日本人から入手した銀の耳輪をかけている」(児玉ほか1969:48)のように、調査地で出会ったアイヌの人々が男女共に普段から耳飾りを身につけていたことに関する記述が見られる。

大きさは5~7cm台のもの、重さは10g台のものももっとも多いとされ(児玉1969)、今回の調査でもこれらに近い結果が得られた。材質は、銀製・真鍮製・鉛製などの金属製が多いとされているが、詳しい材質分析はあまり行われていない。

以下では、第一に先行研究とその課題をまとめ、第二に分類型式および種類を提示し、第三では本稿の対象資料概要と調査の方法について述べ、第四に型式を用いた分析を行い、第五で考察とまとめを行う。

1 先行研究と課題

アイヌ民族の耳飾りについては、『アイヌ民族誌』(児玉ほか1969)や『アイヌ芸術 第1巻 服装編』(金田一・杉山1973)などで概要や大まかな型式についての記述にとどまり、詳細な型式分類や型式ごとの編年、素材の分析などはあまり行われてこなかった。以下に代表的な論考を挙げる。

・『アイヌ芸術 第1巻 服装編』 金田一京助・杉山壽榮男 1941

アイヌ民族の美術・工芸について、服装・木工・金工と漆器の3巻に分けて記したうちの服装編である。耳飾りについては、アイヌの服装の一部として写真図版を元におおまかではあるが網羅的に説明している。主成分は真鍮・鉛・銀であるとし、飾りとして金属製・ガラス玉・赤い布などが確認できると述べている。埋葬時の耳飾りがもつ役割などについての記載が見られる。

・『アイヌ民族誌』 児玉作左衛門ほか 1969

デ・アンジェリスが書いた『蝦夷国報告書』1621の記録を例に、耳飾りの材質・法量・形態について簡潔に説明している。児玉は耳飾りの形態を、1渦巻き状にしたもの、2金属製の飾りをつけたもの、3アイヌ玉をつけたもの、4装飾端を直角に曲げて、それに金属製またはアイヌ玉をつけたもの、5耳輪に朝鮮系統の鈴を下げたもの、の5つとしてはじめて体系的に分類している。また、直径が10cm以上の大きめの耳飾りの存在に対して、1880年代の中国福建省の女性らが同様の大きめの耳輪を用いていたことを挙げ、その類似性についての検討が必要であることを指摘している。

・『アイヌの民具』 萱野茂 1978

アイヌ民族が日常的に用いていた民具として、生活用具を309種類、施設を16種類、それらの材料100種類以上、食品を26種類、図や写真を交えながら説明したものである。耳飾りの項目では、年齢や性別に関係なく身につけられたものとし、特に耳飾りをつけるため、耳たぶに穴をあける手順について、参考となる民族誌的な情報の記載がある。耳飾りの主な材質としては、真鍮、鉛、銀を挙げている。

・「ニンカリ（耳飾り）について」 藪中剛司 1994
『アイヌ民族博物館研究報告 第4号』

アイヌ民族博物館の研究報告による。藪中はこの中で、耳飾りをアイヌの装身具の一つとして位置づけ、文献記録やその属性といった側面から考察を述べている。

文献記録については、初めにアイヌ自身の記録ではないと記した上で、江戸時代初期に日本に渡来した外国人や、松前藩、幕府、国内の学者など様々な階層の人々によって記録された資料を対象にしている。

文中では、アイヌの耳飾りが文献にみえる最も古い記録は、1621年（元和7年）に蝦夷地に渡ったとされるイタリア人の神父デ・アンジェリスが送った『蝦夷国報告書』であることや、近世における耳飾りについての記録として、1878年に北海道を訪れたアメリカの動物学者E・S・モースによる『日本その日その日』や、1922年に北海道庁より発行された『舊土人に関する調査』など

を挙げている。さらに、近年行われていたアイヌ民族への聞き取り調査等も参考にしている。

前述の児玉（1969）による耳飾りの形態分類を参考にして、耳飾りの型式分類を行なっている。まず、I型（平面形態が円形をなし、端部が外に向かない）、II型（平面形態が円形をなし、一端が外に出る）、III型（I型、II型以外のもの）の3種類に分け、それらをさらにa型（飾りのないもの）、b型（金属製の飾りのつくもの）、c型（ガラスまたは石製の飾りのつくもの）、d型（金属製とガラス製など素材の違う飾りがつくもの）、の4つに分類している。

これらを通して、耳飾りの使用法やそれに伴い受け継がれている慣習や技法があることを明らかにし、文献的側面からみた耳飾りは少なくとも17世紀前半から350年以上にわたって存在していることを示した。また、さらなる理解を深めるために考古学的調査や、サハリン・大陸の諸民族との交易・交流の関係を明らかにする研究の必要性を指摘している。

・「ニンカリの物質文化的研究」 藪中剛司・宮地鼓・山道陽輪 2018『アイヌ関連総合研究等助成事業研究報告書』

藪中（1994）が示した分類を基礎として、蛍光X線による化学組成分析を加えたものであり、本稿にとって最も直接的な先行研究として位置付けられよう。

藪中らは、資料自体がもっている様々な属性を分析することによって、新たな視点からの資料像を描き出そうとする試みとして、化学分析手法を取り入れ、金属製飾りが「薬缶の蓋の把手」である可能性を提示した。

ただし、蛍光X線分析を行ったのは伝世資料20点のみであり、耳飾りの具体的な工法等にはあまり触れていない。

2 分類型式および種類について

本稿では耳飾りの形状に注目し分類を行うため、藪中（1994）の分類に依拠し、その型式と飾りの種類を次のように定めた。

【型式】

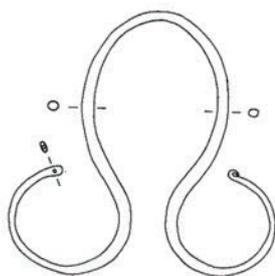
耳飾りの型式は、前述の図1に示されるように耳飾りを平面的に捉えた時、その形態がどのような形をとるのかによって分類する⁽¹⁾(図1)。



I型：平面形態が円形をなし
端部が外に向かない



II型：平面形態が「？」形をなす



III型：平面形態が「Ω」形をなす

- ・その他：平面形態がI型、II型、III型以外を示すもの
- ・不明：報告書記載の出土品などにおいて実測図または写真等が存在せず、ニンカリの型式が確認できないもの

図1 耳飾りの型式

III型は、今回の調査において出土資料のみに確認される型式であったが、これを耳飾りの一型式として定めた根拠は遺物の出土状況により、III型を示す耳飾りは、主に埋葬時の副葬品として出土されており、埋葬者の頭部

から出土する例が多く確認されるためである。

【種類】

耳飾りの種類は、飾りの有無、さらに飾りの有する耳飾りについては、材質的な観点からみた飾りの種類の分類を行なった。

- a：飾りのないもの
- b：金属製の飾りのつくもの
- c：ガラス玉飾りのつくもの
- d：その他の素材でできた飾りがつくもの

不明：報告書記載の出土品などにおいて、実測図または写真などから飾りがあることは確認できるが、その材質は不明のもの

【その他の分類】

その多様さと該当数の少なから集計表の項目には追加しなかったが、金属製の飾りとガラス玉飾りを有する耳飾りについて、飾りの模様や形状についての分類例を挙げた。

① 金属製飾り分類例

飾り玉の形状から「丸、アーモンド、棗、ミカン玉、金属製透かし玉、桜、小判、ひょうたん、花、その他」の10種類の分類例をもうけた（資料篇 図版1）。

〈丸〉

平面形態が正円を示す球体の飾りである。柄や模様はないものがほとんどだが、側面に草花の模様が施されたものもある。中には外径部分にうっすらと線が見られるものも存在し、半球状に製作したパーツを接合し球状に形成していることが推測される。II型の耳飾りの飾りとして用いられることが多い。

〈アーモンド〉

平面形態がアーモンド型を示し、両端に向けて先細る飾りである。側面にはヘチマやぶどうのように思われる植物や、鳥などの模様が描かれているものが多い。丸と同様に、側面には接合線が見られるものがある。〈丸〉に対して、I型の飾りとして用いられることが多い。

〈棗〉

平面形態が棗の果実型を示す飾りである。側面には草花の模様が施されたものもある。外径部分には接合線が見られる。

〈ミカン玉〉

剥きミカンの様相を示す。外径部分に接合線があり、接合が外れているものもある。圧力や衝撃による歪みが原因か。

(1) 型式・種類の分類については、I型およびII型を数中（1994）分類に依拠し、III型については新たに筆者が定めた。

〈金属製透かし玉〉

苦33に見られるような、針金素材で作られた透かし玉をベースに、側面に切れ込みや穴の開いている飾りをまとめて金属製透かし玉とした。切れ込みには苦24のように桜の花びらをかたどったものも見られる。どの個体も外径部分に接合線がある、あるいは外径部分で上下に分離しており、半球状に作られたパーツを2個組み合わせることで製作されていることがうかがえる。中は全て空洞である。

〈桜〉

耳飾りの輪の一端を平面状に伸ばし、桜の花の形に加工したものである。苦18aや苦70aのように桜の花型にかたどられたものと、苦72aのように円盤の上に桜の花が浮き彫りになっているものがあるが、まとめて桜と定めた。花の中央には、雄しべ、雌しべの様子が線彫りされている。表裏とも同じ模様である。

〈小判〉

平面形態が小判のような縦長楕円の様相を示す。両面には苦25aや苦100aのように蝶や竹などの浮き彫り模様が描かれている。模様は表裏で異なる。

〈ひょうたん〉

北大植物園の収蔵番号72のように飾りの形式自体がひょうたん型を示し、中央には百合などの植物模様が浮き彫りで描かれる。模様は表裏で異なる。

〈花〉

菊のような花を模した飾りである。縁は花びらの外形が加工され、表面には花びらが線彫りされている。

〈その他〉

その他として例外的なものをまとめた。

苦75aは、外径部分に飾りの本体とは材質の異なる帯状の装飾があり、その帯の両端に沿うように線彫り模様が施されている。丸やミカン玉飾りのように、半球状のパーツを組み合わせて製作されたと仮定すると、帯状の装飾は接合線を隠すためのものとも考えられる。

苦78aは、本体の輪の一端を勾玉状に薄く伸ばした上に、2種類の大きさの半球状の装飾を5個配置したものである。苦78はI型であり、勾玉状の飾りはI型によく見られる「みみ」の変形である可能性も考えられる。また、蛍光X線装置による材質分析を行った結果、本体の延長である勾玉状の部分と、それに付属する半球状の装飾は異なる材質であることがわかった。

② ガラス玉飾り分類例

ガラス玉飾りの分類例として、形状から丸玉、平玉、

その他の大きく3つに分類し、それらを色・模様によって細かく分類した(資料篇 図版2)。

3 調査方法および対象資料について

本稿を論じるために対象とした資料は、博物館等施設に収蔵されている伝世資料および出土資料に位置付けられる耳飾りである。また、出土資料については、北海道内の各地域から刊行された発掘調査の報告書等から集めた88点も対象とし、分析を行った。

調査に先立ち、博物館等が刊行している資料目録や展示会図録、『北海道内の主要アイヌ資料の再検討』(佐々木他 2008)、発掘調査報告書などを参考にして、ある一定量のまとまった耳飾りの一括資料を所蔵する以下の館に協力を依頼し、現地調査を行った⁽²⁾。

2016年度

- ・ 苫小牧市美術博物館 (以下、苫小牧市博)
- ・ 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 植物園・博物館 (以下、北大植物園)
- ・ 余市水産博物館

2019年度

- ・ 早稲田大学會津八一記念館 (以下、會津八一記念館)
- ・ 旭川市博物館
- ・ 北海道博物館

調査方法として、現地調査においては耳飾りの型式分類や写真撮影、法量計測を行い、一部の資料については蛍光X線装置を用いた材質分析を行った。型式分類の詳細は次章で述べるが、伝世資料については、左右1組のセットで型式をカウントし⁽³⁾、出土資料は左右の関係が不明なものも多いことから、組としてカウントせず、資料の点数ごとにカウントした。調査終了後、現地地で得たデータを元に図表等を作成した。法量計測では、耳飾り全体のタテ(①全長、②輪のみ、の2種類)、ヨコ、厚さ(耳との接触部分(接点)、耳たぶへの挿入部分(先)、の2種類)、重さの計測を行なった。飾りのある耳飾りは、飾りの一つ一つに対してもタテ・ヨコの計測を行なった。単位は、cmとgで統一し、計測には定規、メジャー、ノギス、電子計り(最小1g、秤量4kg)を使用した。

なお、耳飾りの各部における名称は戴中氏がつけた名称を参考にした。各部名称および法量等計測箇所につい

(2) 現地調査は、2016年度と2019年度に分けて行ったものである。

(3) 北大植物園の収蔵番号71のように、2組セットで登録されているものについては、1組ごとに型式を分類した。

ては図2の通りである。

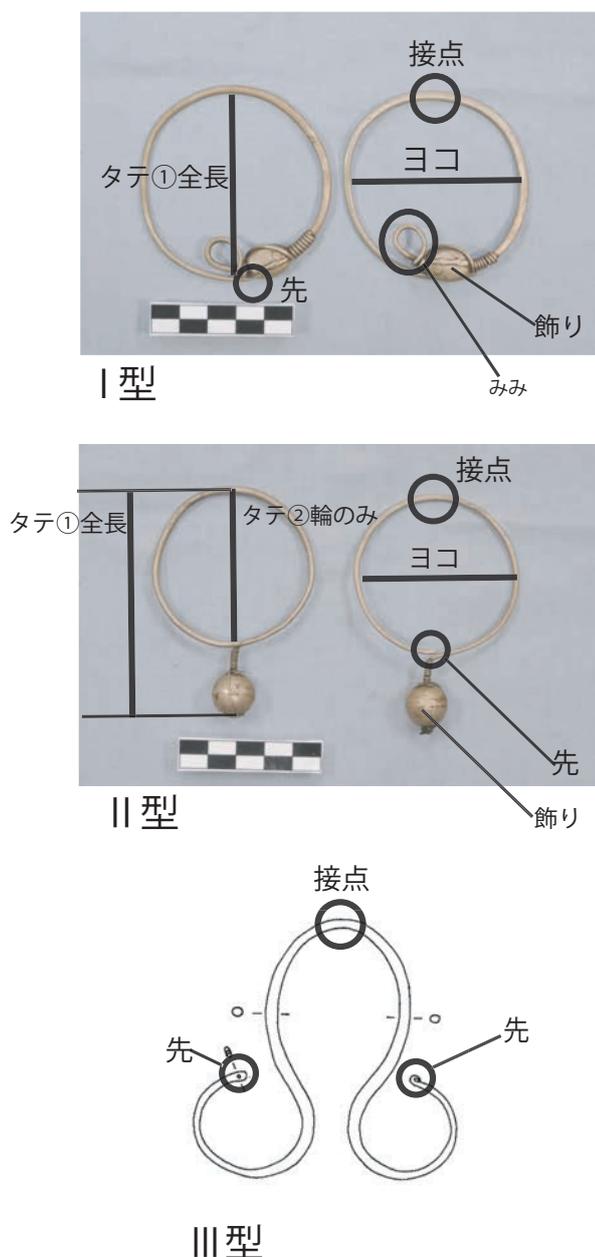


図2 耳飾りの各部名称および計測箇所

以下には、調査の方法のうち耳飾りの材質分析のために行った蛍光X線装置による分析の方法詳細と調査を行った機関およびその機関が所蔵する耳飾り資料の概要を述べる。

【蛍光X線装置による材質分析】

耳飾りの材質分析については、所蔵機関からの許可を頂いた上で、苫小牧市博、北大植物園、余市水産博物館所蔵の資料について、エネルギー分散型ハンドヘルド蛍光X線分析装置 (Handheld Element Analyzer, DELTA Premium, 日本電子) (以下、蛍光X線装置) を用いた定性分析を行なった。検出できる元素はFe、Cu、Zn、Ag、Sn、Pb、などの標準的な元素のほか、大気中においても軽元素 (Mg、Al、Si、P、S) の検出が可能である。X線管のターゲットは4WRh、管電圧40kV、管電流200 μ A (最大)、X線照射径10mm、測定時間は一箇所につき20秒である。

測定箇所は一つの資料に対して1~2箇所であり、具体的に、耳飾りの本体部分と、金属製の飾りを有するものには飾り部分についての測定を行なった。また、左右で意匠が同じ耳飾りについては、一部例外を除き、左右のうちより状態の良い方を選択して測定を行なった。

測定箇所は、耳飾りの一番太い箇所、飾りがある場合は、飾りの中央を計測した。調査に際し、蛍光X線装置を手を持ったまま測定を行うと資料に接触し資料を傷つける恐れがあり、加えて正確な測定値が得られないことが予想された。そのため、測定の際には蛍光X線装置を固定する台を用いて、その中に資料を置くことで耳飾りの材質分析を行なった。

北大植物園資料について、機材の不調により、収蔵番号70, 72, 15386, 38367, 38369の5組については蛍光X線のデータが得られなかったが、それ以外の資料については問題なくデータを得ることができた。

余市水産博物館での出土資料調査について、伝世資料はその調査数が多く、蛍光X線装置による材質分析では、2個1組の耳飾りのうちはより状態の良い個体を優先して計測したのに対し、出土資料は対象数が少なく、より正確なデータを得るために蛍光X線分析では調査対象である12組16個全ての計測を行なった。その際、調査による更なる欠損などが予想される場合は、資料の保存を最優先し、法量等の計測を取りやめた。

調査終了後、現地で得たデータを元に検出元素一覧表を、また、それらを示す蛍光X線スペクトルグラフを作成した。スペクトルグラフでは、Intensity (CPS) が3,000以上の元素をカウントし、一覧表にはそれらの元素を含有量の多い順に記載している。

なお、材質分析では、清水・村岸 (2011) および榎本・小見 (1987) を参考にした。

【所蔵機関と対象資料概要】

(1) 苫小牧市博の資料

苫小牧市博所蔵の耳飾り資料については、一部個人からの寄贈を除き、その大部分が専門業者からの購入資料である。現地調査では、所蔵の耳飾り106組のうち105組についての調査を行なった。現地調査を行った際、収蔵番号が不確かであり、かつ左右の組み合わせも不一致と思われる資料が存在したため、本稿では、調査先博物館の頭文字とアラビア数字の組み合わせで1組（とされていた）ごとの番号を振り、写真図版向かって左側をa、右側をbと定め「苫1a、苫1b、苫2a、苫2b、苫3a、苫3b、…」のように整理した。そのため、本稿においては、苫小牧市博所蔵の耳飾り全点の写真を資料篇に示す（資料篇 図版3～16）。

(2) 北大植物園の資料

北大植物園では、アイヌ民族を中心とした北方地域の諸民族の文化資料約25,000点を所蔵しており、それらの資料は開拓使の時代に収集されたものや、名取武光らによって昭和初期に収集されたものが中心となっている。現地調査では、北大植物園所蔵の耳飾りのうち18点19組についての調査を行なった。点数よりも組の数が多いのは、北大植物園 収蔵番号71が左右それぞれ違う型式の耳飾りが組み合わされているためである（図3）。



図3 北大植物園 収蔵番号：71

『北海道大学植物園アイヌ資料目録』（加藤 2008）に掲載されている資料情報は、収集年や収集地、収集者の情報が付与されているものがあり、それについては表中の備考の欄で示し、出典が上記の目録であることがわかるように『目録』：「～～～」と記載した。資料の名称は、この『目録』の名称を記載しているが、法量については、筆者が現地調査で得た値を示している。本稿にて型式分類を行う上で、収蔵番号71のように2組セットで登録さ

れている資料については1組ごとに分類を行い、「71①」と「71②」の様に区別がつくように示した。

(3) 會津八一記念館の資料

會津八一記念館には、土佐林義雄によって蒐集されたアイヌ民具のコレクションが収蔵されている。資料情報としては、土佐林義雄による寄贈コレクションであるということ以上の情報は付与されていない。現地調査では、収蔵されている全耳飾り資料7組についての調査を行った。収蔵番号79の耳飾りには、飾りとしてロシア語が書かれたコイン（メダル）が転用されており、表面には「1889」と「1891」の二つの年号が確認された（図4）。



図4 會津八一記念館 収蔵番号：79

(4) 旭川市博物館の資料

旭川市博物館には、全41組の耳飾りが収蔵されており、そのうち40組については『旭川市博物館所蔵品目録X 民族資料/服飾関係』（旭川市博物館 1999）で報告されている。現地調査では、2019年7月現在で展示中の資料4組を含む41組を対象に調査を行った。

(5) 北海道博物館の資料

現在北海道博物館に収蔵されている耳飾り資料は全63組であり、その大半がアイヌ民具の一括コレクションの構成資料として当館に寄贈されたものである。

(6) 余市水産博物館の資料

報告書集成である程度まとまった量の資料が出土して

いる地域を限定し、北海道余市郡余市町にある余市水産博物館が保管する、入舟遺跡、大川遺跡の2遺跡からの出土資料を対象に調査を行なった。以下は遺跡の概要詳細。

- ・入舟遺跡：余市川河口左岸の川筋平地に所在する。川を挟んだ右岸には大川遺跡が位置する。余市川改修事業に伴って、1995年と1997年の両年度にわたる発掘調査を行う。出土遺物の時期は、縄文中期～近代まで。アイヌ期の耳飾りは、8組12点出土している。
- ・大川遺跡：余市川河口右岸の砂丘面に位置する遺跡である。川を挟んだ左岸には入舟遺跡が位置する。1989年から複数回にわたって行われた発掘調査で、主に、縄文晩期から近代までの墳墓が多数確認されている。アイヌ期の耳飾りは、17点出土している。

入舟・大川の両遺跡からは合計21点の耳飾りの出土が確認されているが、今回、そのうちの12組16点について調査することができた。下記(7)に詳細のある出土資料と共に出土資料一覧を巻末資料篇に示したが、実測図の代わりに写真(資料篇 図版17～18)と計測値(資料篇 図版20)を巻末資料篇にて示す。

(7) 発掘調査報告書等集成の出土資料

上記(6)余市水産博物館の資料に加え、北海道内の埋蔵文化財施設等が刊行した発掘調査報告書等から88点の出土資料を集成し、余市水産博物館所蔵の出土資料と併せて図表を作成した。出土資料一覧として、巻末資料篇に示す(資料篇 図版19～33)。

4 分析

【伝世資料と出土資料の型式組成の比較】

まず、対象資料を伝世資料と出土資料に分けた上、その型式の組成に着目し、比較・検討を行った。

今回調査した伝世資料は全243組であり、その全てがI型とII型の二つの型式に分類された(図5-1)。

出土資料については、余市水産博物館での現地調査分と報告書等からの出土資料集成分の全104点⁽⁴⁾を分析し、伝世品で確認されたI型、II型に加えて、III型、その他、の4つの型式に分類した。その際報告書において実測図

や写真がなくその型式や飾りの種類が確認できなかったものは不明とした(図5-2)。これら二つの図から、伝世資料ではI型・II型の比率がほぼ拮抗しているのに対し、出土資料ではI型が最も多く、次いでIII型、II型という割合を示すことが確認された。III型については、出土状況からI型・II型よりも古く、より新しい時期にはI型が多く、その後II型を伴う比率に変化していったことが考えられる。

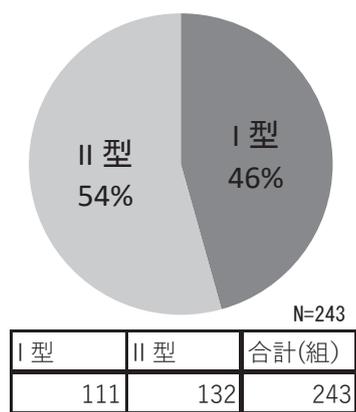


図5-1 伝世資料の型式組成

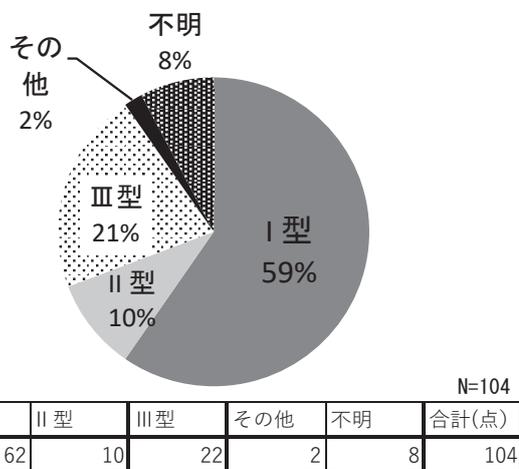
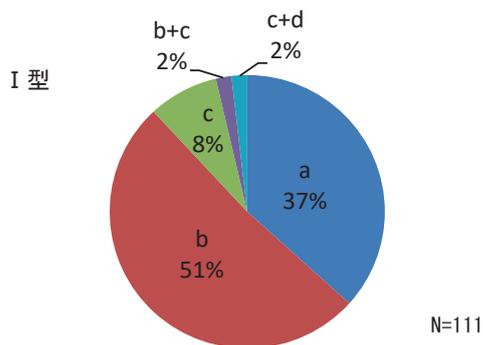
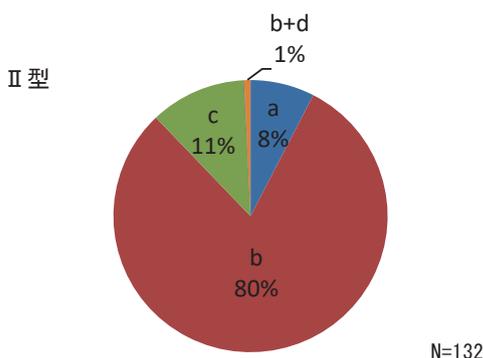


図5-2 出土資料の型式組成

(4) 出土資料については、現地調査を行ったものが少なく、また図や写真がないものも多いため、報告書等からの集成については2点1組での分析ではなく、全点を分析対象とした。

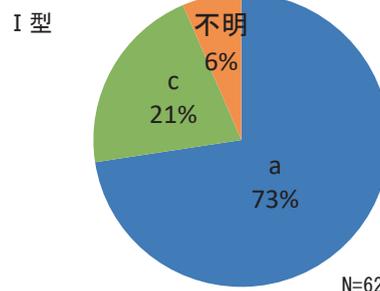


a	b	c	b+c	c+d	d	合計(組)
40	56	9	2	2	2	111

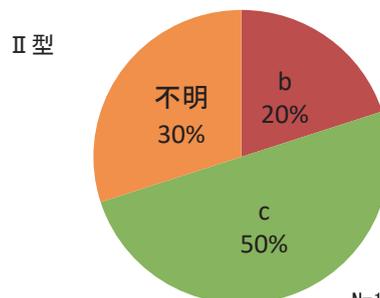


a	b	c	b+c	c+d	b+d	合計(組)
10	106	15	0	0	1	132

図6-1 伝世資料の型式別種類組成



a	c	不明	合計(点)
45	13	4	62



b	c	不明	合計(点)
2	5	3	10

III型

a	合計(点)
22	22

その他

a	合計(点)
2	2

不明

a	不明	合計(点)
1	7	8

図6-2 出土資料の型式別種類組成

伝世資料の型式ごとの種類の組成を検討した結果、I型とII型共に6割以上が何らかの飾りを持つ耳飾りであることが分かり、中でも「b金属製の飾りを有する耳飾り」が占める割合が非常に多いことから、伝世資料において飾りの材料としてもっとも広く使用されたのは、「b金属製の飾り」であることが確認された(図6-1)。このようにI bの形態を示す耳飾りは伝世資料に多く見られ出土資料では見られないことから、比較的新しいタイプであることが考えられる。

また、伝世資料のII型でわずかに8%、数にして10組確認された「a飾りのない耳飾り」は、苦32(資料篇 図版6)や苦41(資料篇 図版8)からわかるように、飾りが取れた痕跡が認められ、もともと何らかの飾りがついていたことが考えられる。

出土資料の型式ごとの種類の組成を見ると、伝世資料とは異なる結果を示した(図6-2)。出土資料のI型では約4分の3にあたる73%(45個)が「a飾りのない耳飾り」であり、21%を示す「cガラス玉飾り」がそれに続き、「b金属製の飾りを有する耳飾り」は確認されなかった。

出土資料のII型では、「cガラス玉飾り」に続き、「不明」、「b金属製の飾りを持つ耳飾り」が見られ、「a飾り

のない耳飾り」は確認されなかった。II型ではその絶対数が少ないため不確定な要素が多いものの、伝世資料同様、何らかの飾りをつけた耳飾りが多いことが確認できた。

伝世資料との大きな相違点として、平面形態がΩ型を示すIII型が22点確認され、その他の型式として、2点の耳飾りを確認したが、その全てが「a飾りのない耳飾り」であることが分かった。しかし、資料篇 図版27-54, 55や同図版28-64, 図版33-102, 103のように本体の両端に穴や切れ込みなどの加工が施されている耳飾りが存在し、III型の耳飾りも何らかの飾りを有していた可能性が考えられる。型式不明は「a飾りのない耳飾り」が1個、飾りの種類も不明が7個であった。

【工法】

工法に注目すると、I型とII型の両方ともに基本の構造は一本の針金状金属であり、その一端に飾りを通し、針金の先を細くしながら飾りの側面を通し本体に巻きとめるものであることが分かる（図7）



旭川市博物館 収蔵番号 4842



旭川市博物館 収蔵番号 5809

図7 一本の針金状金属を用いた飾りの止め方

そのほか、II型については一部、飾りの下に押さえのための金具がついているものや針金状の本体の先がT字の形状になって飾りを押さえるものも確認される（図8）。



北海道博物館 収蔵番号 32820

図8 飾りの押さえがT字状のもの

さらに、耳飾り本体の両端またはどちらか片方の先端に針穴のような穴が開いている資料も一定量確認され、何かほかのものからの転用あるいは耳飾りを製作する上で針金状の本体を一定の規格に基づいて切り落とすための目印として穴が開けられていた可能性が考えられる（図9）。



旭川市博物館 収蔵番号 4840

図9 本体の先端に穴があいている耳飾り

【材質分析】

蛍光X線分析装置を用いて、苫小牧市博と北大植物園、余市水産博物館所蔵の耳飾りについての材質分析を行った。計測場所として、耳飾りの本体と金属製の飾りの計測を行った。計測で得たデータを元に計測した全資料の

蛍光X線スペクトル図（資料篇 図版34～56）を作成し、分析を行った。

以下には、スペクトル図からの検出元素一覧を示した（表1）。

表1 蛍光X線分析による検出元素一覧

苫小牧市美術博物館1

資料番号	測定箇所	検出元素				測定箇所	検出元素			
苫1a	本体	Ag	Cu			飾り	Ag	Cu		
苫2a	本体	Cu	Zn	Ni	Ag	飾り	Cu	Zn	Ni	Ag
苫3a	本体	Cu	Zn	Ni	Ag	飾り	Cu	Zn	Ni	Ag
苫4b	本体	Cu	Zn	Ni	Ag	飾り	Cu	Zn	Ni	
苫5b	本体	Cu	Zn	Ni	Ag	飾り	Cu	Zn	Ni	
苫6a	本体	Cu	Ni	Zn	Ag	飾り	Cu	Zn	Ni	Ag
苫7a	本体	Cu	Ni	Zn	Ag	飾り	Cu	Zn	Ni	Ag
苫8a	本体	Cu	Ni	Zn	Ag	飾り	Cu	Ni	Zn	Ag
苫9a	本体	Ag	Cu							
苫10a	本体	Ag	Cu							
苫10b	本体	Cu	Zn	Ag						
苫11a	本体	Ag								
苫11b	本体	Cu	Ni	Zn	Ag					
苫12a	本体	Ag	Cu			飾り	Cu	Ag	Zn	
苫13a	本体	Cu	Zn	Ni	Ag	飾り	Cu	Zn	Ni	Ag
苫14	本体	Cu	Zn	Ni	Ag	飾り	Cu	Zn	Ni	Ag
苫15a	本体	Cu	Zn	Ni	Ag	飾り	Cu	Zn	Ni	
苫16a	本体	Cu	Zn	Ni	Ag	飾り	Cu	Zn	Ni	Ag
苫16b	本体	Cu	Zn	Ni	Ag	飾り	Cu	Zn	Ni	Ag
苫17	本体	Cu	Ag	Zn						
苫18a	本体	Cu	Ni	Zn	Ag	飾り	Cu	Zn	Ni	Ag
苫19a	本体	Cu	Zn	Ni	Ag	飾り	Cu	Ni	Zn	Ag
苫19b	本体	Cu	Zn	Ni	Ag	飾り	Cu	Ni	Zn	Ag
苫20a	本体	Cu	Ag	Zn		飾り	Cu	Ag	Zn	
苫20b	本体	Cu	Ni	Zn	Ag					
苫21a	本体	Cu	Zn	Ni	Ag	飾り	Cu	Zn	Ni	Ag
苫21b	本体	Cu	Zn	Ag		飾り	Cu	Zn	Ni	Ag
苫22	本体	Cu	Ni	Zn	Ag	飾り	Cu	Zn	Ni	Ag
苫23	本体	Cu	Zn	Ni	Ag	飾り	Cu	Ni	Zn	Ag
苫24	本体	Ag	Cu			飾り	Ag	Cu	Zn	
苫25a	本体	Cu	Ni	Zn	Ag	飾り	Cu	Ni	Zn	Ag
苫26a	本体	Cu	Ni	Zn	Ag					
苫27a	本体	Cu	Ag	Zn						
苫27b	本体	Ag	Cu							
苫28	本体	Ag	Cu							
苫29	本体	Cu	Ni	Zn	Ag					
苫30	本体	Cu	Zn	Ni	Ag					
苫31	本体	Cu	Zn	Ni	Ag					
苫32a	本体	Cu	Ag	Zn						

資料番号	測定箇所	検出元素				測定箇所	検出元素			
苫33	本体	Ag	Cu	Zn		飾り	Ag			
苫34	本体	Cu	Zn	Ni	Ag					
苫35a	本体	Sn	Ag							
苫36	本体	Ag	Cu							
苫37a	本体	Cu	Zn	Ag						
苫38a	本体	Ag	Cu							
苫39	本体	Cu	Ni	Zn	Ag					
苫40	本体	Cu	Ni	Zn	Ag					
苫41	本体	Cu	Zn	Ag						
苫42	本体	Cu	Ag	Zn						
苫43	本体	Ag	Cu			飾り	Sn	Ag	Cu	Pb
苫44	本体	Cu	Zn	Ag	Ni					
苫45	本体	Ag	Cu							
苫46	本体	Cu	Ni	Zn	Ag					
苫47	本体	Cu	Ni	Zn	Ag					
苫48a	本体	Cu	Ni	Zn	Ag	飾り	Cu	Ni	Zn	Ag
苫49a	本体	Cu	Ni	Zn	Ag	飾り	Cu	Ni	Zn	Ag
苫50a	本体	Cu	Zn	Ni	Ag	飾り	Cu	Zn	Ni	Ag
苫51a	本体	Cu	Zn	Ni	Ag	飾り	Cu	Zn	Ni	Ag
苫52a	本体	Cu	Zn	Ag		飾り	Cu	Zn	Ag	
苫53a	本体	Cu	Zn	Ni	Ag	飾り	Cu	Zn	Ni	Ag
苫54a	本体	Cu	Zn	Ni	Ag	飾り				
苫55a	本体	Cu	Ni	Zn	Ag	飾り	Cu	Zn	Ni	Ag
苫56a	本体	Ag	Cu	Zn		飾り	Sn	Ag	Cu	
苫57a	本体	Cu	Ni	Zn	Ag	飾り	Sn	Ag		
苫58a	本体	Cu	Zn	Ni	Ag	飾り	Cu	Zn	Ag	
苫59a	本体	Cu	Zn	Ni	Ag					
苫60a	本体	Cu	Zn	Ni	Ag	飾り	Cu	Ni	Zn	Ag
苫61a	本体	Cu	Ag	Zn		飾り	Sn	Ag	Cu	Pb
苫62a	本体	Cu	Ni	Zn	Ag	飾り	Cu	Ni	Zn	Ag
苫63a	本体	Cu	Ni	Zn	Ag					
苫64a	本体	Cu	Ni	Zn	Ag	飾り	Cu	Zn	Ni	Ag
苫65a	本体	Cu	Zn	Ni	Ag	飾り	Cu	Zn	Ni	Ag
苫66a	本体	Cu	Zn	Ni	Ag	飾り	Cu	Zn	Ni	Ag
苫67b	本体	Cu	Zn	Ni	Ag					
苫68a	本体	Cu	Ag	Zn		飾り	Sn	Cu	Ag	Zn
苫69a	本体	Cu	Zn	Ni	Ag	飾り	Cu	Ni	Zn	Ag
苫70a	本体	Cu	Zn	Ni	Ag	飾り	Cu	Zn	Ni	Ag
苫71a	本体	Cu	Ag	Zn		飾り	Cu	Ni	Zn	Ag

苫小牧市美術博物館2

資料番号	測定箇所	検出元素				測定箇所	検出元素			
苫72a	本体	Ag				飾り	Ag			
苫73a	本体	Cu	Ag	Zn	Ni	飾り	Cu	Zn	Ni	Ag
苫73b	本体	Cu	Zn	Ni	Ag	飾り	Cu	Zn	Ni	Ag
苫74a	本体	Cu	Ag	Zn		飾り	Ag	Cu	Zn	
苫75a	本体	Cu	Zn	Ni	Ag	飾り	Cu	Zn	Ni	Ag
苫76a	本体	Cu	Zn	Ni	Ag	飾り	Cu	Zn	Ni	Ag
苫77a	本体	Cu	Ni	Zn	Ag	飾り	Cu	Ni	Zn	Ag
苫78a	本体	Cu	Ag	Zn		飾り	Sn	Cu	Ag	Zn
苫79a	本体	Cu	Ni	Zn	Ag					
苫80a	本体	Ag	Cu	Zn						
苫81a	本体	Cu	Zn	Ag						
苫82a	本体	Ag	Cu			飾り	Cu	Ni	Zn	
苫83a	本体	Cu	Zn	Ni	Ag	飾り	Cu	Zn	Ni	Ag
苫84a	本体	Cu	Zn	Ni	Ag					
苫85a	本体	Ag	Cu	Zn		飾り	Ag	Cu	Zn	
苫85b	本体	Ag	Cu	Zn		飾り	Ag	Cu	Zn	
苫86a	本体	Cu	Zn	Ni	Ag	飾り	Cu	Ni	Zn	Ag
苫87a	本体	Cu	Zn	Ni	Ag	飾り	Cu	Ni	Zn	Ag
苫88a	本体	Cu	Ni	Zn	Ag	飾り	Cu	Zn	Ni	Ag
苫89a	本体	Cu	Ag	Zn						
苫90a	本体	Cu	Ag	Ni	Zn					
苫91a	本体	Cu	Ni	Zn	Ag					
苫92a	本体	Cu	Ag	Zn						
苫93a	本体	Cu	Ag	Zn						
苫94a	本体	Cu	Zn	Ag	Ni	飾り	Cu	Zn	Ni	Ag
苫95a	本体	Cu	Zn	Ni	Ag	飾り	Cu	Zn	Ni	Ag
苫96a	本体	Cu	Ag	Zn		飾り	Cu	Ag	Zn	
苫97a	本体	Cu	Zn	Ni	Ag	飾り	Cu	Zn	Ni	
苫97b	本体	Cu	Zn	Ni	Ag	飾り	Cu	Zn	Ni	Ag
苫98a	本体	Cu	Zn	Ni	Ag	飾り	Cu	Zn	Ni	Ag
苫98b	本体	Cu	Zn	Ni	Ag	飾り	Cu	Zn	Ag	
苫99a	本体	Cu	Zn	Ni	Ag	飾り	Cu	Zn	Ni	Ag
苫100a	本体	Cu	Ni	Zn	Ag	飾り	Cu	Zn	Ni	Ag
苫101a	本体	Cu	Zn	Ni	Ag	飾り	Cu	Zn	Ni	Ag
苫102a	本体	Cu	Ni	Zn	Ag					
苫103a	本体	Cu	Zn	Ni	Ag	飾り	Cu	Ni	Zn	Ag
苫104a	本体	Ag								
苫105a	本体	Cu	Zn	Ag						

北大植物園

資料番号	測定箇所	検出元素				測定箇所	検出元素			
71①	本体	Cu	Ni	Zn						
71②	本体	Cu	Ag	Zn						
73①	本体	Cu	Ag	Zn		飾り	Sn	Ag		
73②	本体	Cu	Zn	Ag	Ni					
74	本体	Cu	Ni	Zn						
26274	本体	Cu	Ag	Zn						
38362	本体	Ag	Cu	Zn						
38363	本体	Ag	Fe			飾り	Cu	Ni	Zn	Ag
38364	本体	Cu	Zn	Ag						
38366	本体	Cu	Ni			飾り	Cu	Zn	Ni	
38370	本体	Ag	Fe	Cu		飾り	Cu	Zn	Ni	
38371	本体	Cu	Ni	Zn	Ag	飾り	Sn	Ag	Pb	Cu
38372	本体	Cu	Ag	Zn		飾り	Cu	Ag	Zn	
38373	本体	Cu	Zn	Ag						

余市水産博物館

資料番号	測定箇所	検出元素				測定箇所	検出元素			
余1a	本体	Ag				飾り	Cu	Ag	Fe	
余1b	本体	Ag				飾り	Cu	Ag	Fe	
余2a	本体	Ag								
余2b	本体	Ag								
余3a	本体	Ag								
余3b	本体	Ag	Fe							
余4a	本体	Ag	Fe							
余4b	本体	Ag								
余5	本体	Cu	Fe	Ag						
余6	本体	Cu	Ag	Fe						
余7	本体	Cu	Ag	Fe						
余8	本体	Cu	Ag							
余9	本体	Ag								
余10	本体	Ag								
余11	本体	Ag								
余12	本体	Ag	Fe							

Fe: 鉄 Ag: 銀
 Ni: ニッケル Sn: スズ
 Cu: 銅 Pb: 鉛
 Zn: 亜鉛 ※原子番号順
 ※検出元素の記載順は左から検出量が多い順

伝世資料の耳飾りの本体の材質では、主に、銅（以下Cu）を主成分とし、亜鉛（以下Zn）、ニッケル（以下Ni）を加えた合金である洋銀（洋白やジャーマンシルバーともいう）やニッケルメッキ加工を施したのものもっとも多く確認された。洋銀は、銀（以下Ag）やスズ（以下Sn）を混入することもあるため、Cuを主成分とし、Zn、Ni、Agなどの元素から構成される耳飾りの材質もまた、洋銀やニッケルメッキ加工であることがわかる。また、AgとCuの合金である四分一やCuとNiの合金である白銅も一部確認された。

伝世資料の耳飾りの飾り部分の材質も本体と同様にCu、Zn、Niの合金である洋銀がもっとも多く確認され、本体と飾りが同じ素材で作られているものが多いことがわかる。AgとCuの合金である四分一も確認されるが、Snを主成分とするものも本体より多く確認されることが伝世資料の飾りについての特徴である。

出土資料耳飾りにおける蛍光X線分析装置を用いた材質分析は、現地調査を行なった余市水産博物館の16個のみである。耳飾りの本体と飾りの全体を通して、伝世資料に多く見られたZnとNiは確認できず、Agのみの耳飾りやAgとFeの合金を素材とした耳飾りなどAgが主成分であるものが多いことがわかった。

報告書より集成した耳飾りの材質が判明しているものは限られているが、AgやCu、Pb、Snが確認される。特に、Ⅲ型の耳飾りには、富里2やヲチャラセナイ出土の資料篇 図版22-24~26、ユカンボシC15の図版27-52、53のように、Snが含まれるものが多く存在する。

5 考察

本論文では、伝世資料として全243組、出土資料として全104点の耳飾りの分析を行った結果、Ⅰ・Ⅱ型ともに、それぞれの中では出土資料と伝世資料に型式学的な差異が認められないため、共伴資料や近くに出土した炭化物の年代で推定可能なものを取りあげ「耳飾りの編年案」を作成した（図10）。

まず、擦文から続く13世紀頃には、富里2遺跡、オニキシベ2、など出土品のみ認められるⅢ型の耳飾りが確認される。今回の調査では、15世紀末の大浜中遺跡出土資料を最後にⅢ型は確認されなかった。17世紀半ば頃からは、有珠4遺跡や美々8遺跡低湿度部出土のⅠ型の耳飾りが確認される。有珠4遺跡出土の耳飾りからわかるように、飾りを有する耳飾りもこの頃には既に存在

していたことがわかる。

Ⅱ型の耳飾りは、忍路神社遺跡出土の耳飾りが18世紀半ば頃に確認されるにとどまった。しかし、筆者が現地調査を行なった余市水産博物館所蔵の余2（入舟遺跡出土）の耳飾りが忍路神社の資料と非常に似た形状を示すことと、その年代も共に18世紀である、というように類似点が多いことから、Ⅱ型は少なくとも18世紀には既に存在していたことが確認できた。

耳飾りの材質分析からは、伝世資料ではそのほとんどが主にCu、Zn、Niの合金である洋銀を用いたものやニッケルメッキ加工を施されたもの、AgとCuの合金である四分一であることが判明した。しかし、出土品ではAgを主成分とする耳飾りが多く、一部CuやFeとの合金を素材とする耳飾りも見られたが、洋銀は確認されなかった。Cu、Zn、Niの合金である洋銀やニッケルメッキ技術の成立が19世紀中頃であることから、銀や四分一を素材とした耳飾りよりも、洋銀を用いた耳飾りの方が新しいものであることがわかった。

また、伝世資料では型式別の材質差が確認されなかったのに対し、報告書集成の出土資料ではⅢ型の材質として主にスズ（Sn）が使用されている傾向が認められた。Ⅲ型は、今回の分析においてももっとも古い型式として確認された型式で、素材にスズを用いているが、その後隆盛したⅠ型、Ⅱ型の耳飾りではⅢ型のように耳飾り本体にスズを用いたものは確認されなかった。しかし、伝世資料でⅡ型に分類される耳飾りの飾りの素材として一部Sn製の飾りを用いたものが6組確認され（苦43、56、57、68、北大植物園73①、38371）、それらの耳飾り本体の材質を見ると、銀と銅の合金である四分一を素材としたものが多い⁽⁵⁾ことがわかった。四分一は洋銀よりも古い合金であり、このようにⅡ型のうち、「本体に四分一+飾りにスズ玉」の組み合わせの耳飾りは、19世紀中頃以前から存在するものであることが考えられ、伝世資料の中でも比較的古い年代の資料に位置付けることができる。

さらに、金属製の飾りを持つ耳飾りは、そのほとんどが伝世資料で、材質は洋銀やニッケルメッキを用いたもの、と比較的新しいものであることがわかった。出土資料でも2点のみ本体が銀製の余1a、余1bが確認されたが、遺物年代も「18世紀前後」と洋銀やニッケルメッキの耳飾りと時代が近い。こうしたことから、耳飾りのうち、金属製の飾りを持つものは、18世紀以降に主流となったことが考えられる。

(5) うち1点、苦57のように本体にニッケル（Ni）が確認され、比較的新しい年代と思われる資料があるが、これは、飾りの部分を半田でおさえて止めて加工しているため、現在についているスズ製の飾りは後から付け替えられた可能性が高い。

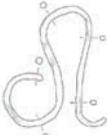
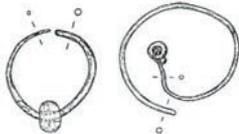
時代区分	世紀	I 型	II 型	III 型	その他	
		アイヌ文化期	前期			 <p>富里 2</p>  <p>オニキシベ 2</p>  <p>大浜中遺跡</p>
	中期	 <p>有珠 4 遺跡</p>  <p>美々 8 遺跡低湿部</p>		 <p>余 2</p>  <p>余 1</p>		
	後期	 <p>オonneベツ川西側台地</p> <p>浜別海遺跡</p>  <p>苫 3</p>  <p>北大植物園 73②</p>	 <p>忍路神社遺跡</p>  <p>苫 43</p>	 <p>苫 55</p>	 <p>福山城下町遺跡</p>	
	20					

図10 耳飾り編年図案

以上のことから、本稿のまとめとして、耳飾りとしてもっとも古くから存在するのはⅢ型であり、13世紀以前に成立してから15世紀後半頃まで存在し、Ⅲ型の材質はスズSn製が主流であったことが確認できた。その後、Ⅲ型に代わるようにして銀や四分一を素材としたⅠ型が17世紀半ば以前に成立、18世紀頃にはⅡ型が成立し、共に明治期以降も主流な型式として確認されるが、そのうち金属製の飾りをもつ耳飾りについては、スズ製の飾りをもつⅡ型の耳飾りとして19世紀頃に登場し、19世紀の中頃以降に洋銀が普及してからはⅠ型・Ⅱ型共に主流となる耳飾りであることが明らかになった。

今回調査対象とした伝世資料は、資料としての背景情報があまりないものが多かったが、蛍光X線による耳飾りの素材を分析したことによって、耳飾りの型式ごとの年代別素材の変化を示すことができた。それによって、Ⅰ型やⅡ型の中でも金属製の飾りを有するもの、洋銀やニッケルメッキ加工を用いた耳飾りは、新しいタイプの耳飾りであるという情報を付与することができた。

加えて、アイヌ文化における耳飾りをより多角的に検証するためには、出土資料を悉皆的に調査する必要がある、報告書等からの集成では材質未計測のものも確認されたため、蛍光X線分析装置によってさらなるデータを蓄積することも今後の研究の課題として挙げられる。

謝辞

本稿は筆者が2016年度に提出した弘前大学人文学部卒業研究「アイヌの耳飾り（ニンカリ）に関する基礎的研究」を基に、新たに調査を行った資料の分析結果を追加し論じるものであり、関根達人（弘前大学人文社会科学部教授）、片岡太郎（同講師）、佐藤里穂（青森県黒石市学芸員）の諸氏・諸先生方には多大なるご指導・ご助力を賜りました。

また、本稿の執筆に際して大坂拓、小川正人、山田伸一（以上、北海道博物館）に多大なご協力およびご教示を賜ったほか、資料所蔵機関の浅野敏昭、中塚風沙（余市水産博物館）、飯岡郁穂（旭川市博物館）、石井友菜（早稲田大学會津八一記念博物館）、加藤克（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園・博物館）、藪中剛司（国立アイヌ民族博物館）諸氏には数々のご協力を賜ったことを記し、末筆ながらお礼申し上げます（敬称略、五十音順）。

本文引用・参考文献

榎本英彦・小見崇 1987. 合金めっき. 日刊工業新聞社.
加藤克 2008. 北海道大学植物園所蔵アイヌ民族資料について－歴史的背景を中心に－. 佐々木史郎・古原敏弘・小谷凱宣編

2008. 北海道内の主要アイヌ資料の再検討(2005年度(平成17年度)～2007年度(平成19年度)日本学術振興会科学研究費補助 基礎研究(B)研究成果報告書 研究代表者: 佐々木史郎・小谷凱宣). 国立民族学博物館.
萱野茂 1978. アイヌの民具. すずさわ書店.
金田一京助・杉山壽榮男 1941. アイヌ芸術 第1巻 服装編. 第一青年社.
佐々木史郎・古原敏弘・小谷凱宣編 2008. 北海道内の主要アイヌ資料の再検討(2005年度(平成17年度)～2007年度(平成19年度)日本学術振興会科学研究費補助 基礎研究(B)研究成果報告書 研究代表者: 佐々木史郎・小谷凱宣). 国立民族学博物館.
児玉作左衛門ほか 1969. アイヌ民族誌上・下. 第一法規出版株式会社.
佐々木利和 2001. アイヌ文化誌ノート. 吉川弘文館.
清水進・村岸幸宏 2011. 絵とき 貴金属利用技術基礎のきそ. 日刊工業新聞社.
杉山壽榮男 1991. アイヌたま(復刻新装版). 北海道出版企画センター.
関根達人 2014. 中近世の蝦夷地と北方交易—アイヌ文化と内国化—. 吉川弘文館.
関根達人 2016. モノから見たアイヌ文化史. 吉川弘文館.
田村すず子 1996. アイヌ語沙流方言辞典. 草風館.
北海道教育庁社会教育部文化課編 1985. アイヌ民俗文化財調査報告書Ⅳ. 北海道教育委員会.
北海道開拓記念館1981. 民族Ⅰ. 北海道開拓記念館収蔵資料目録Ⅰ.
北海道開拓記念館1998. 小倉・北海道観光物産興社・W・カーティスコレクション他資料目録. 北海道開拓記念館一括資料目録第32集.
北海道開拓記念館2003. 旧拓殖館所蔵民族資料コレクション資料目録. 北海道開拓記念館一括資料目録第37集.
北海道開拓記念館2011. 小嶋新三・慧子コレクション資料目録. 北海道開拓記念館一括資料目録第40集.
藪中剛司 1994. ニンカリ(耳飾り)について. アイヌ民族博物館研究報告 第4号. アイヌ民族博物館.
藪中剛司・宮地鼓・山道陽輪 2018. 「ニンカリの物質文化的研究. アイヌ関連総合研究等助成事業研究報告書.

参考URL

北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター植物園
公式ホームページ(2019年12月30日閲覧)
<https://www.hokudai.ac.jp/fsc/bg/>
日本工業標準調査会 公式ホームページ(2019年12月30日閲覧)
<https://www.jisc.go.jp/app/JPS/JPSO0020.html>

出土資料集成 引用報告書等一覧 (五十音順)

厚真町教育委員会 2007. 上幌内モイ遺跡(2).
厚真町教育委員会 2009. 上幌内モイ遺跡(3).
厚真町教育委員会 2010. 厚真町 幌内5遺跡(1)・富里2遺跡・ニタップナイ遺跡(2).
厚真町教育委員会 2011. オニキシベ2遺跡.
厚真町教育委員会 2013. 厚真町 フチャラセナイチャシ跡・フチャラセナイ遺跡.
厚真町教育委員会 2014. フチャラセナイ遺跡. 厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 9.
恵庭市教育委員会 2000. 北海道恵庭市発掘調査報告書 カリンバ2遺跡第VI地点.

- 大場利夫・大井晴男 1973. オホーツク文化の研究I オンコロ
マナイ貝塚.
- 小樽市教育委員会 1996. 忍路神社遺跡. 小樽市埋蔵文化財調査
報告書 第13号.
- 上ノ国町教育委員会 1998. 久末屋敷遺跡. 原歌遺跡 S地点:
111-119.
- 上ノ国町教育委員会 2001. 史跡上之国勝山館跡XXII.
- 釧路市埋蔵文化財調査センター 1994. 釧路市幣舞遺跡調査報
告書 II.
- 児玉作左衛門 1936. 北海道帝国大学医学部解剖学教室研究報
告 1.
- 斜里町教育委員会 1993. オンネベツ川西側台地遺跡発掘調査
報告書. 斜里町文化財調査報告 VI.
- 関根達人 2014. 中近世の蝦夷地と北方交易—アイヌ文化と内
国化—. 吉川弘文館.
- 瀬棚町教育委員会 1985. 南川2遺跡.
- 伊達市噴火湾文化研究所 2009. 有珠4遺跡発掘調査報告書.
- 千歳市教育委員会 1982. 末広遺跡における考古学的調査(下).
千歳市文化財調査報告書 VIII.
- 北地文化研究会 1971. 浜別海遺跡.
- 北海道大学 1956. 北海道大学北方文化研究報告 第11集.
- 北海道埋蔵文化財センター 1997. 美沢川流域の遺跡群XX. 北
海道埋蔵文化財センター調査報告書 第114集.
- 北海道埋蔵文化財センター 2009. 恵庭市西島松2遺跡. 北海道
埋蔵文化財センター調査報告書 第290集.
- 北海道埋蔵文化財センター 2011. 松前町 福山城下町遺跡. 北
海道埋蔵文化財センター調査報告書 第290集.
- 北海道埋蔵文化財センター 2016. 厚真町 ショロマ4遺跡. 北海
道埋蔵文化財センター調査報告書 第322集.
- 室蘭市教育委員会 1971. 室蘭絵鞆遺跡発掘調査概要報告書.
- 余市町教育委員会 1999. 入舟遺跡における考古学的調査.
- 余市町教育委員会 2000. 入舟遺跡発掘調査報告書(1998・1999
年度).
- 余市町教育委員会 2000a. 大川遺跡における考古学的調査II(墓
墳篇1).
- 余市町教育委員会 2000b. 大川遺跡における考古学的調査III
(墓墳篇2).
- 余市町教育委員会 2001. 大川遺跡発掘調査報告書 (1999年
度).
- 羅臼町教育委員会 1981. 植別川遺跡 羅臼町文化財報告 6.
- 稚内市教育委員会 2000. 稚内市泊岸1遺跡.

なお、資料篇図版20～33までは発掘調査報告書等から集成した情報を筆者が編集、図版化し、そのほか、本文および資料篇における図表等は全て筆者が作成した。

アイヌ民族の耳飾りに関する基礎的研究 —国内博物館等収蔵資料を中心として—

資料篇

目次

資料篇 図版1 金属製飾り分類例	資料篇 図版34 蛍光X線スペクトル図/苫小牧市美術博物館 1
資料篇 図版2 ガラス製飾り分類例	資料篇 図版35 蛍光X線スペクトル図/苫小牧市美術博物館 2
資料篇 図版3 苫小牧市美術博物館所蔵耳飾り 1	資料篇 図版36 蛍光X線スペクトル図/苫小牧市美術博物館 3
資料篇 図版4 苫小牧市美術博物館所蔵耳飾り 2	資料篇 図版37 蛍光X線スペクトル図/苫小牧市美術博物館 4
資料篇 図版5 苫小牧市美術博物館所蔵耳飾り 3	資料篇 図版38 蛍光X線スペクトル図/苫小牧市美術博物館 5
資料篇 図版6 苫小牧市美術博物館所蔵耳飾り 4	資料篇 図版39 蛍光X線スペクトル図/苫小牧市美術博物館 6
資料篇 図版7 苫小牧市美術博物館所蔵耳飾り 5	資料篇 図版40 蛍光X線スペクトル図/苫小牧市美術博物館 7
資料篇 図版8 苫小牧市美術博物館所蔵耳飾り 6	資料篇 図版41 蛍光X線スペクトル図/苫小牧市美術博物館 8
資料篇 図版9 苫小牧市美術博物館所蔵耳飾り 7	資料篇 図版42 蛍光X線スペクトル図/苫小牧市美術博物館 9
資料篇 図版10 苫小牧市美術博物館所蔵耳飾り 8	資料篇 図版43 蛍光X線スペクトル図/苫小牧市美術博物館 10
資料篇 図版11 苫小牧市美術博物館所蔵耳飾り 9	資料篇 図版44 蛍光X線スペクトル図/苫小牧市美術博物館 11
資料篇 図版12 苫小牧市美術博物館所蔵耳飾り 10	資料篇 図版45 蛍光X線スペクトル図/苫小牧市美術博物館 12
資料篇 図版13 苫小牧市美術博物館所蔵耳飾り 11	資料篇 図版46 蛍光X線スペクトル図/苫小牧市美術博物館 13
資料篇 図版14 苫小牧市美術博物館所蔵耳飾り 12	資料篇 図版47 蛍光X線スペクトル図/苫小牧市美術博物館 14
資料篇 図版15 苫小牧市美術博物館所蔵耳飾り 13	資料篇 図版48 蛍光X線スペクトル図/苫小牧市美術博物館 15
資料篇 図版16 苫小牧市美術博物館所蔵耳飾り 14	資料篇 図版49 蛍光X線スペクトル図/苫小牧市美術博物館 16
資料篇 図版17 余市水産博物館所蔵耳飾り 1	資料篇 図版50 蛍光X線スペクトル図/苫小牧市美術博物館 17
資料篇 図版18 余市水産博物館所蔵耳飾り 2	資料篇 図版51 蛍光X線スペクトル図/苫小牧市美術博物館 18
資料篇 図版19 耳飾り出土地遺跡分布図	資料篇 図版52 蛍光X線スペクトル図/苫小牧市美術博物館 19
資料篇 図版20 出土資料一覧 1	資料篇 図版53 蛍光X線スペクトル図/北大植物園 1
資料篇 図版21 出土資料一覧 2	資料篇 図版54 蛍光X線スペクトル図/北大植物園 2
資料篇 図版22 出土資料一覧 3	資料篇 図版55 蛍光X線スペクトル図/余市水産博物館 1
資料篇 図版23 出土資料一覧 4	資料篇 図版56 蛍光X線スペクトル図/余市水産博物館 2
資料篇 図版24 出土資料一覧 5	資料篇 表 対象耳飾り一覧
資料篇 図版25 出土資料一覧 6	
資料篇 図版26 出土資料一覧 7	
資料篇 図版27 出土資料一覧 8	
資料篇 図版28 出土資料一覧 9	
資料篇 図版29 出土資料一覧 10	
資料篇 図版30 出土資料一覧 11	
資料篇 図版31 出土資料一覧 12	
資料篇 図版32 出土資料一覧 13	
資料篇 図版33 出土資料一覧 14	

【丸】



【アーモンド】



【梨】



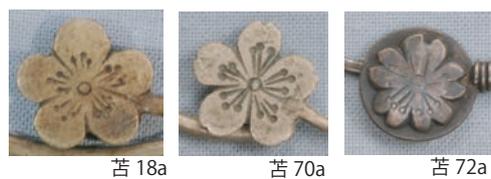
【ミカン玉】



【金属製透かし玉】



【桜】



【小判】



【ひょうたん】



【花】



【その他】



【丸玉】



苫 90a



北大 71②



北大 74



苫 91a



苫 17



北大 26274



余 4a



北大 38369



北大 70

【平玉】



北大 38362



苫 92



北大 38364



苫 81a



余 2a



余 10



苫 89a



旭 4840

【その他】



苫 79a

苫：苫小牧市美術博物館所蔵
 北大：北大植物園所蔵
 余：余市水産博物館所蔵
 旭：旭川市博物館所蔵



苦 1

I-b



苦 2

I-b



苦 3

I-b



苦 4

I-b



苦 5

II-b



苦 6

II-b



苦 7

II-b



苦 8

II-b

※スケールはいずれも 5cm



苦9

I-a



苦10

I-a



苦11

II-a



苦12

II-b/I-a



苦13

II-b



苦14

I-b



苦15

I-b



苦16

II-b

※スケールはいずれも5cm



苦 17

II-c



苦 18

I-b



苦 19

II-b/I-b



苦 20

II-b/I-a



苦 21

II-b/I-b



苦 22

II-b



苦 23

II-b



苦 24

I-b

※スケールはいずれも 5cm



苫 25

II -b/II -a



苫 26

II -a



苫 27

II -a/I -a



苫 28

I -a



苫 29

I -a



苫 30

I -a



苫 31

II -a



苫 32

II -a

※スケールはいずれも 5cm



苦 33

II-b



苦 34

I-a



苦 35

I-a



苦 36

I-a



苦 37

I-a



苦 38

I-a



苦 39

I-a



苦 40

I-a

※スケールはいずれも 5cm



苫41

II-a



苫42

I-a



苫43

II-b



苫44

I-a



苫45

I-a



苫46

I-a



苫47

I-a



苫48

I-b

※スケールはいずれも5cm



苦 49

I-b



苦 50

II-b



苦 51

I-b



苦 52

II-b



苦 53

II-b



苦 54

II-c



苦 55

II-b



苦 56

II-b

※スケールはいずれも 5cm



57

II-b



58

II-b



59

I-a



60

II-b



61

II-b



62

II-b



63

I-a



64

II-b

※スケールはいずれも 5cm



苦 65

II-b



苦 66

II-b



苦 67

I-a



苦 68

II-b



苦 69

II-b



苦 70

I-b



苦 71

II-b



苦 72

I-b

※スケールはいずれも 5cm



苦 73

II-b



苦 74

II-b



苦 75

II-b



苦 76

II-b



苦 77

I-b



苦 78

I-b



苦 79

I-c



苦 80

I-c

※スケールはいずれも 5cm



苦 81

II-c



苦 82

II-b



苦 83

I-b



苦 84

I-a



苦 85

II-b



苦 86

II-b



苦 87

II-b



苦 88

II-b

※スケールはいずれも 5cm



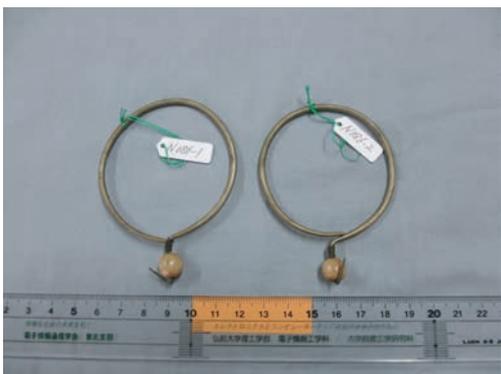
苦 89

II-c



苦 90

II-c



苦 91

II-c



苦 92

II-c



苦 93

II-c



苦 94

I-b



苦 95

II-b



苦 96

II-b

※スケールはいずれも 5cm



苦 97

I-b/II-b



苦 98

II-b



苦 99

II-b



苦 100

I-b



苦 101

I-b



苦 102

I-a



苦 103

II-b

※スケールはいずれも 5cm



苫 104 ニンカリ付きタマサイ



苫 104 ニンカリ拡大 II-c



苫 105 ニンカリ付きタマサイ



苫 105 ニンカリ拡大 II-c

※スケールはいずれも5cm



余 1 II-b



余 2 II-c



余 3 I-a



余 4 II-c



余 5 I-a



余 6 I-a



余 7 I-a



余 8 I-a

※スケールはいずれも 5cm



余 9

I-c



余 10

I-c



余 11

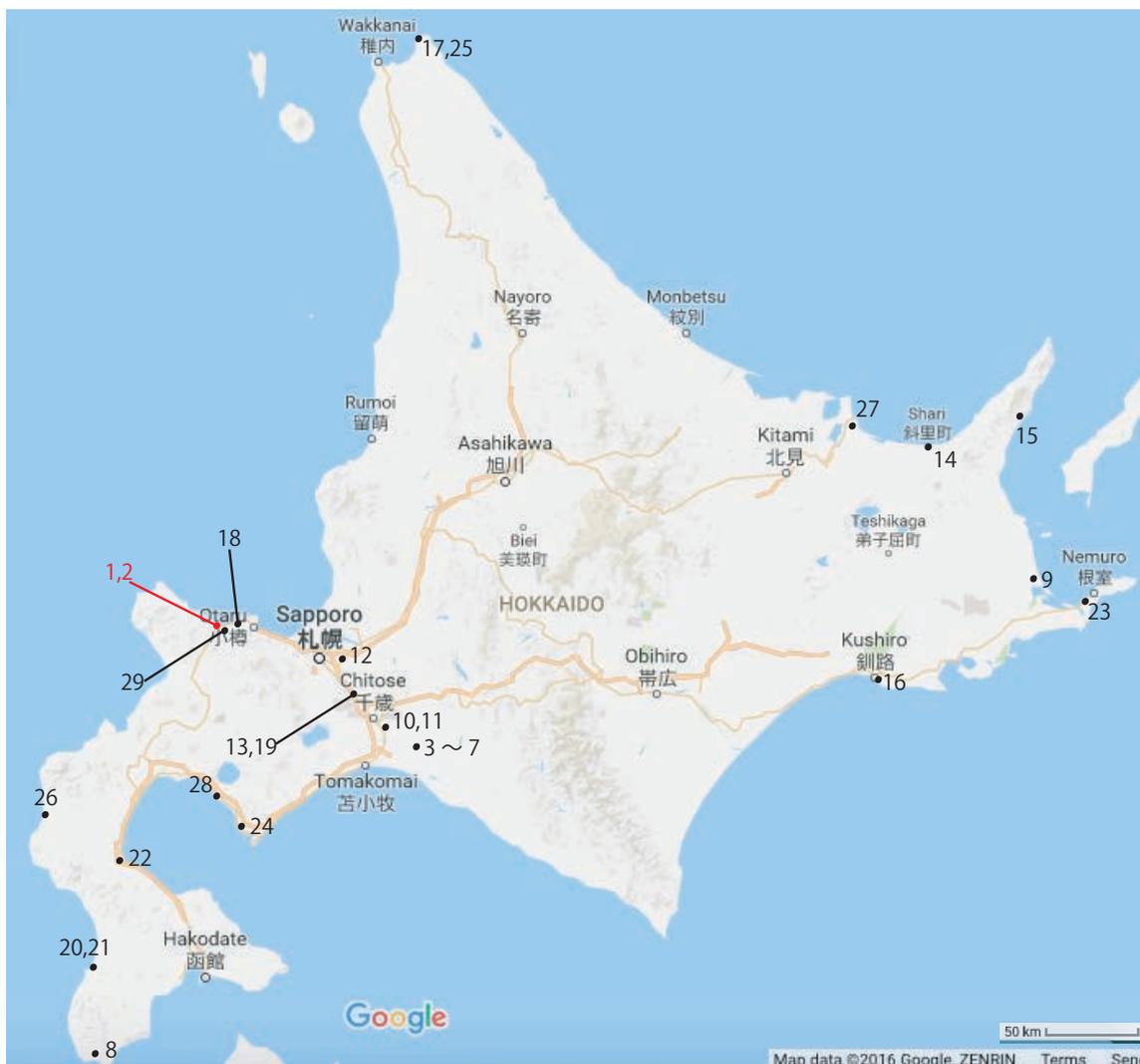
I-a



余 12

I-a

※スケールはいずれも 5cm

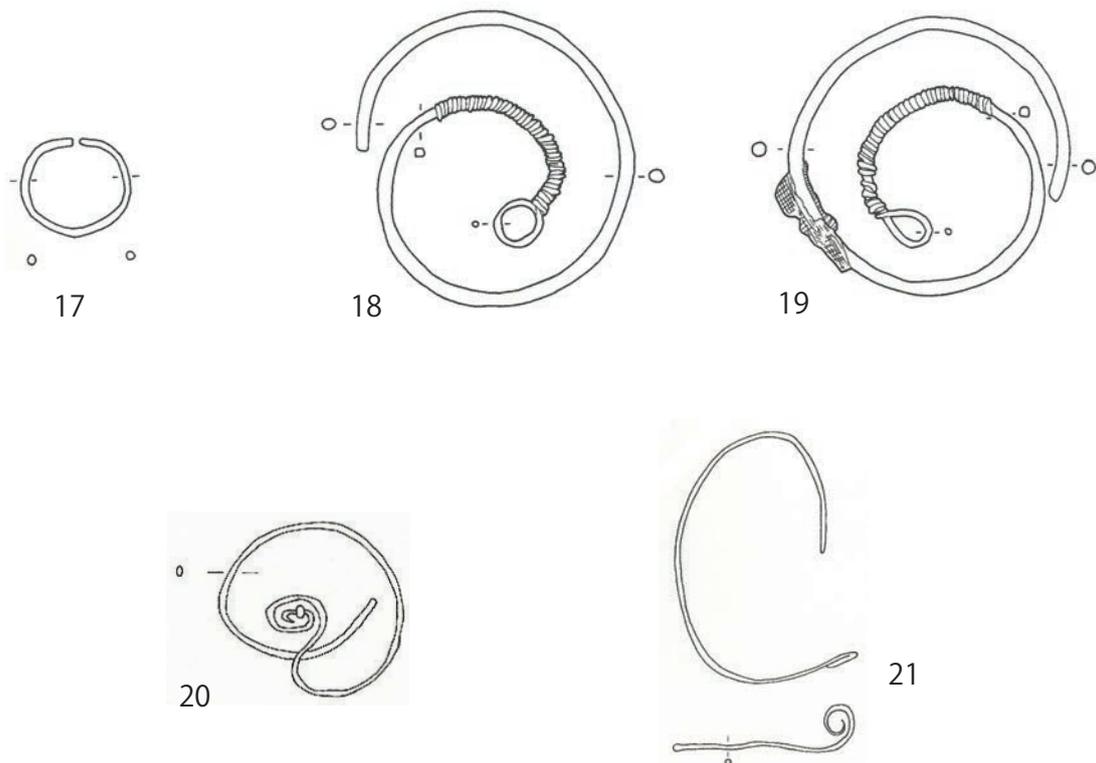


1	入舟遺跡
2	大川遺跡
3	上幌内モイ遺跡
4	富里2遺跡
5	ヲチャラセナイ遺跡
6	オニキシベ2遺跡
7	ショロマ4遺跡
8	福山城下町遺跡
9	浜別海遺跡
10	美々8遺跡低湿部
11	未広遺跡
12	ユカンボシC15遺跡(3)
13	カリンバ2遺跡第Ⅵ地点
14	オンネベツ川西側台地遺跡
15	植別川遺跡

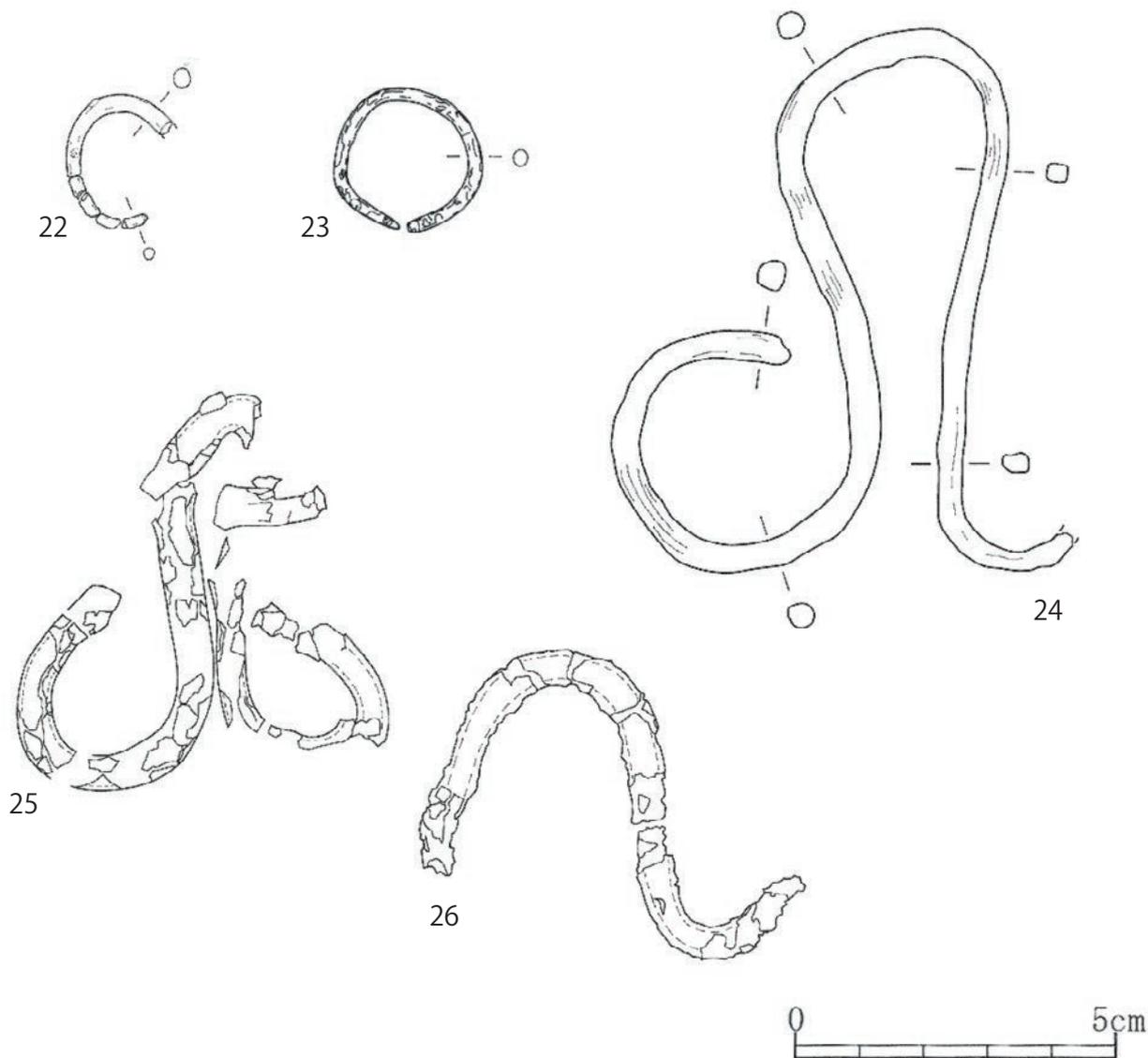
16	釧路市弊舞遺跡
17	オンコロマナイ貝塚
18	忍路神社遺跡
19	西島松2遺跡
20	久末屋敷遺跡
21	上ノ国勝山館跡XXⅡ
22	ユウラップ墓地
23	温根沼第2遺跡
24	室蘭絵鞆遺跡
25	泊岸1遺跡
26	南川2遺跡
27	モヨロ貝塚
28	有珠4遺跡
29	大浜中遺跡

※赤字は調査をした遺跡

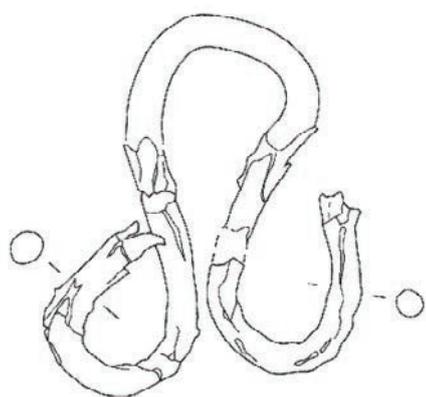
No.	資料番号	遺跡名	出土地点	遺物年代	年代根拠	型式	種類	寸法(cm)			重量(g)	備考	文献
								長さ	幅	厚さ			
1	余1a	入舟遺跡	GP6	18世紀前後	副葬品・埋葬状況により判断	II	b	80	53	計測不可	計測不可		入舟遺跡における考古学的調査1999
2	余1b	入舟遺跡	GP6	18世紀前後	副葬品・埋葬状況により判断	II	b	82	54	036	1900		入舟遺跡における考古学的調査1999
3	余2a	入舟遺跡	GP8	18世紀前後	副葬品・埋葬状況により判断	II	c	97	62	040	2200		入舟遺跡における考古学的調査1999
4	余2b	入舟遺跡	GP8	18世紀前後	副葬品・埋葬状況により判断	II	c	97	63	039	2100		入舟遺跡における考古学的調査1999
5	余3a	入舟遺跡	GP18	17~18世紀	共伴したキセルによる	I	a	58	64	036	2000		入舟遺跡における考古学的調査1999
6	余3b	入舟遺跡	GP18	17~18世紀	共伴したキセルによる	I	a	59	63	037	1900		入舟遺跡における考古学的調査1999
7	余4a	入舟遺跡	GP18	17~18世紀	共伴したキセルによる	II	c	68	44	030	1500		入舟遺跡における考古学的調査1999
8	余4b	入舟遺跡	GP18	17~18世紀	共伴したキセルによる	II	c	64	41	031	1500		入舟遺跡における考古学的調査1999
9	余5	入舟遺跡	SM9	19世紀	出土遺物により19世紀の貝塚と判断	I	a	65	78	035	1100		入舟遺跡における考古学的調査1999
10	余6	入舟遺跡	V25	不明	不明	I	a	29	34	025	500	遺構外出土	入舟遺跡における考古学的調査1999
11	余7	入舟遺跡	Y19	不明	不明	I	a	31	58	022	600	遺構外出土	入舟遺跡における考古学的調査1999
12	余8	入舟遺跡	W18	不明	不明	I	a	66	66	030	1700	遺構外出土	入舟遺跡における考古学的調査1999
13	余9	大川遺跡	GP600	近世	副葬品から判断	I	c	47	47	026	1000		大川遺跡における考古学的調査II 2000
14	余10	大川遺跡	GP600	近世	副葬品から判断	I	c	45	47	024	900		大川遺跡における考古学的調査II 2000
15	余11	大川遺跡	GP850	近世?	副葬品から判断するが判然としない	I	a	72	74	021	800		大川遺跡における考古学的調査III 2000
16	余12	大川遺跡	GP850	近世?	副葬品から判断するが判然としない	I	a	69	71	020	700		大川遺跡における考古学的調査III 2000



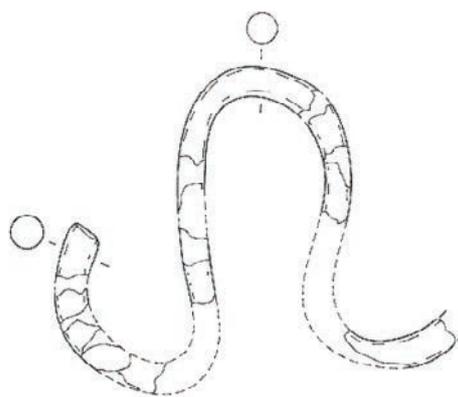
No.	遺跡名	出土地点	遺物年代	年代根拠	型式	種類	材質	寸法(cm)			重量(g)	備考	文献
								長さ	幅	厚さ			
17	大川遺跡	R-20	近世?		l	a		2.93	2.40		4.6		大川遺跡における考古学的調査III (墓墳篇2) 2000b
18	大川遺跡	P-3	近世アイヌ		l	a		8.20					大川遺跡発掘調査報告書(1999年度) 2001
19	大川遺跡	P-3	近世アイヌ		l	a		8.30					大川遺跡発掘調査報告書(1999年度) 2001
20	入舟遺跡	SM-4			l	c		4.04			2.4	ガラス玉付	入舟遺跡発掘調査報告書(1998・1999年度) 2000
21	入舟遺跡	SM-5			l	a							入舟遺跡発掘調査報告書(1998・1999年度) 2000



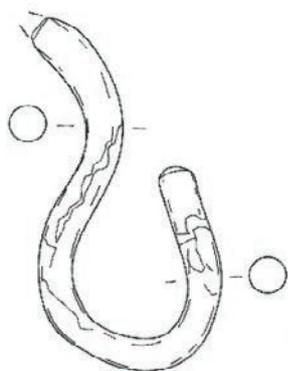
No.	遺跡名	出土地点	遺物年代	年代根拠	型式	種類	材質	寸法(cm)			重量(g)	備考	文献
								長さ	幅	厚さ			
22	上幌内モイ(2)	IIIbU	中近世アイヌ	(中近世アイヌ文化期出土の火打石が共伴)	I	a	Sn	201	160	030	12		上幌内モイ遺跡(2)2007
23	上幌内モイ(3)	IIIAS-07	近世アイヌ	III F-148の焼土による	I	a	Cu	230	220	020	13		上幌内モイ遺跡(3) 2009
24	富里2	IIIF-09	擦文~中世アイヌ	遺構の焼土・黒色土による	III	a	Sn	810	550	060	192		幌内5遺跡(1) 富里2遺跡 ニタツナイ遺跡(2)2010
25	ヲチャラセナイ	IIIGP-02	中世アイヌ	同じく中世アイヌ期であるオニキシベ2遺跡IIIGP-0103の類例による	III	a	Sn-Pb	633	573				ヲチャラセナイ遺跡 2014
26	ヲチャラセナイ	IIIGP-02	中世アイヌ	同じく中世アイヌ期であるオニキシベ2遺跡IIIGP-0103の類例による	III	a	Sn-Pb	593	490		130		ヲチャラセナイ遺跡 2014



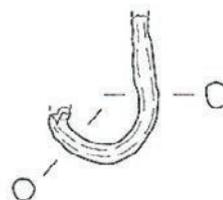
27



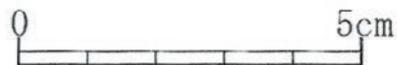
28



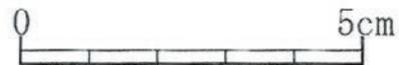
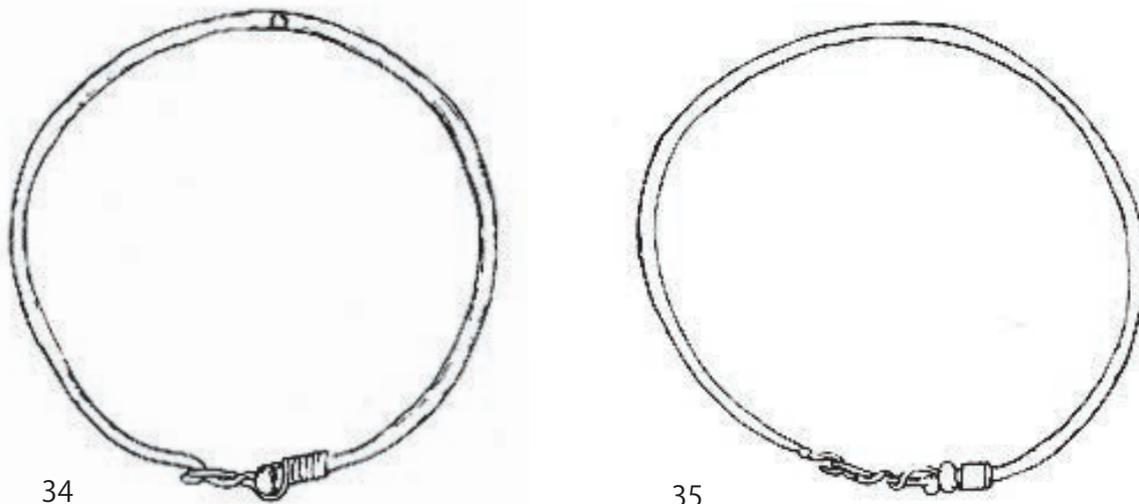
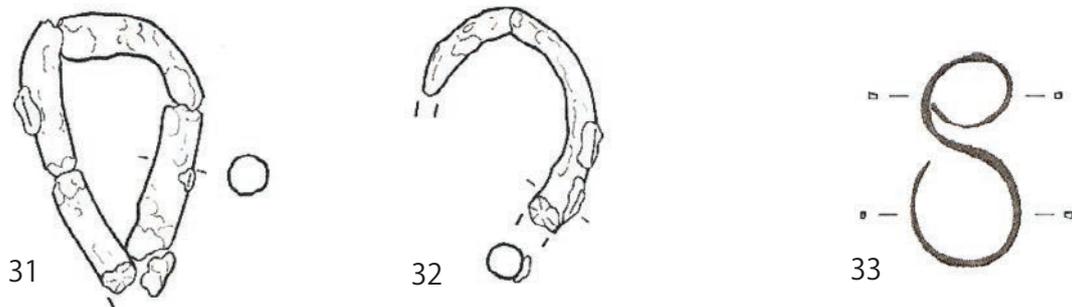
29



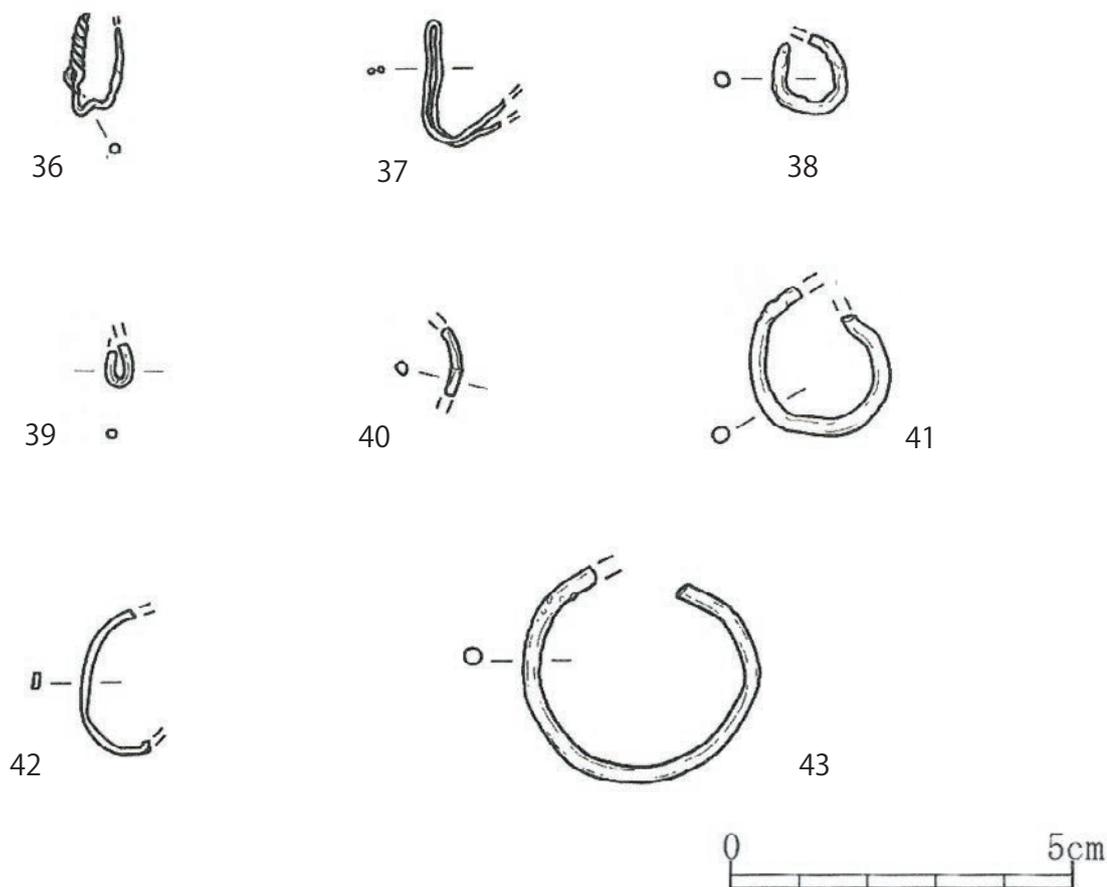
30



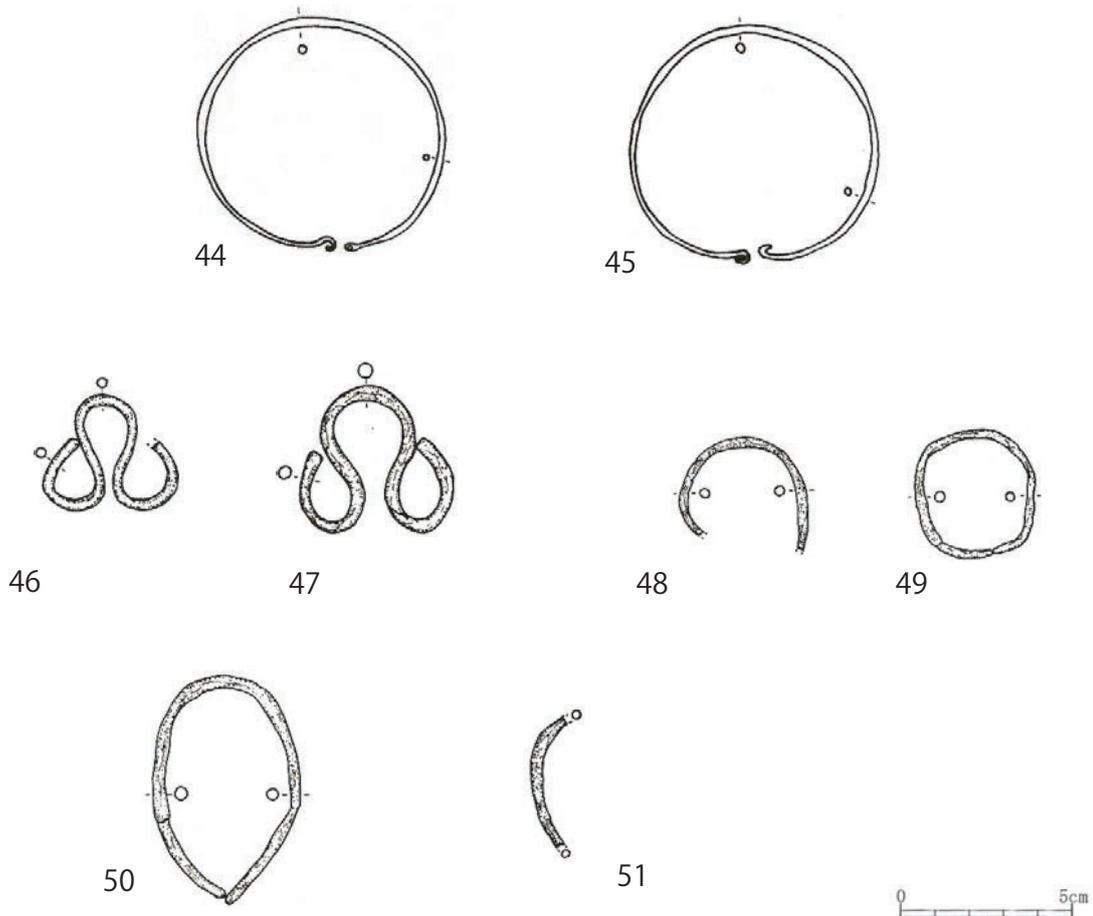
No.	遺跡名	出土地点	遺物年代	年代根拠	型式	種類	材質	寸法(cm)			重量(g)	備考	文献
								長さ	幅	厚さ			
27	オニキシベ2	III G P-01	14世紀	共伴した漆器皿塗膜のAMS年代測定結果による	III	a	Ti	660	450	030			オニキシベ2遺跡2011
28	オニキシベ2	III G P-01	14世紀	共伴した漆器皿塗膜のAMS年代測定結果による	III	a	Ti	550	470	040	90		オニキシベ2遺跡2011
29	オニキシベ2	III G P-03	14世紀後半頃	共伴した鉄鍋が14世紀中葉以降と、III G P-01との埋葬方法類似	III	a	Ti	(550)	280	050			オニキシベ2遺跡2011
30	ヲチャラセナイ	III F-21	中世アイヌ	炉跡の検出層位による	III	a	Sn	(2.10)	(160)	037	15		ヲチャラセナイチャン跡・ヲチャラセナイ遺跡2013



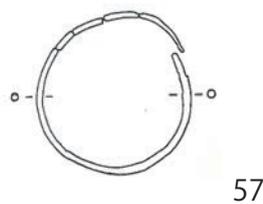
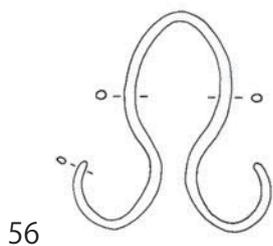
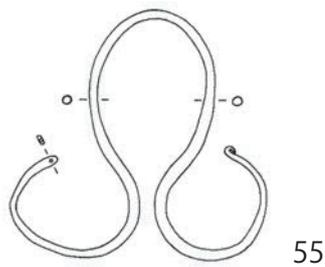
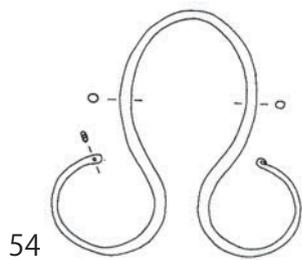
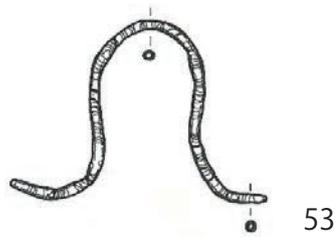
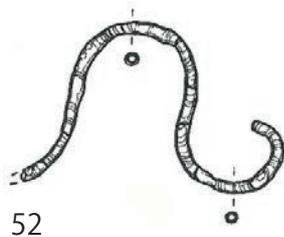
No.	遺跡名	出土地点	遺物年代	年代根拠	型式	種類	材質	寸法(cm)			重量(g)	備考	文献
								長さ	幅	厚さ			
31	ショロマ4遺跡	III GP-1	擦文後期?	検出層位や周辺状況よる 上幌内モイ(3)のIII GP-3(擦文期)に類似か	III	a	Sn	4.20					厚真町 ショロマ4遺跡 2016
32	ショロマ4遺跡	III GP-1	擦文後期?	検出層位や周辺状況よる 上幌内モイ(3)のIII GP-3(擦文期)に類似か	III	a	Sn	3.30					厚真町 ショロマ4遺跡 2016
33	福山城下町遺跡	蔵2	18C後葉~19C中葉	共伴した陶磁器による	その他	a		3.10	1.60		0.7		松前町 福山城下町遺跡 2011
34	浜別海遺跡	4号竪穴東側斜面部分	明治以降のアイヌ期	遺物の腐食状況による	I	c	Ag	7.50				青色ガラス玉装飾あり	浜別海遺跡 1971
35	浜別海遺跡	4号竪穴東側斜面部分	明治以降のアイヌ期	遺物の腐食状況による	I	c	Ag	7.50				青色ガラス玉装飾あり	浜別海遺跡 1971



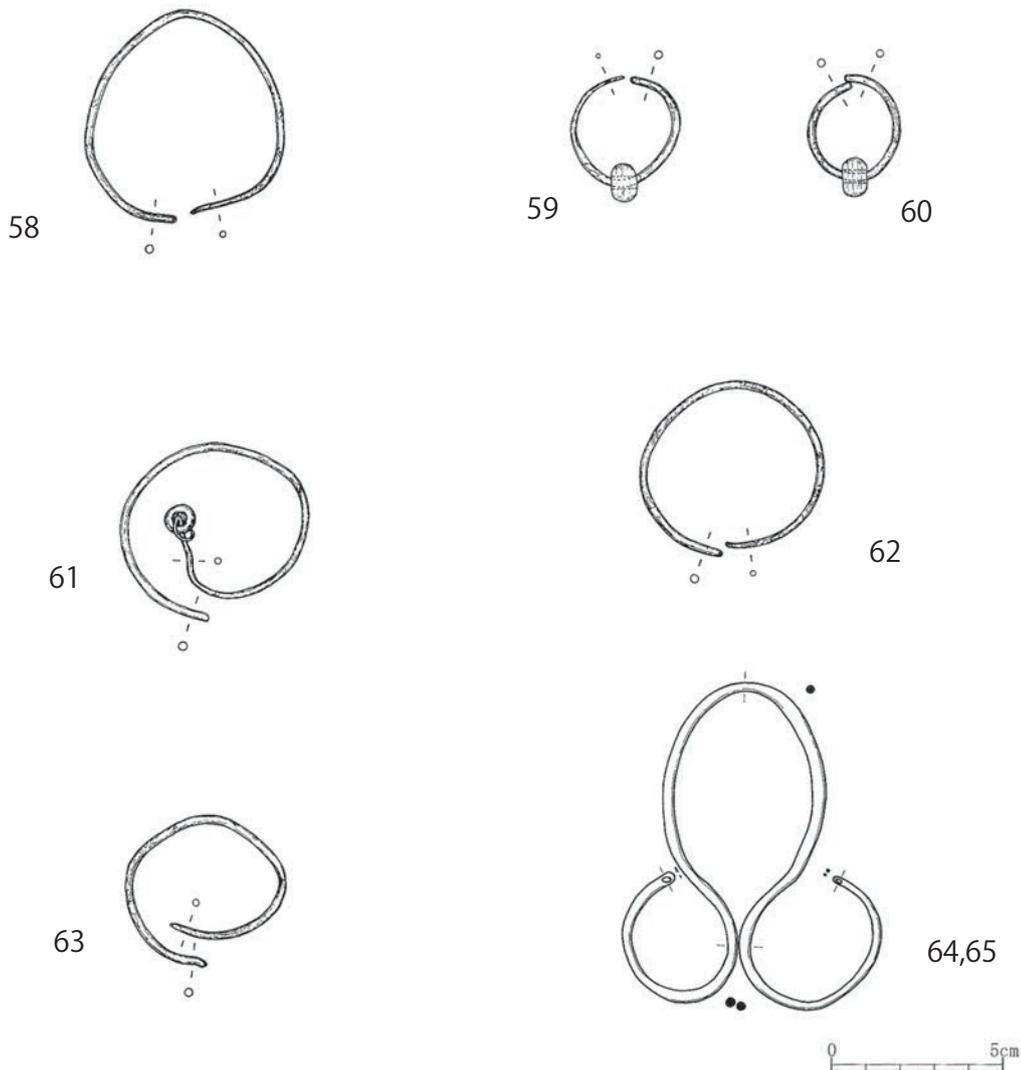
No.	遺跡名	出土地点	遺物年代	年代根拠	型式	種類	材質	寸法(cm)			重量(g)	備考	文献
								長さ	幅	厚さ			
36	美々8遺跡低湿部	灰集中10-9	1683年以前のアイヌ期	共伴した寛永通宝(1668~1683年 鑄造)	l	a	Cu	(1.49)	0.82	0.20	(0.2)		美沢川流域の遺跡群XX 1997
37	美々8遺跡低湿部	灰集中10-31	1683年以前のアイヌ期	共伴した寛永通宝(1668~1683年 鑄造)	l	a	Cu	1.87	(1.12)	0.09	(0.2)		美沢川流域の遺跡群XX 1997
38	美々8遺跡低湿部	灰集中10-5	1683年以前のアイヌ期	共伴した寛永通宝(1668~1683年 鑄造)	l	a	Pb	(1.14)	1.09	0.97	(0.3)		美沢川流域の遺跡群XX 1997
39	美々8遺跡低湿部	灰集中10-25	1683年以前のアイヌ期	共伴した寛永通宝(1668~1683年 鑄造)	l	a	Pb	(0.63)	0.41	0.16	(0.1)		美沢川流域の遺跡群XX 1997
40	美々8遺跡低湿部	灰集中10-24	1683年以前のアイヌ期	共伴した寛永通宝(1668~1683年 鑄造)	l	a	Pb or Sn	(1.00)	0.27	0.17	(0.1)		美沢川流域の遺跡群XX 1997
41	美々8遺跡低湿部	灰集中10-3	1683年以前のアイヌ期	共伴した寛永通宝(1668~1683年 鑄造)	l	a	Pb	(2.15)	2.05	0.22	(1.6)		美沢川流域の遺跡群XX 1997
42	美々8遺跡低湿部	灰集中10-26	1683年以前のアイヌ期	共伴した寛永通宝(1668~1683年 鑄造)	l	a	Cu	(2.10)	(0.99)	0.24	(0.4)		美沢川流域の遺跡群XX 1997
43	美々8遺跡低湿部		1683年以前のアイヌ期	共伴した寛永通宝(1668~1683年 鑄造)	l	a	?	(3.16)	3.50	0.23	(2.5)		美沢川流域の遺跡群XX 1997



No.	遺跡名	出土地点	遺物年代	年代根拠	型式	種類	材質	寸法(cm)			重量(g)	備考	文献
								長さ	幅	厚さ			
44	末広遺跡	P-14	1739年以前のアイヌ期	Ta-a層 (1739年の樽前山噴火) 下より出土	I	a	Ag						末広遺跡における考古学的調査(下) 1982
45	末広遺跡	P-14	1739年以前のアイヌ期	Ta-a層 (1739年の樽前山噴火) 下より出土	I	a	Ag						末広遺跡における考古学的調査(下) 1982
46	末広遺跡	P-111	1739年以前のアイヌ期	Ta-a層 (1739年の樽前山噴火) 下より出土	III	a	Pb?						末広遺跡における考古学的調査(下) 1982
47	末広遺跡	P-111	1739年以前のアイヌ期	Ta-a層 (1739年の樽前山噴火) 下より出土	III	a	Pb?						末広遺跡における考古学的調査(下) 1982
48	末広遺跡	P-111	1739年以前のアイヌ期	Ta-a層 (1739年の樽前山噴火) 下より出土	I	a	Pb?						末広遺跡における考古学的調査(下) 1982
49	末広遺跡	P-111	1739年以前のアイヌ期	Ta-a層 (1739年の樽前山噴火) 下より出土	I	a	Pb?						末広遺跡における考古学的調査(下) 1982
50	末広遺跡	P-111	1739年以前のアイヌ期	Ta-a層 (1739年の樽前山噴火) 下より出土	I	a	Pb?						末広遺跡における考古学的調査(下) 1982
51	末広遺跡	P-111	1739年以前のアイヌ期	Ta-a層 (1739年の樽前山噴火) 下より出土	I	a	Pb?						末広遺跡における考古学的調査(下) 1982

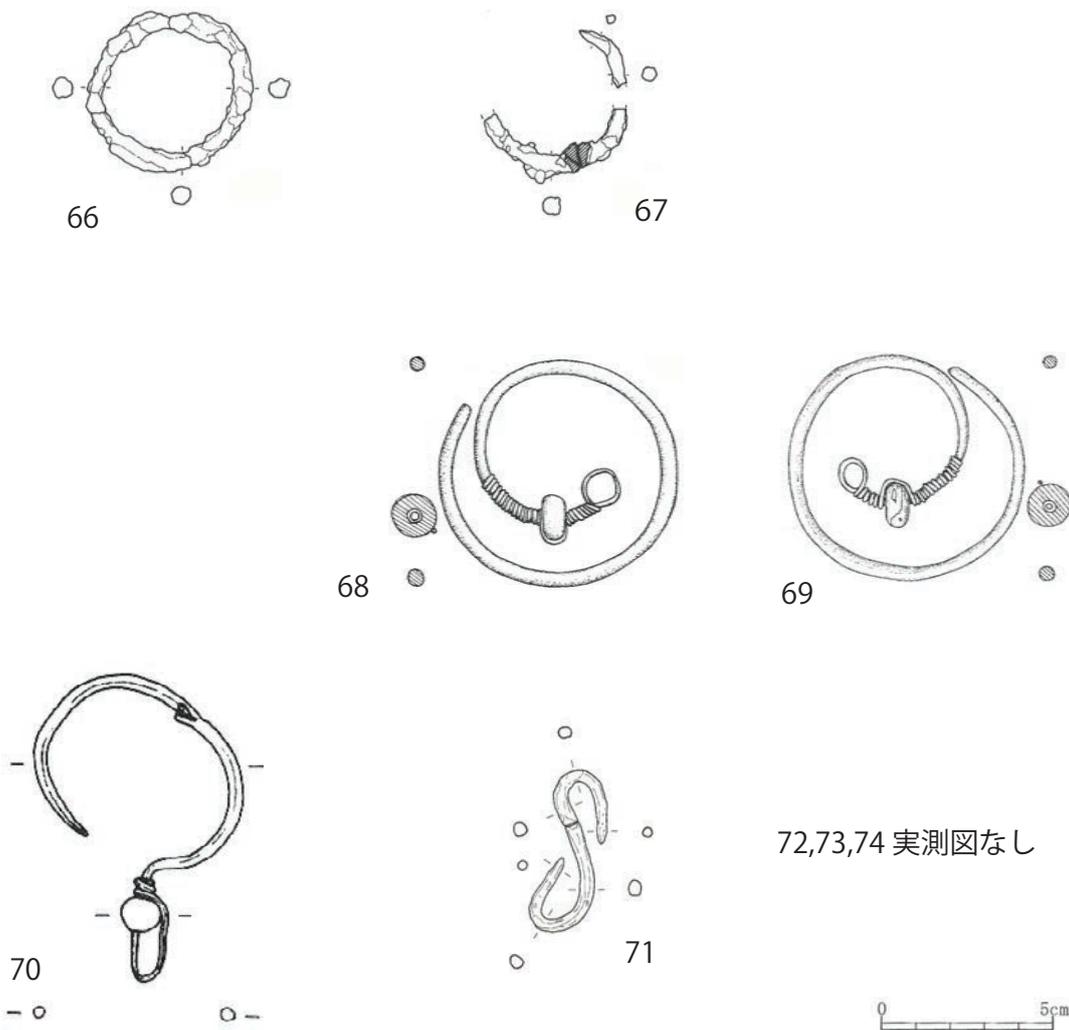


No.	遺跡名	出土地点	遺物年代	年代根拠	型式	種類	材質	寸法(cm)			重量(g)	備考	文献
								長さ	幅	厚さ			
52	ユカンボシC 15遺跡(B)	AP-1	近世アイヌ期	封土のうえに黒層が堆積	III	a	Sn	760	490	030	(53)		ユカンボシC 15遺跡(B) 2000
53	ユカンボシC 15遺跡(B)	AP-1	近世アイヌ期	封土のうえに黒層が堆積	III	a	Sn	740	530	030	(43)		ユカンボシC 15遺跡(B) 2000
54	カリンバ2遺跡第VI地点	AP-5	1739年以前のアイヌ期	Ta-a層(1739年の樽前山噴火)下より出土	III	a	Cu	730	730	030			カリンバ2遺跡第VI地点 2000
55	カリンバ2遺跡第VI地点	AP-5	1739年以前のアイヌ期	Ta-a層(1739年の樽前山噴火)下より出土	III	a	Cu	740	750	030			カリンバ2遺跡第VI地点 2000
56	カリンバ2遺跡第VI地点	AP-5	1739年以前のアイヌ期	Ta-a層(1739年の樽前山噴火)下より出土	III	a	Cu	650	580	032			カリンバ2遺跡第VI地点 2000
57	カリンバ2遺跡第VI地点	AP-5	1739年以前のアイヌ期	Ta-a層(1739年の樽前山噴火)下より出土	I	a	Cu	460		024			カリンバ2遺跡第VI地点 2000



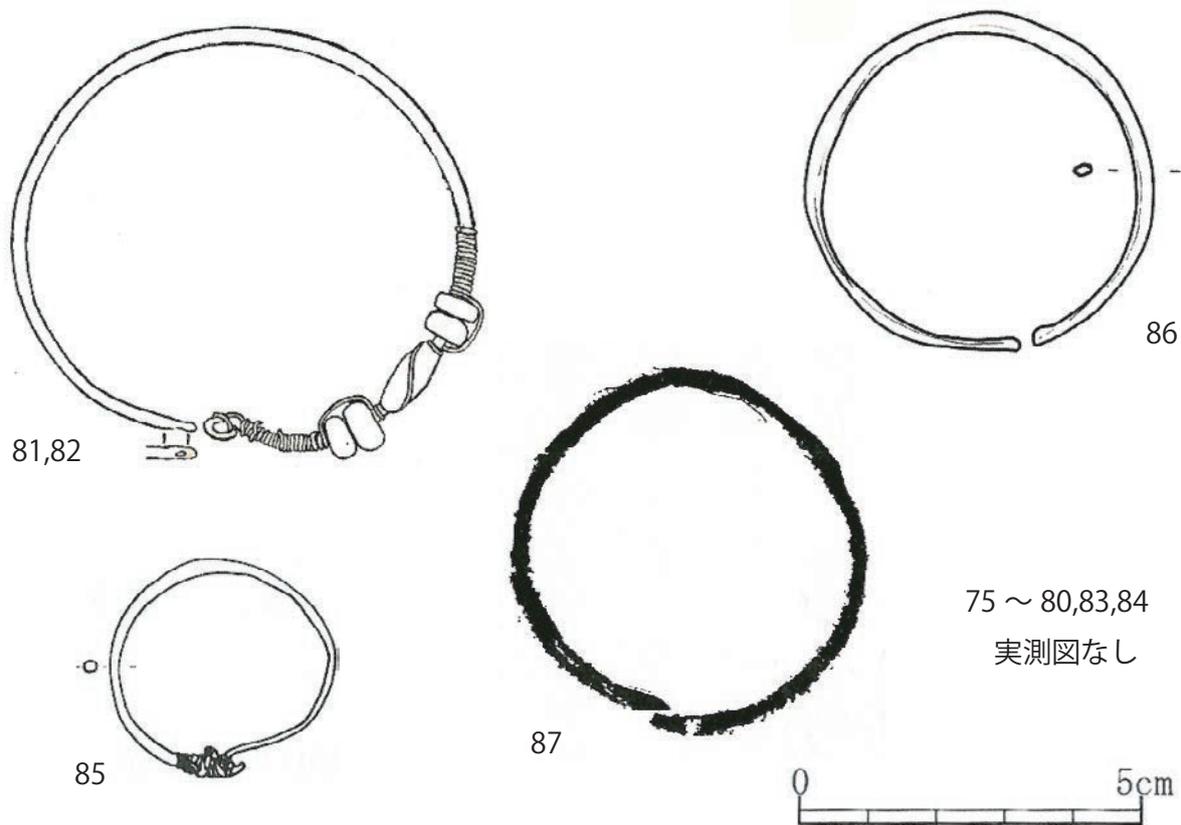
No.	遺跡名	出土地点	遺物年代	年代根拠	型式	種類	材質	寸法(cm)			重量(g)	備考	文献
								長さ	幅	厚さ			
58	オンネベツ川西側台地遺跡	貝塚9	幕末から明治初頭	b~b層出土の陶磁器による	I	a	真鍮						オンネベツ川西側台地遺跡発掘調査報告書1993
59	オンネベツ川西側台地遺跡	遺構外	18世紀以降のアイヌ期	共伴する鐙の形態が18世紀のものに近い	I	c	Cu?						オンネベツ川西側台地遺跡発掘調査報告書1993
60	オンネベツ川西側台地遺跡	遺構外	18世紀以降のアイヌ期	共伴する鐙の形態が18世紀のものに近い	I	c	Cu?						オンネベツ川西側台地遺跡発掘調査報告書1993
61	オンネベツ川西側台地遺跡	遺構外	18世紀以降のアイヌ期	共伴する鐙の形態が18世紀のものに近い	I	c	Cu?						オンネベツ川西側台地遺跡発掘調査報告書1993
62	オンネベツ川西側台地遺跡	遺構外	18世紀以降のアイヌ期	共伴する鐙の形態が18世紀のものに近い	I	a	Cu?						オンネベツ川西側台地遺跡発掘調査報告書1993
63	オンネベツ川西側台地遺跡	遺構外	18世紀以降のアイヌ期	共伴する鐙の形態が18世紀のものに近い	I	a	Cu?						オンネベツ川西側台地遺跡発掘調査報告書1993
64	植別川遺跡	3号墓	アイヌ期	不明	III	a	Sn?						植別川遺跡 1981
65	植別川遺跡	3号墓	アイヌ期	不明	III	a	Sn?						植別川遺跡 1981

資料篇 図版28 出土資料一覧 9

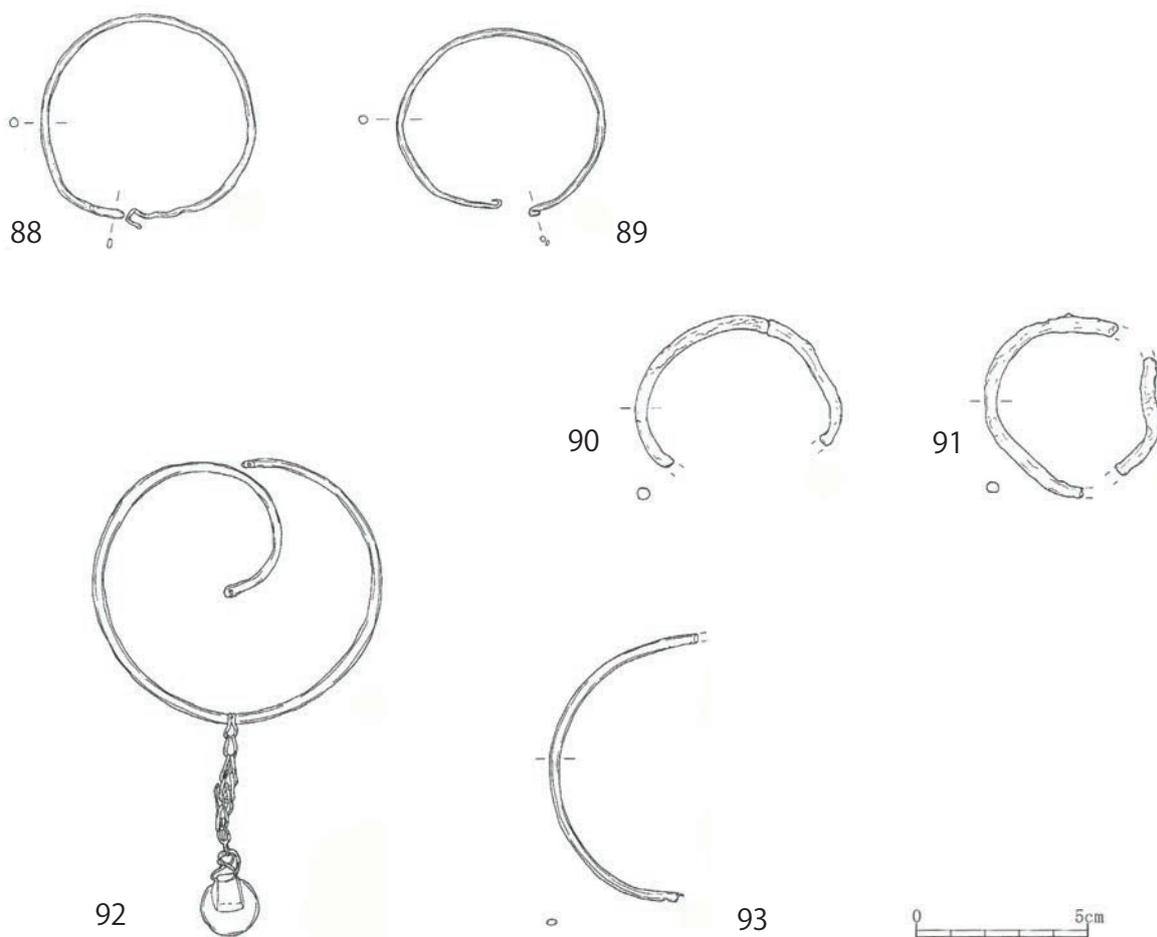


72,73,74 実測図なし

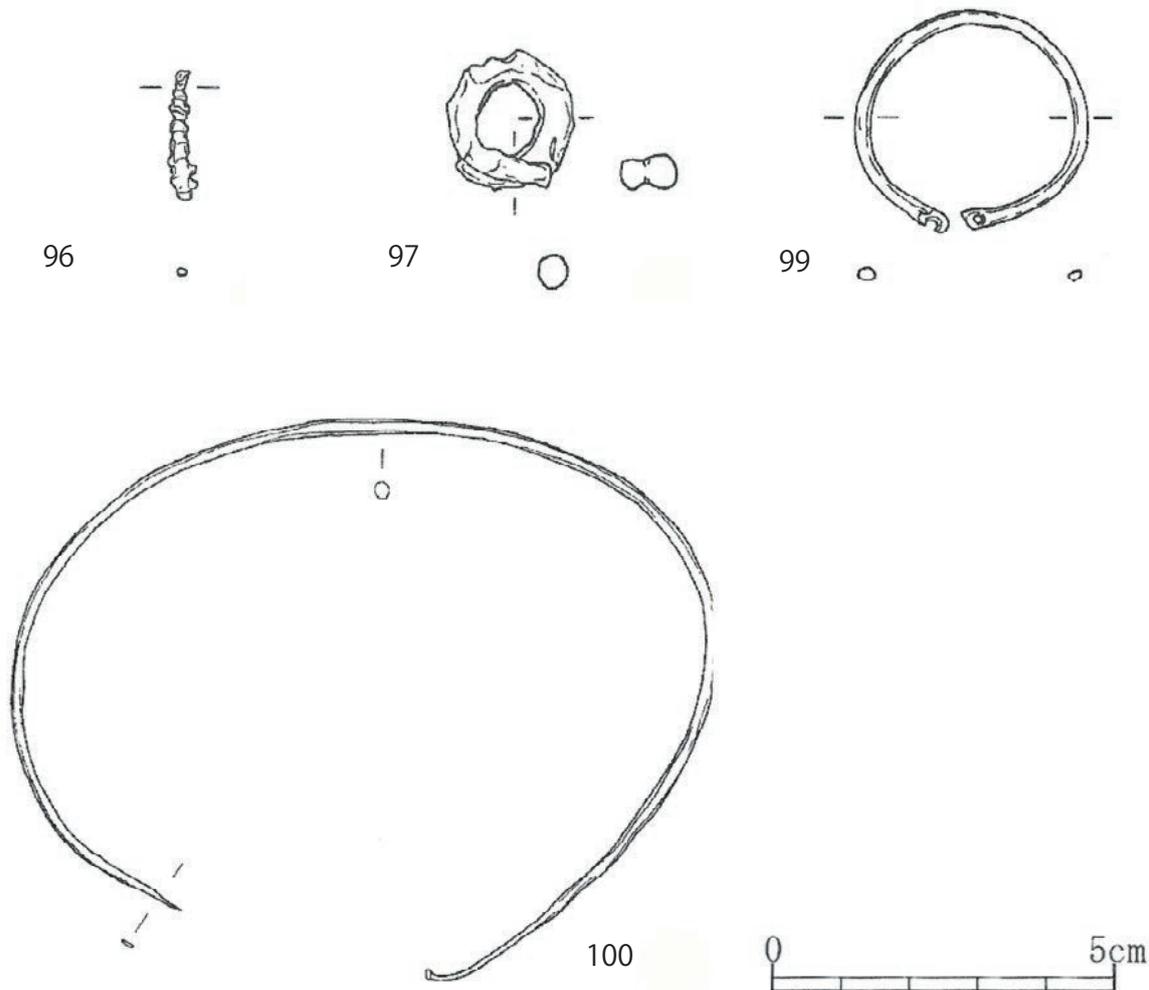
No.	遺跡名	出土地点	遺物年代	年代根拠	型式	種類	材質	寸法(cm)			重量(g)	備考	文献
								長さ	幅	厚さ			
66	釧路市弊舞遺跡	第43号墓	16~17世紀	共伴した鉄鍋と古銭による	I	a	?	4.90	4.60	0.60	5.2		釧路市弊舞遺跡調査報告書II 1994
67	釧路市弊舞遺跡	第43号墓	16~17世紀	共伴した鉄鍋と古銭による	I	a	?	(4.40)	(3.80)	0.50	2.0		釧路市弊舞遺跡調査報告書II 1994
68	オンコロマナイ貝塚	墳墓1	近世アイヌ期	副葬品などから判断	I	c	真鍮						オホーツク文化の研究 1 オンコロマナイ貝塚 1973
69	オンコロマナイ貝塚	墳墓1	近世アイヌ期	副葬品などから判断	I	c	真鍮						オホーツク文化の研究 1 オンコロマナイ貝塚 1973
70	忍路神社遺跡	忍路神社遺跡	近世アイヌ期	共伴遺物より判断	II	c	真鍮	6.65	4.40	0.34			忍路神社遺跡 1996
71	西島松2遺跡	P1349	近世アイヌ期	共伴遺物・埋葬状況より判断	その他	a	Pb,Sn	4.70	2.20	0.45			西島松2遺跡 2009
72	久末屋敷遺跡	2号墓	江戸時代アイヌ	埋葬状況から判断	?	?	?					金属製の耳飾り 実測図なし	「久末屋敷遺跡」『原歌遺跡S地点』 1998
73	上ノ国勝山館跡XXII	第98号墓	中世アイヌ期	IV層(中世前期以前)より下に出土	I	c	Ag or Sn					一端には細いコイルが付き赤みを帯びた半透明の玉がつく 実測図なし	史跡上之国勝山館跡XXII 2001
74	上ノ国勝山館跡XXII	第98号墓	中世アイヌ期	IV層(中世前期以前)より下に出土	I	?	Ag or Sn					玉・コイルともに不明 実測図なし	史跡上之国勝山館跡XXII 2001



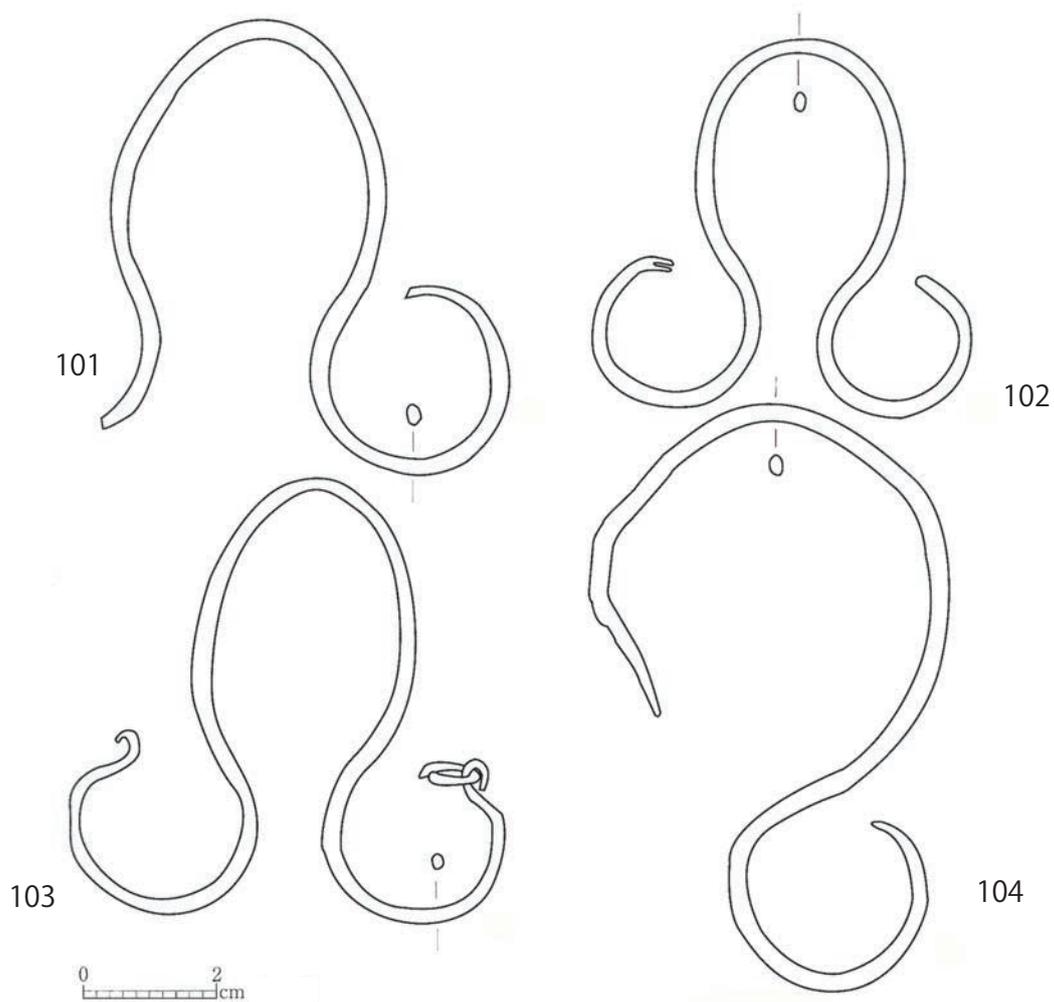
No.	遺跡名	出土地点	遺物年代	年代根拠	型式	種類	材質	寸法(cm)			重量(g)	備考	文献
								長さ	幅	厚さ			
75	ユウラップ墓地	No.15	アイヌ期	副葬品・埋蔵状況から判断か	II	?					実測図なし	北海道帝国大学医学部解剖学教室研究報告 1936	
76	ユウラップ墓地	No.104	アイヌ期	副葬品・埋蔵状況から判断か	II	?					実測図なし	北海道帝国大学医学部解剖学教室研究報告 1936	
77	ユウラップ墓地	No.104	アイヌ期	副葬品・埋蔵状況から判断か	II	?					実測図なし	北海道帝国大学医学部解剖学教室研究報告 1936	
78	ユウラップ墓地	No.24	アイヌ期	副葬品・埋蔵状況から判断か	?	?					実測図なし	北海道帝国大学医学部解剖学教室研究報告 1936	
79	ユウラップ墓地	No.110	アイヌ期	副葬品・埋蔵状況から判断か	?	?					実測図なし	北海道帝国大学医学部解剖学教室研究報告 1936	
80	ユウラップ墓地	No.110	アイヌ期	副葬品・埋蔵状況から判断か	?	?					実測図なし	北海道帝国大学医学部解剖学教室研究報告 1936	
81	温根沼第2遺跡	第2号墓	アイヌ期	副葬品・埋蔵状況から判断か	I	c	Ag					「根室国温根沼遺跡の発掘について」『北方文化研究報告』1956	
82	温根沼第2遺跡	第2号墓	アイヌ期	副葬品・埋蔵状況から判断か	I	c	Ag					「根室国温根沼遺跡の発掘について」『北方文化研究報告』1956	
83	室蘭絵鞆遺跡	A地区墳墓3号	アイヌ期	出土遺物・埋葬状況から判断か	I	?					実測図なし	室蘭絵鞆遺跡発掘調査概要報告書 1971	
84	室蘭絵鞆遺跡	A地区墳墓3号	アイヌ期	出土遺物・埋葬状況から判断か	I	?					実測図なし	室蘭絵鞆遺跡発掘調査概要報告書 1971	
85	南川2遺跡	第2号墓	アイヌ期	共伴したアイヌ玉による	I	a	Cu	3.30		0.10		南川2遺跡 1985	
86	南川2遺跡	第8号墓	アイヌ期	共伴したアイヌ玉による	I	a	Ag	5.00		0.25		南川2遺跡 1985	
87	モヨロ貝塚	モヨロ貝塚	オホーツク文化期	共伴したオホーツク式土器による	I	a	Cu	4.10		0.30		「根室国温根沼遺跡の発掘について」『北方文化研究報告』1956	



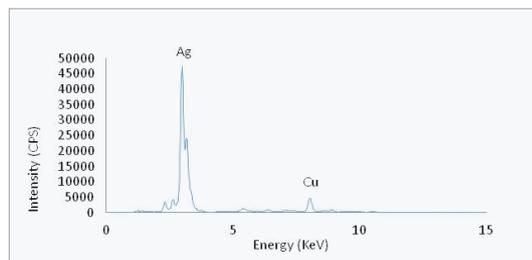
No.	遺跡名	出土地点	遺物年代	年代根拠	型式	種類	材質	寸法(cm)			重量(g)	備考	文献
								長さ	幅	厚さ			
88	有珠4遺跡	GP001	1640~1663	1640年駒ヶ岳噴火に伴う津波堆積物と思われる粗砂層が人骨下位に確認	l	a						青年女(20~30歳)	有珠4遺跡発掘調査報告書 2009
89	有珠4遺跡	GP001	1640~1663	1640年駒ヶ岳噴火に伴う津波堆積物と思われる粗砂層が人骨下位に確認	l	a						青年女(20~30歳)	有珠4遺跡発掘調査報告書 2009
90	有珠4遺跡	GP006	1640~1663	1640年駒ヶ岳噴火に伴う津波堆積物と思われる粗砂層が人骨下位に確認	l	a						思春期~未成年女?	有珠4遺跡発掘調査報告書 2009
91	有珠4遺跡	GP006	1640~1663	1640年駒ヶ岳噴火に伴う津波堆積物と思われる粗砂層が人骨下位に確認	l	a						思春期~未成年女?	有珠4遺跡発掘調査報告書 2009
92	有珠4遺跡	GP008	1640~1663	1640年駒ヶ岳噴火に伴う津波堆積物と思われる粗砂層が人骨下位に確認	l	?						若年女?	有珠4遺跡発掘調査報告書 2009
93	有珠4遺跡	GP008	1640~1663	1640年駒ヶ岳噴火に伴う津波堆積物と思われる粗砂層が人骨下位に確認	l	a						若年女?	有珠4遺跡発掘調査報告書 2009



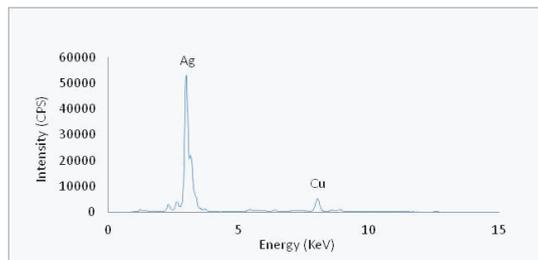
No.	遺跡名	出土地点	遺物年代	年代根拠	型式	種類	材質	寸法(cm)			重量(g)	備考	文献
								長さ	幅	厚さ			
94	有珠4遺跡	GP011	1640年以前	火山灰出土状況より1640年の駒ヶ岳噴火以前か	?	?					熟年男(50~60歳) 実測図なし	有珠4遺跡発掘調査報告書 2009	
95	有珠4遺跡	GP011	1640年以前	火山灰出土状況より1640年の駒ヶ岳噴火以前か	?	?					熟年男(50~60歳) 実測図なし	有珠4遺跡発掘調査報告書 2009	
96	有珠4遺跡	GP019	1640年以前	火山灰出土状況より1640年の駒ヶ岳噴火以前か	?	a					幼児女(3~4歳)	有珠4遺跡発掘調査報告書 2009	
97	有珠4遺跡	GP020	1640~1663	1640年駒ヶ岳噴火に伴う津波堆積物と思われる粗砂層が人骨下位に確認	l	a					青年男(20~30歳)	有珠4遺跡発掘調査報告書 2009	
98	有珠4遺跡	GP020	1640~1663	1640年駒ヶ岳噴火に伴う津波堆積物と思われる粗砂層が人骨下位に確認	?	?					青年男(20~30歳) 実測図なし	有珠4遺跡発掘調査報告書 2009	
99	有珠4遺跡	GP022	1640年以前	火山灰出土状況より1640年の駒ヶ岳噴火以前か	l	a					小児女(6~7歳)	有珠4遺跡発掘調査報告書 2009	
100	有珠4遺跡	遺構外(攪乱箇所)	不明	遺構外攪乱箇所より出土	l	a						有珠4遺跡発掘調査報告書 2009	



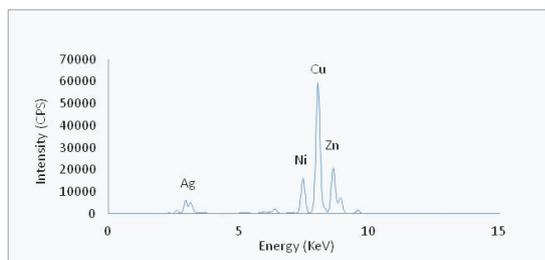
No.	遺跡名	出土地点	遺物年代	年代根拠	型式	種類	材質	寸法(cm)			重量(g)	備考	文献
								長さ	幅	厚さ			
101	大浜中遺跡		15世紀末	陶磁器,永楽通宝	Ⅲ	a	Cu, Sn, Pb, Znの合金						中近世の蝦夷地と北方交易 2014
102	大浜中遺跡		15世紀末	陶磁器,永楽通宝	Ⅲ	a	Cu, Sn, Pb, Znの合金						中近世の蝦夷地と北方交易 2014
103	大浜中遺跡		15世紀末	陶磁器,永楽通宝	Ⅲ	a	Cu, Sn, Pb, Znの合金						中近世の蝦夷地と北方交易 2014
104	大浜中遺跡		15世紀末	陶磁器,永楽通宝	Ⅲ	a	Ag						中近世の蝦夷地と北方交易 2014



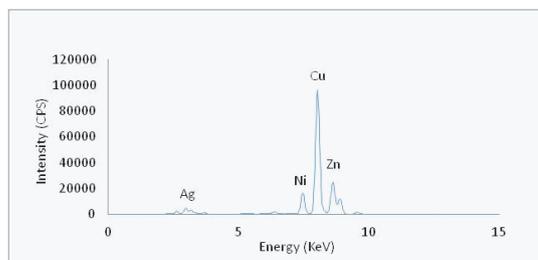
苦1a 本体



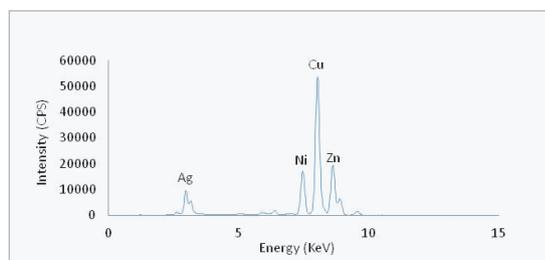
苦1a 飾り



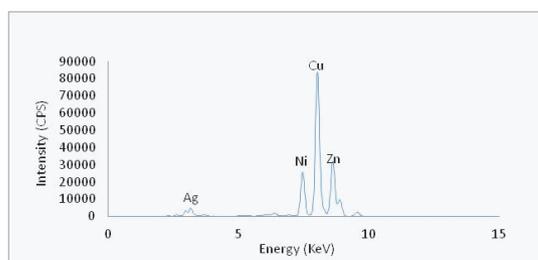
苦2a 本体



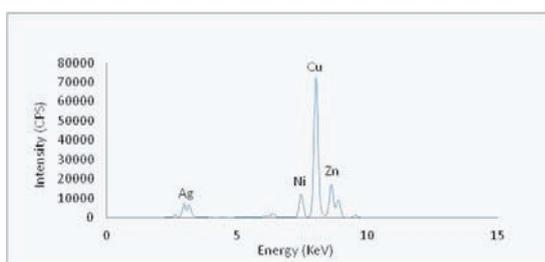
苦2a 飾り



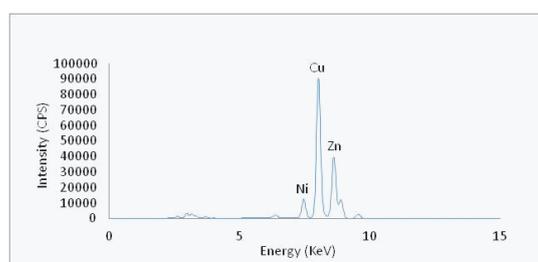
苦3a 本体



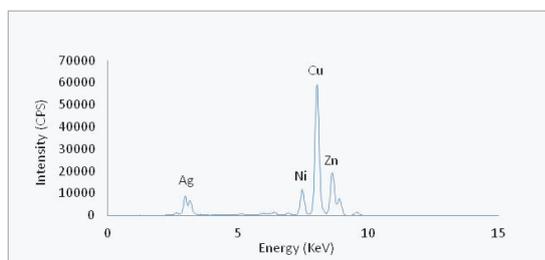
苦3a 飾り



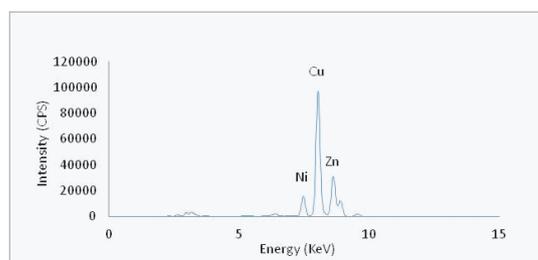
苦4b 本体



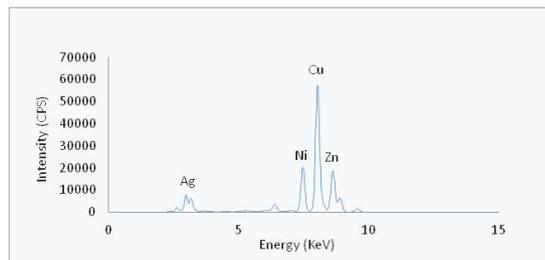
苦4b 飾り



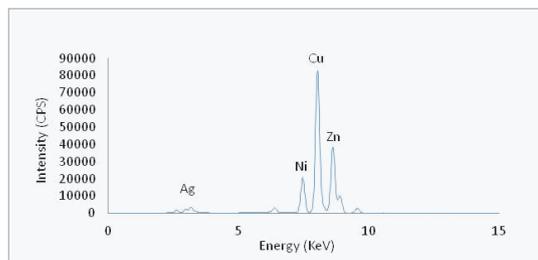
苦5b 本体



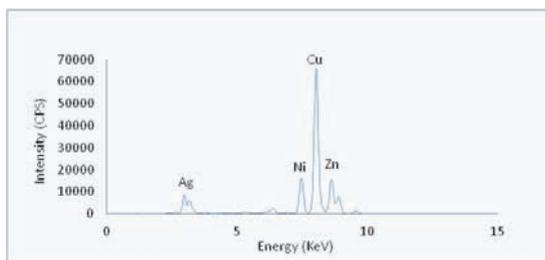
苦5b 飾り



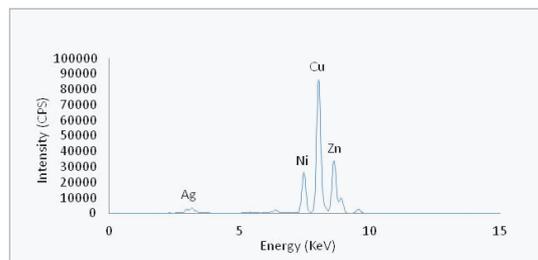
苦 6a 本体



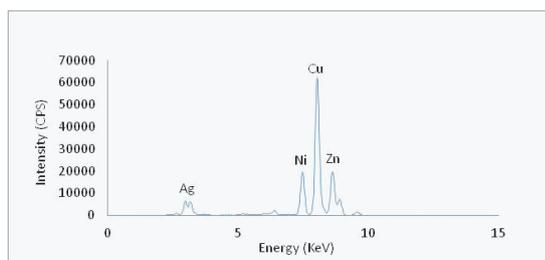
苦 6a 飾り



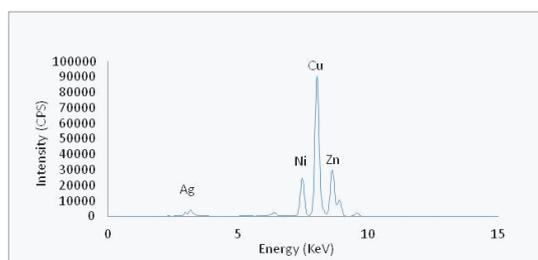
苦 7a 本体



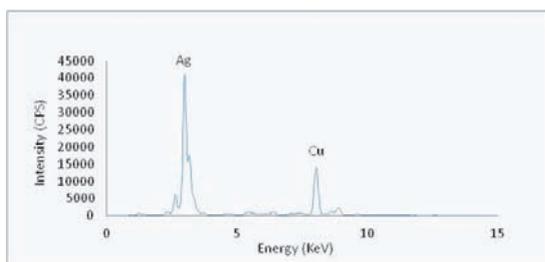
苦 7a 飾り



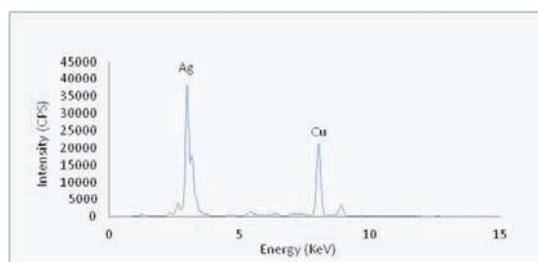
苦 8a 本体



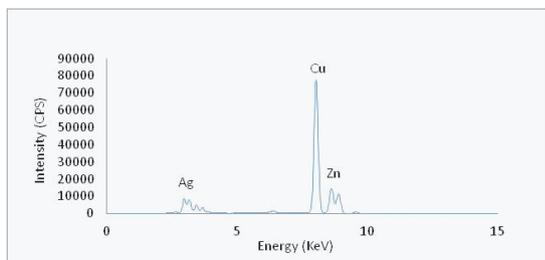
苦 8a 飾り



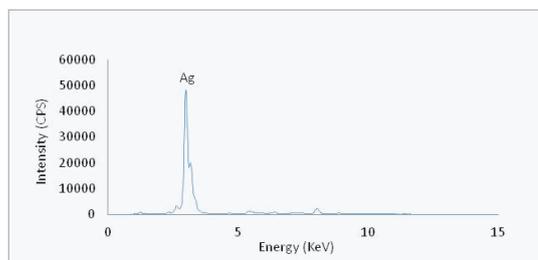
苦 9a 本体



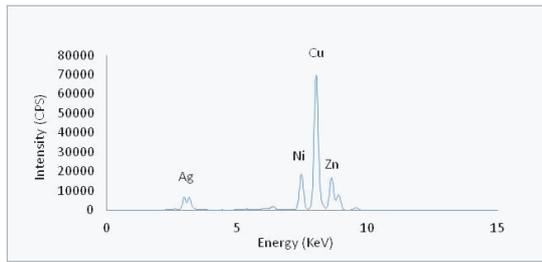
苦 10a 本体



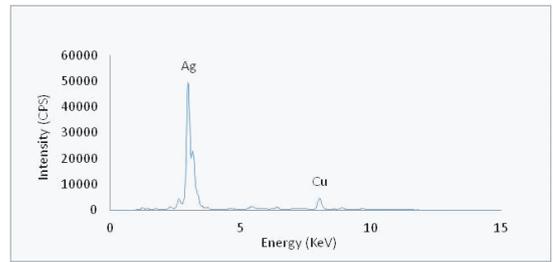
苦 10b 本体



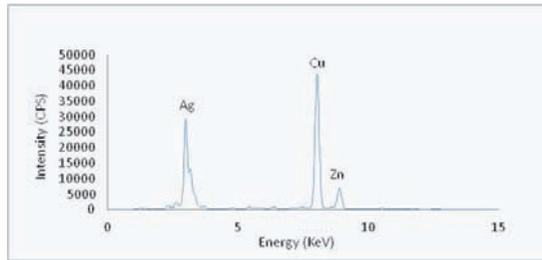
苦 11a 本体



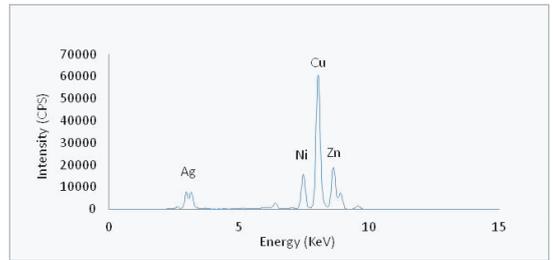
苦 11b 本体



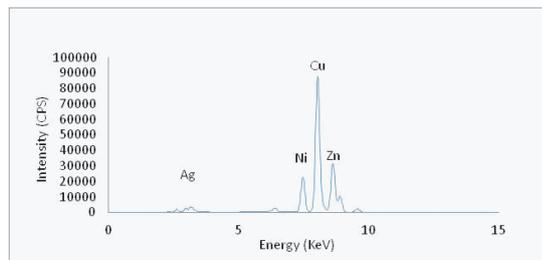
苦 12a 本体



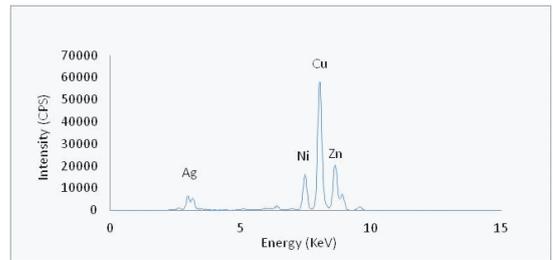
苦 12a 飾り



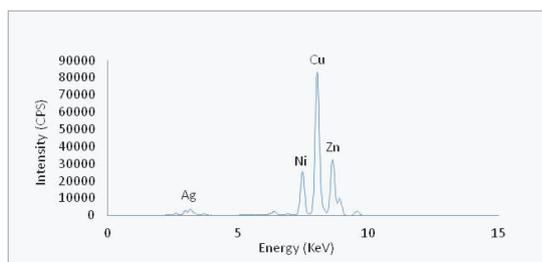
苦 13a 本体



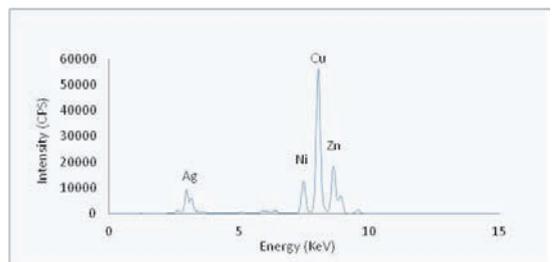
苦 13a 飾り



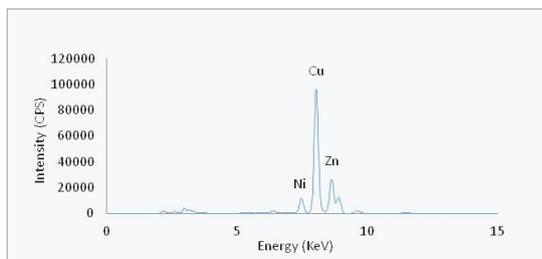
苦 14 本体



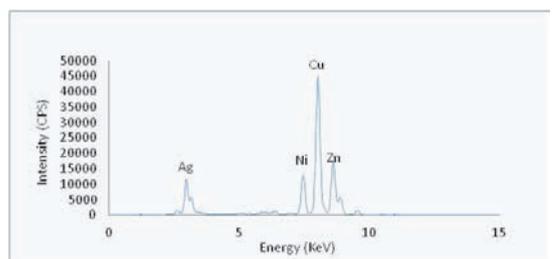
苦 14 飾り



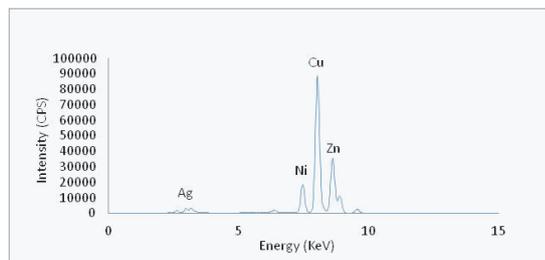
苦 15a 本体



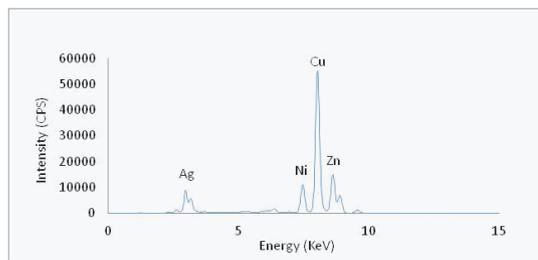
苦 15a 飾り



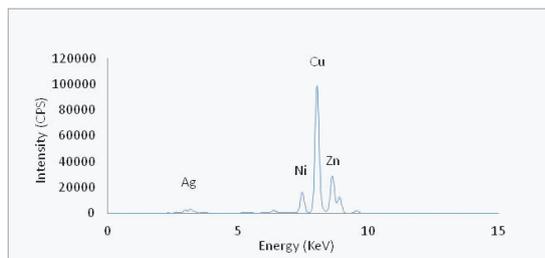
苦 16a 本体



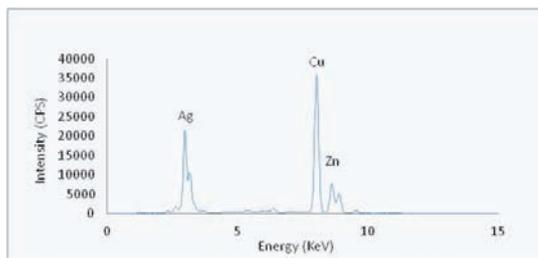
苦 16a 飾り



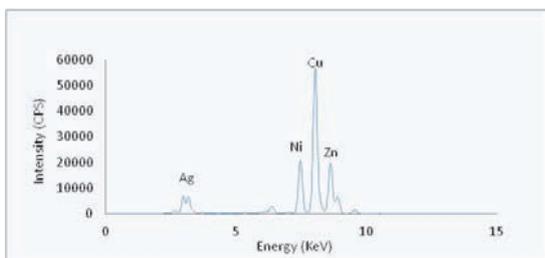
苦 16b 本体



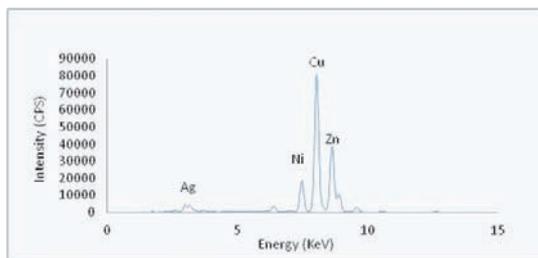
苦 16b 飾り



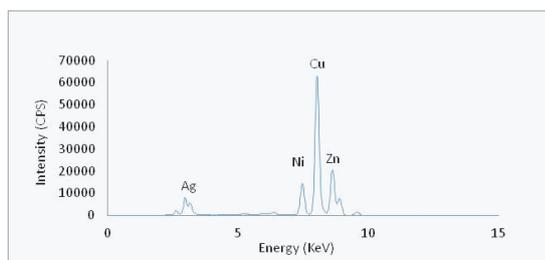
苦 17 本体



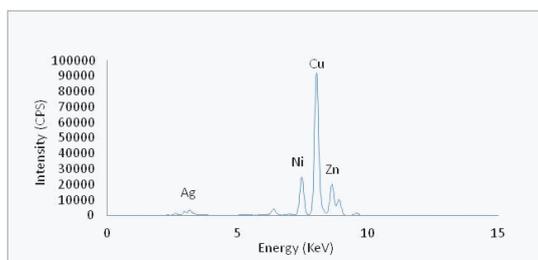
苦 18a 本体



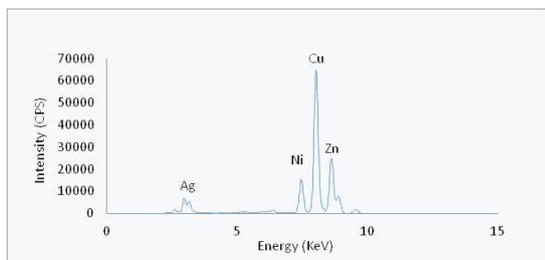
苦 18a 飾り



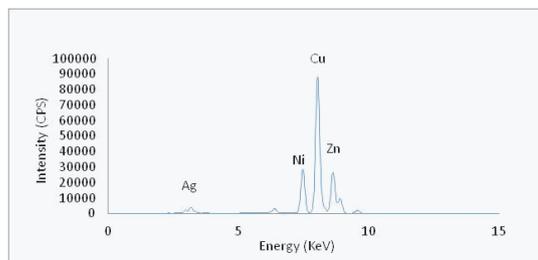
苦 19a 本体



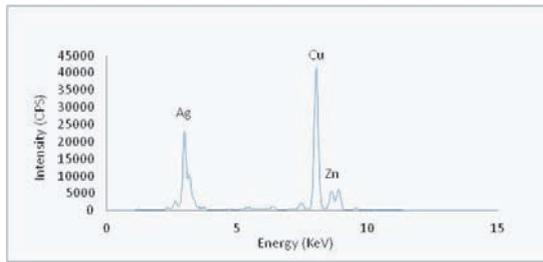
苦 19a 飾り



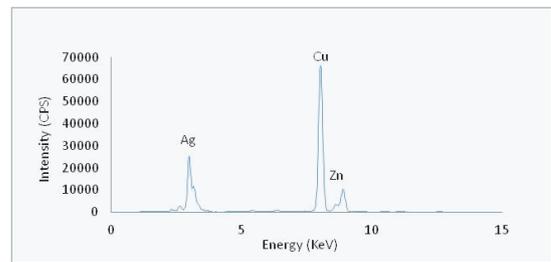
苦 19b 本体



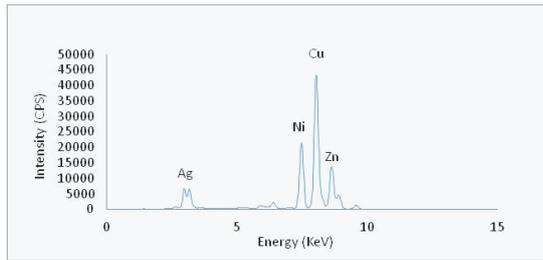
苦 19b 飾り



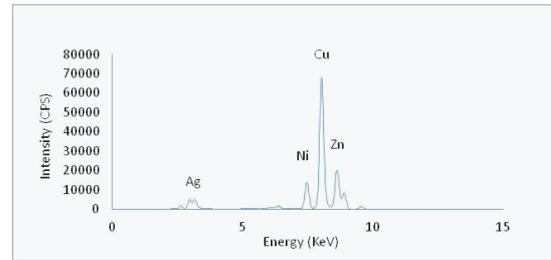
苦 20a 本体



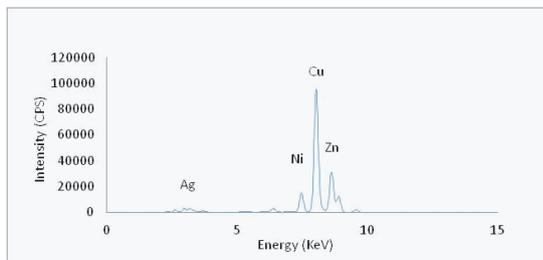
苦 20a 飾り



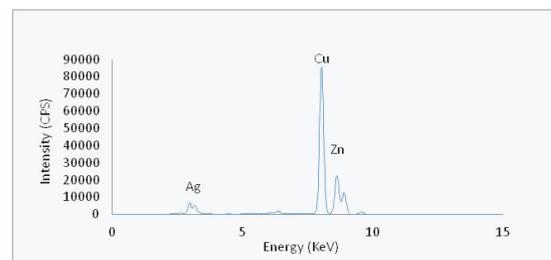
苦 20b 本体



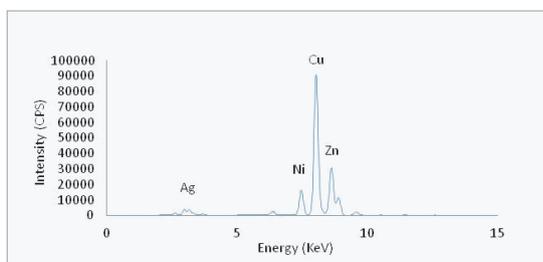
苦 21a 本体



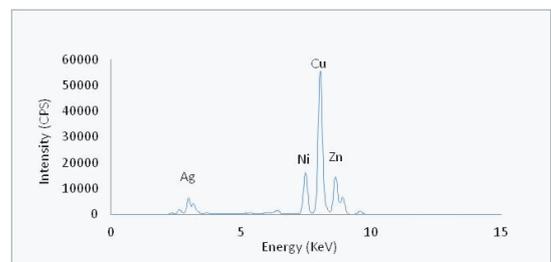
苦 21a 飾り



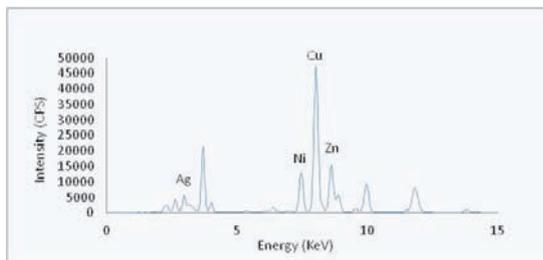
苦 21b 本体



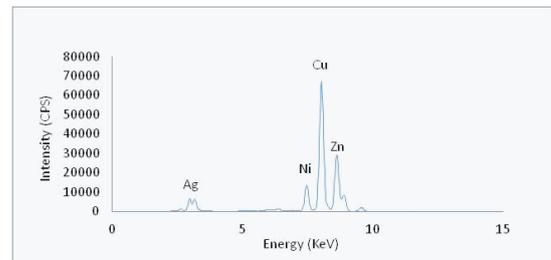
苦 21b 飾り



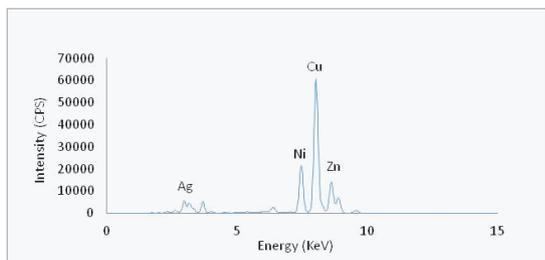
苦 22 本体



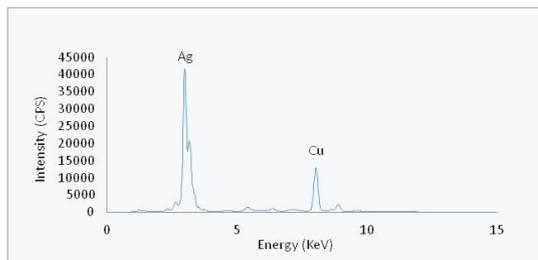
苦 22 飾り



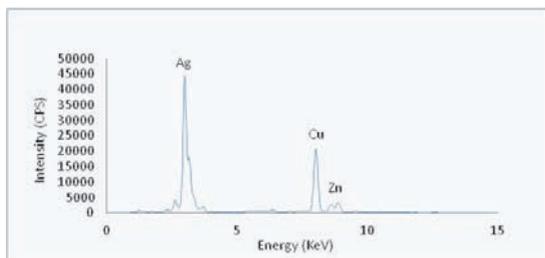
苦 23 本体



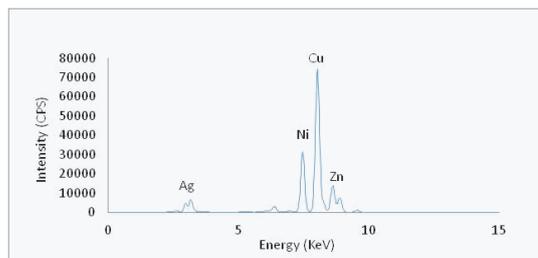
苦 23 飾り



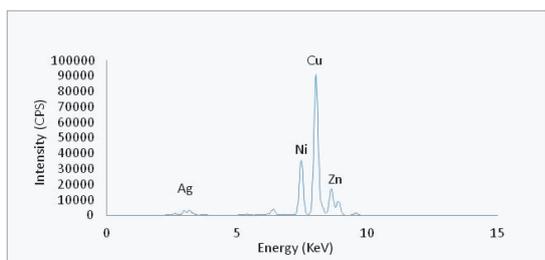
苦 24 本体



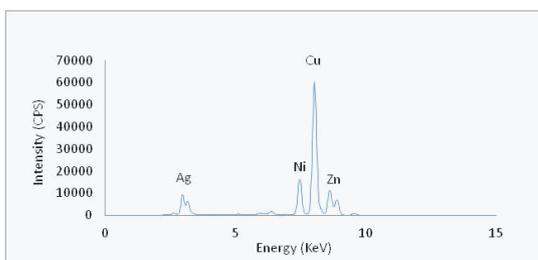
苦 24 飾り



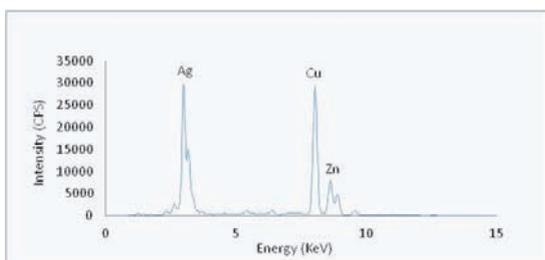
苦 25a 本体



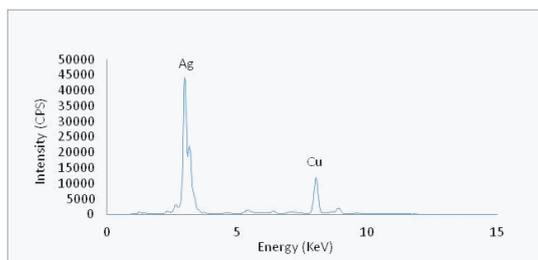
苦 25a 飾り



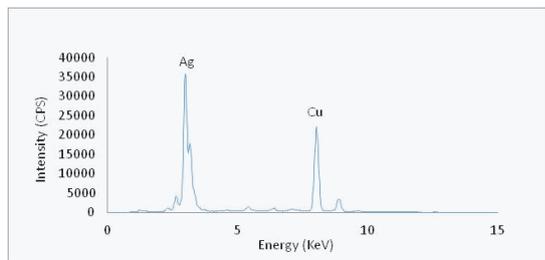
苦 26a 本体



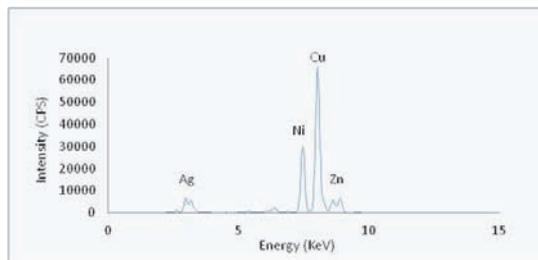
苦 27a 本体



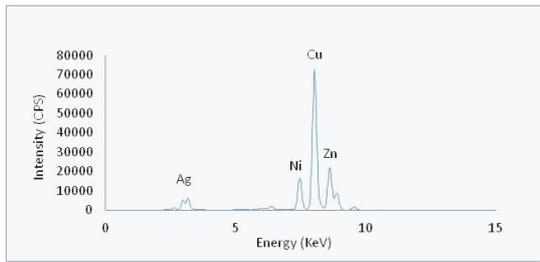
苦 27b 本体



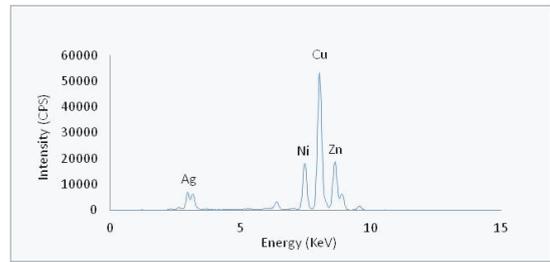
苦 28 本体



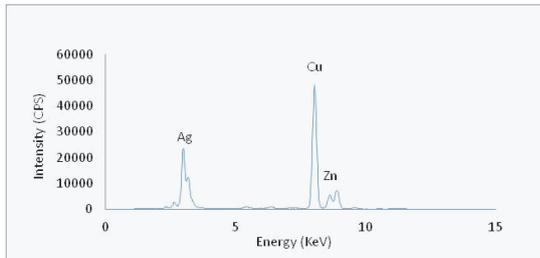
苦 29 本体



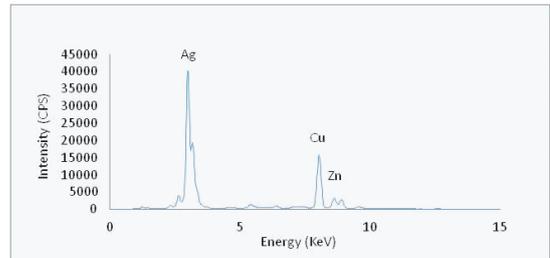
苦 30 本体



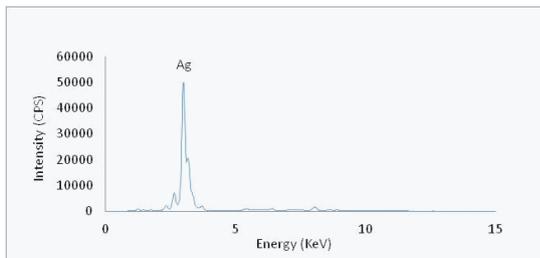
苦 31 本体



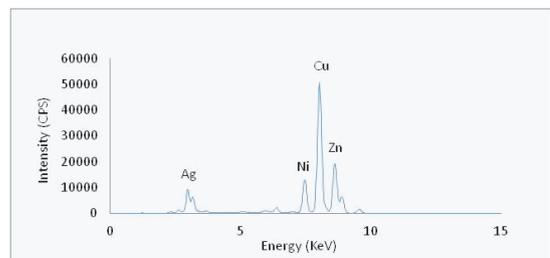
苦 32a 本体



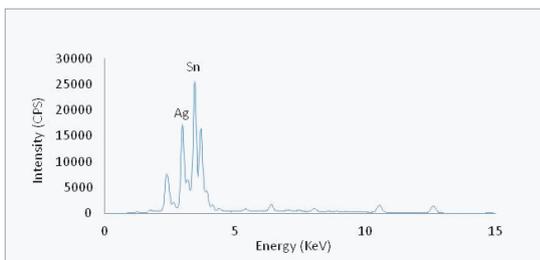
苦 33 本体



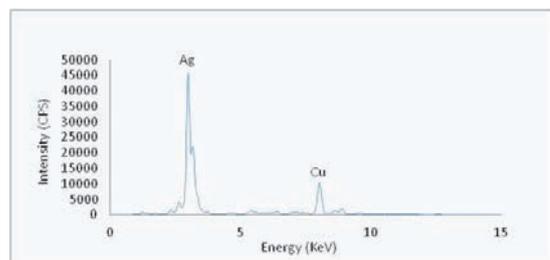
苦 33 飾り



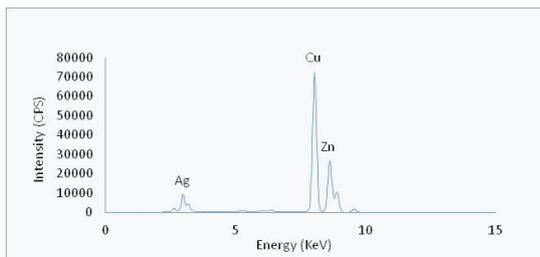
苦 34 本体



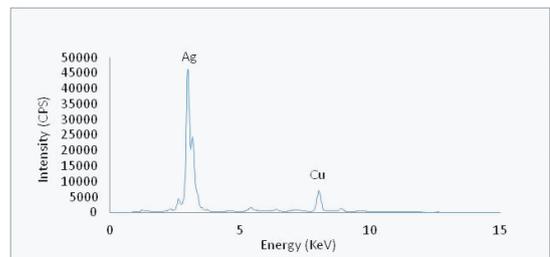
苦 35a 本体



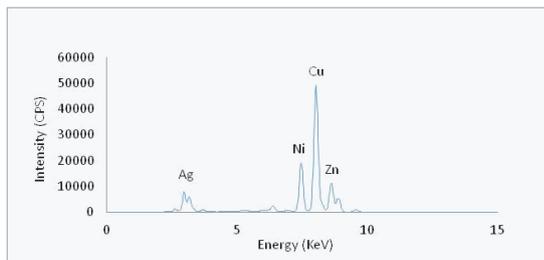
苦 36 本体



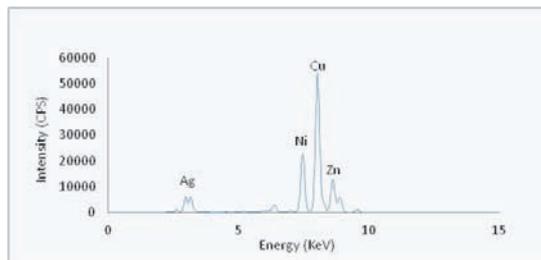
苦 37a 本体



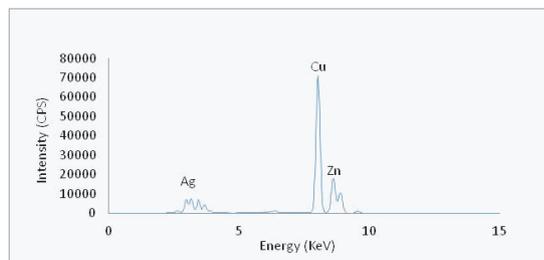
苦 38a 本体



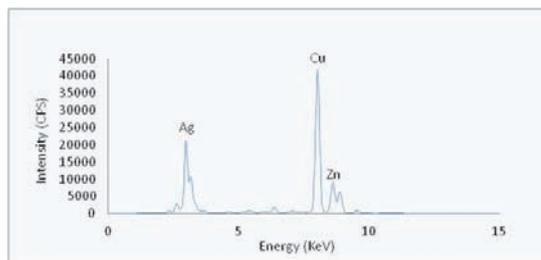
苦 39 本体



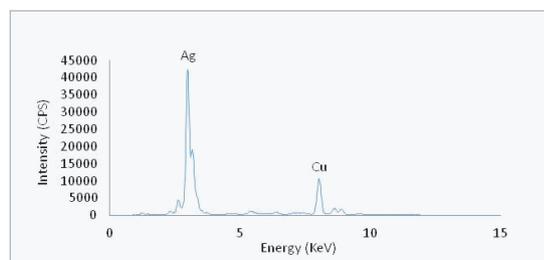
苦 40 本体



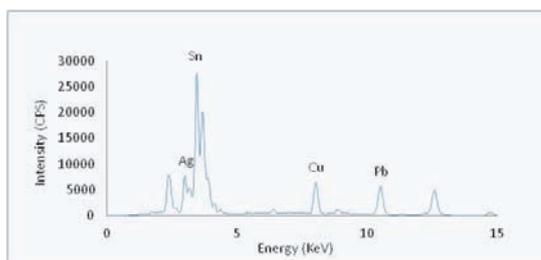
苦 41 本体



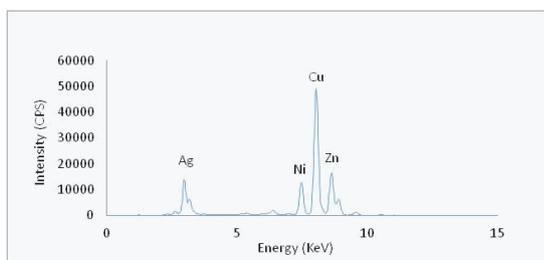
苦 42 本体



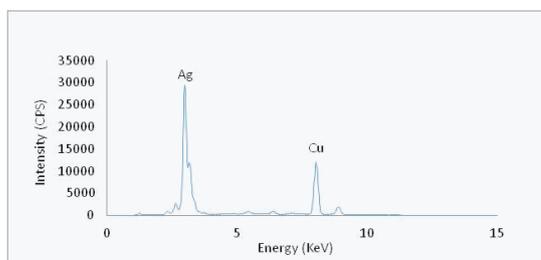
苦 43 本体



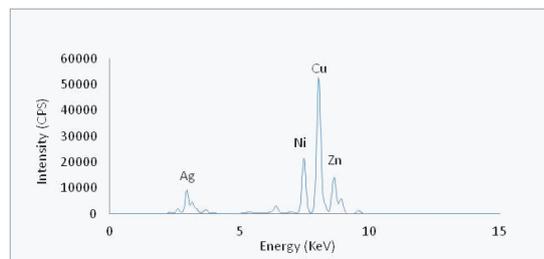
苦 43 飾り



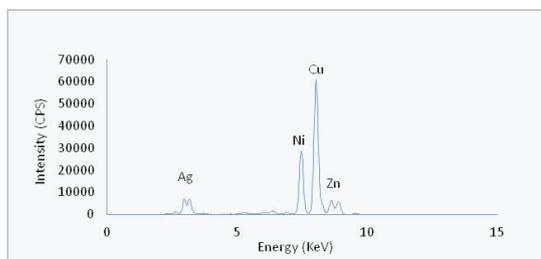
苦 44 本体



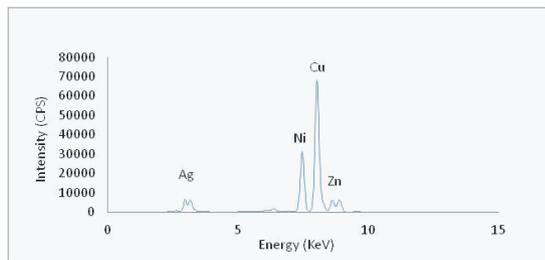
苦 45 本体



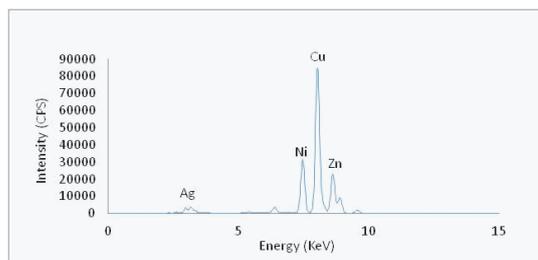
苦 46 本体



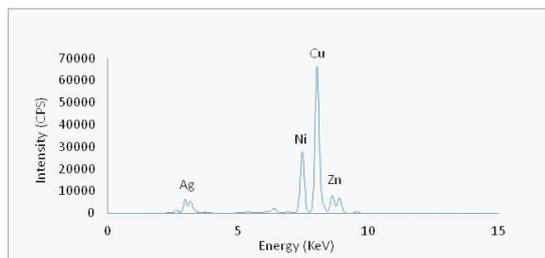
苦 47 本体



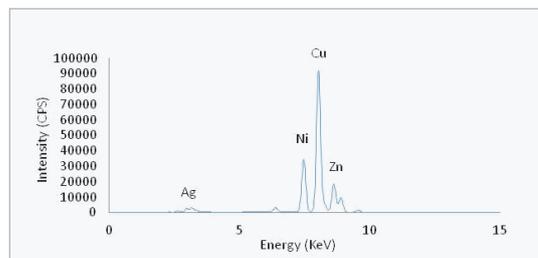
苦48a 本体



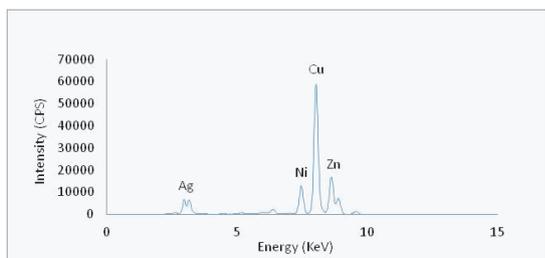
苦48a 飾り



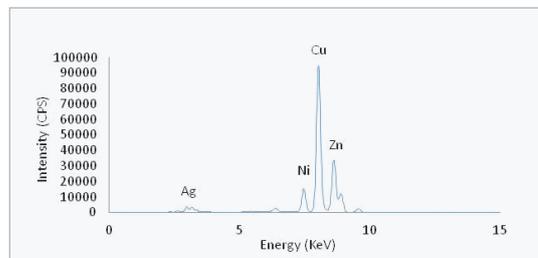
苦49a 本体



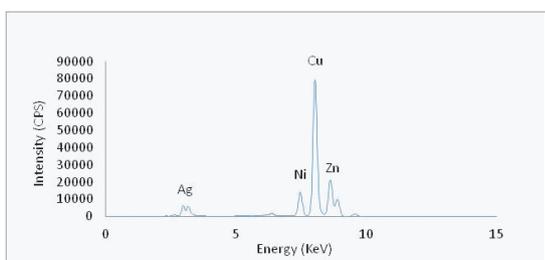
苦49a 飾り



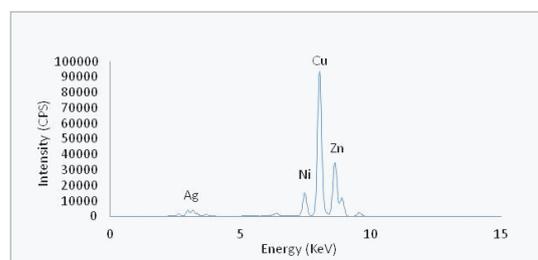
苦50a 本体



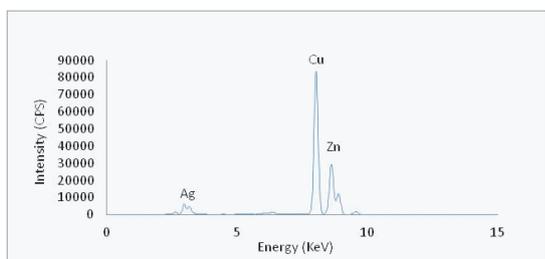
苦50a 飾り



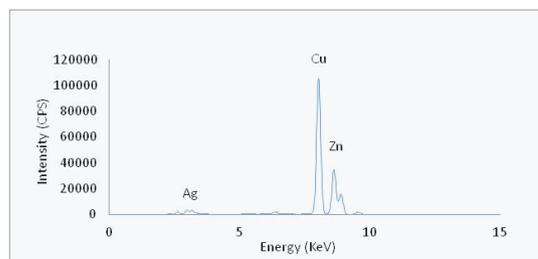
苦51a 本体



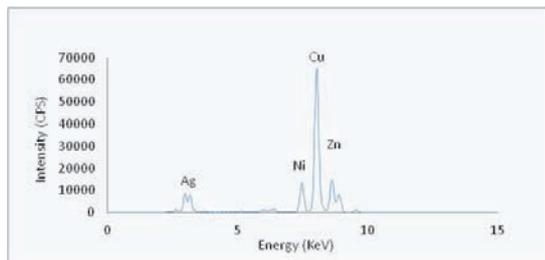
苦51a 飾り



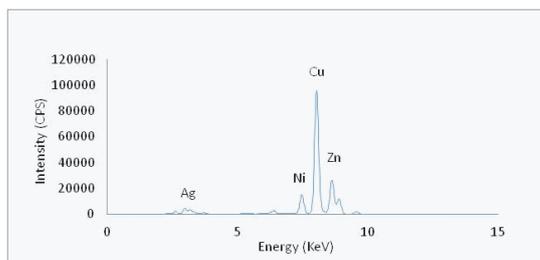
苦52a 本体



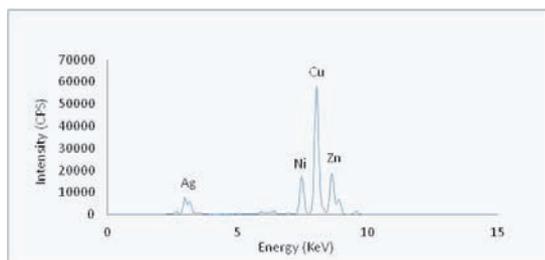
苦52a 飾り



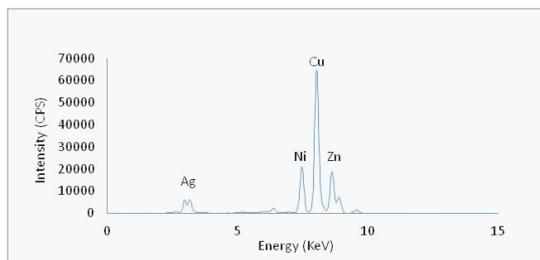
苦53a 本体



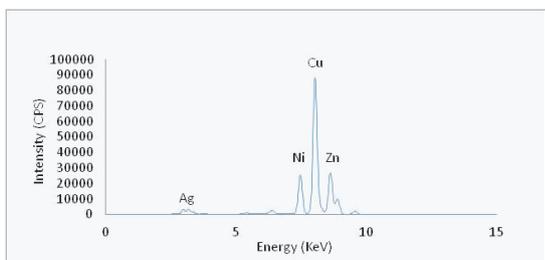
苦53a 飾り



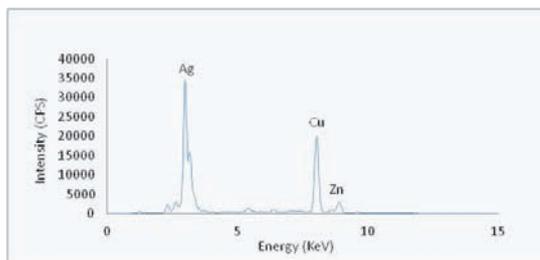
苦54a 本体



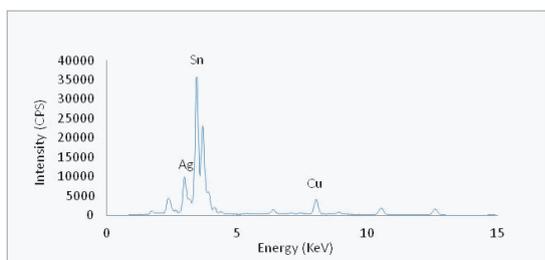
苦55a 本体



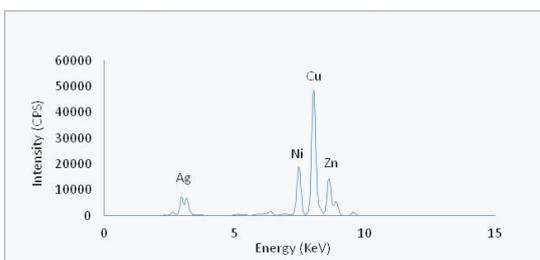
苦55a 飾り



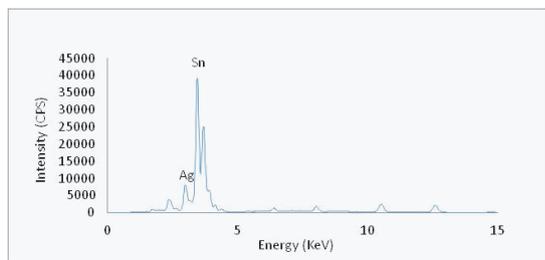
苦56a 本体



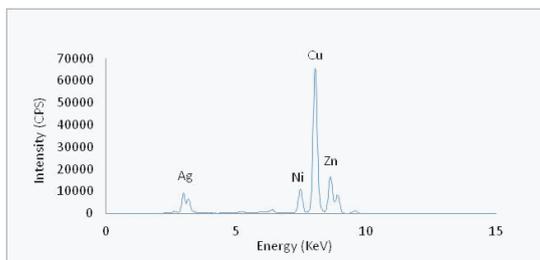
苦56a 飾り



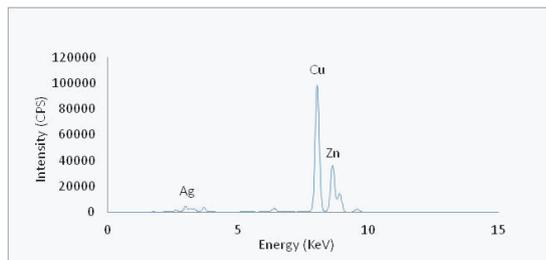
苦57a 本体



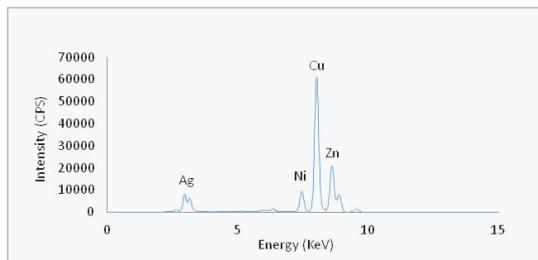
苦57a 飾り



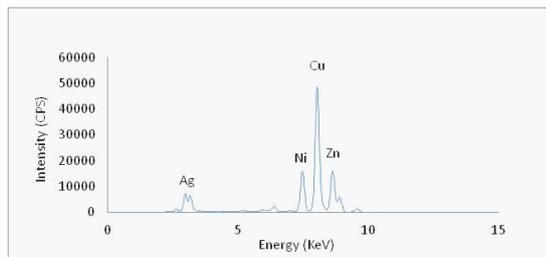
苦58a 本体



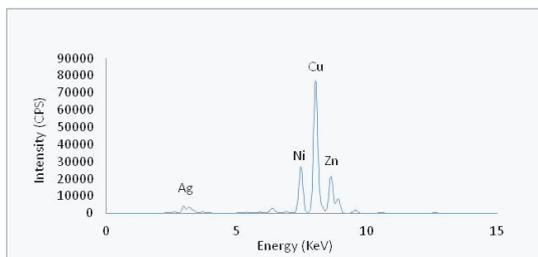
苦 58a 飾り



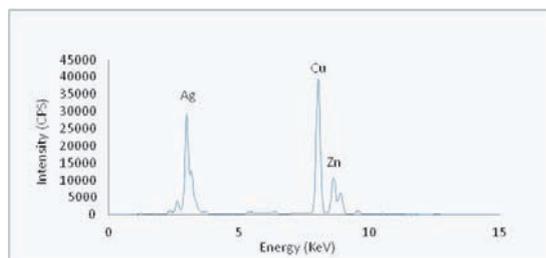
苦 59a 本体



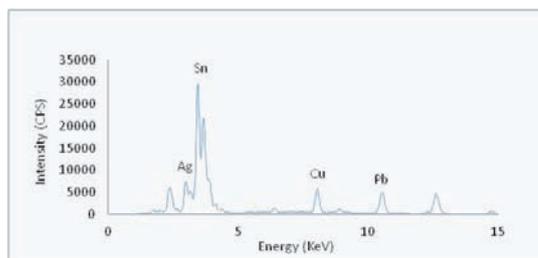
苦 60a 本体



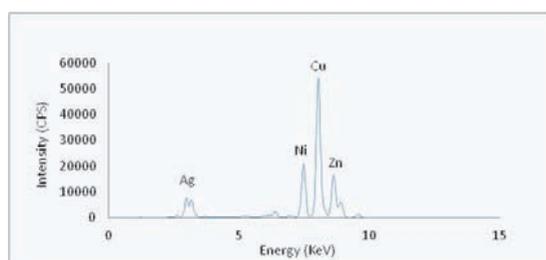
苦 60a 飾り



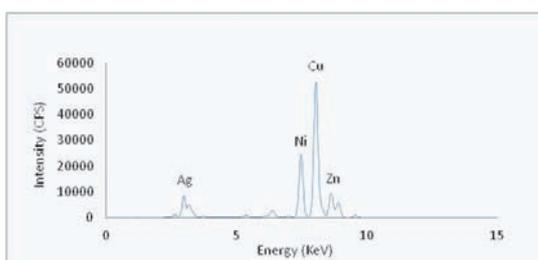
苦 61a 本体



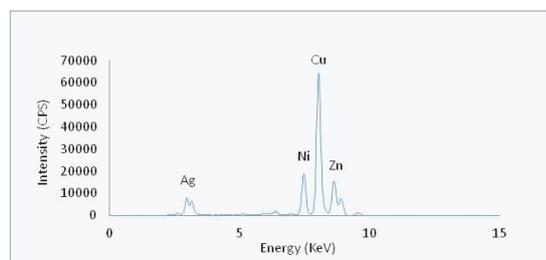
苦 61a 飾り



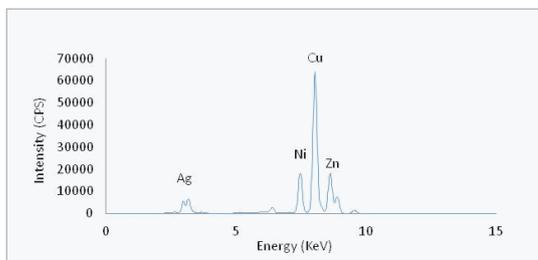
苦 62a 本体



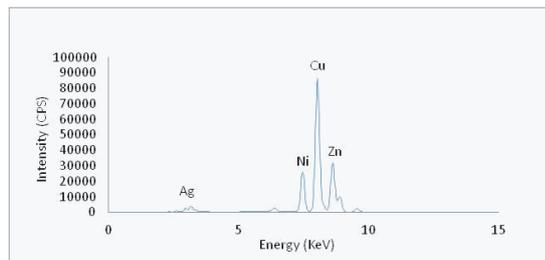
苦 62a 飾り



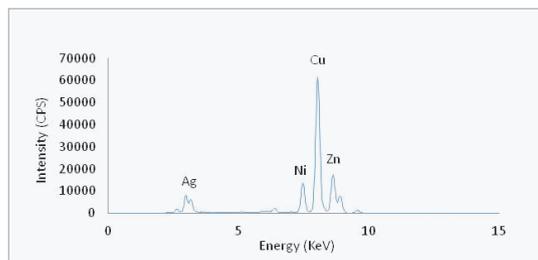
苦 63a 本体



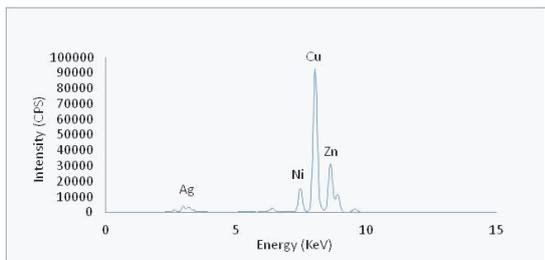
苦 64a 本体



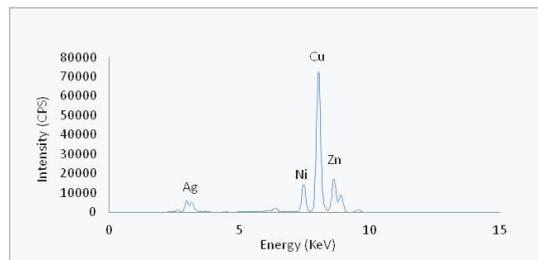
苦 64a 飾り



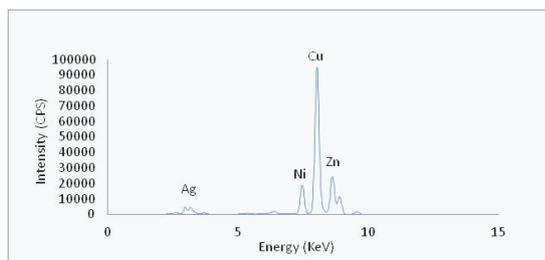
苦 65a 本体



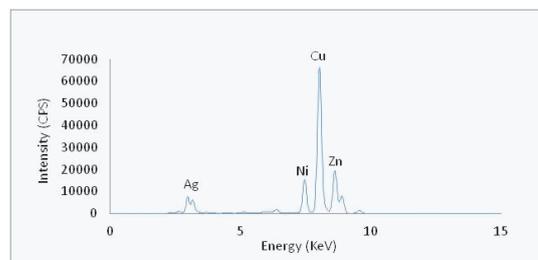
苦 65a 飾り



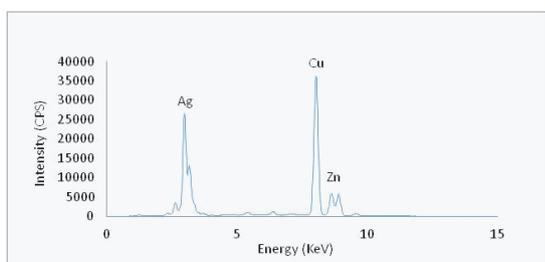
苦 66a 本体



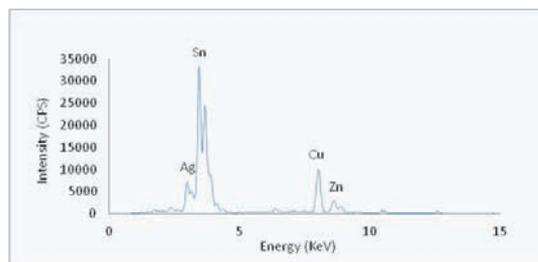
苦 66a 飾り



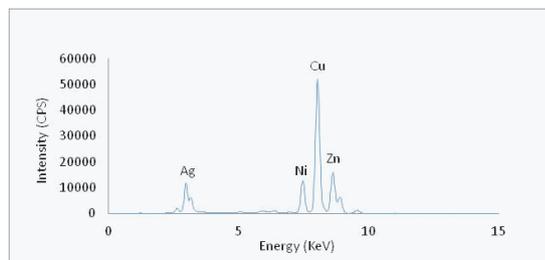
苦 67b 本体



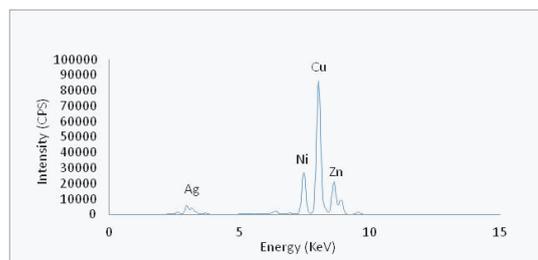
苦 68a 本体



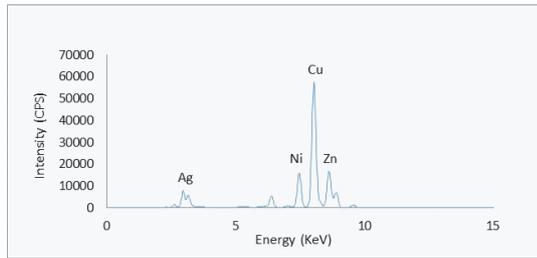
苦 68a 飾り



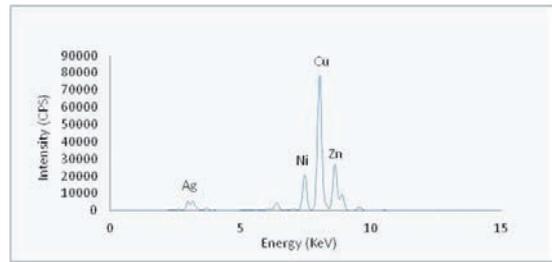
苦 69a 本体



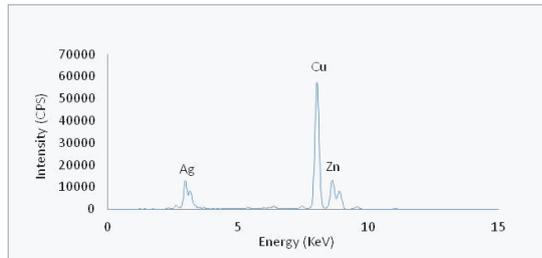
苦 69a 飾り



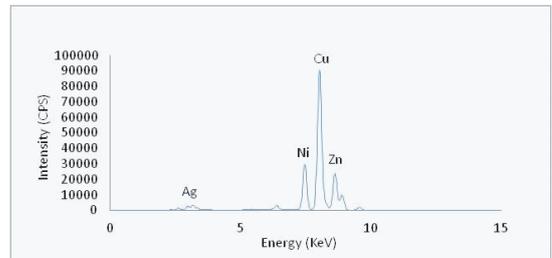
苦70a 本体



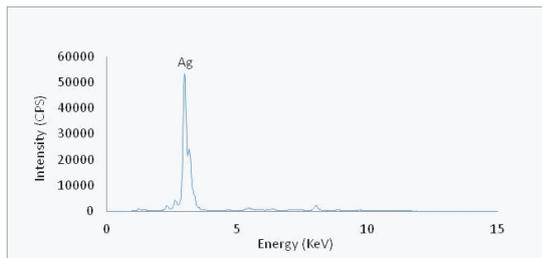
苦70a 飾り



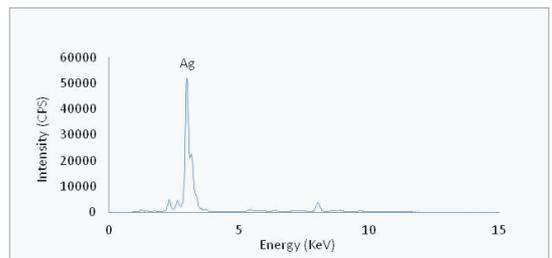
苦71a 本体



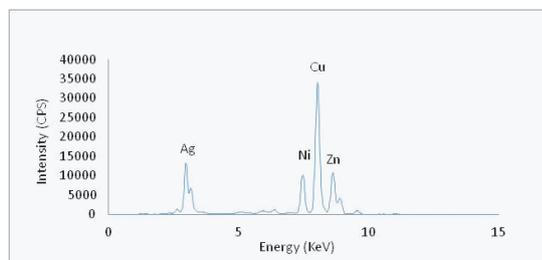
苦71a 飾り



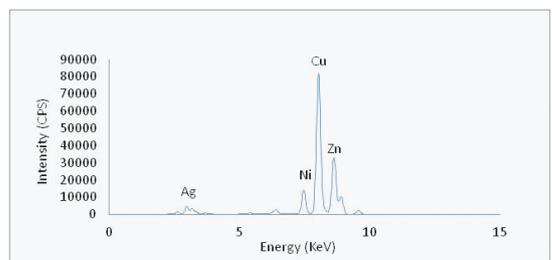
苦72a 本体



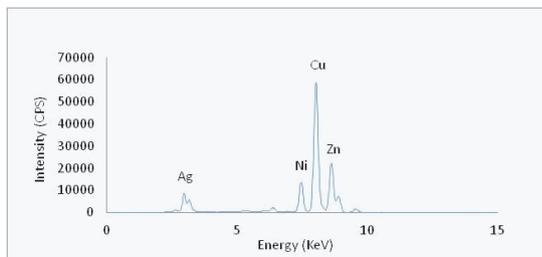
苦72a 飾り



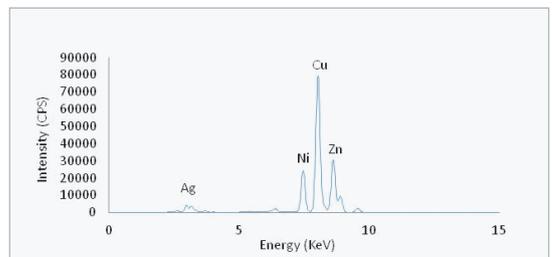
苦73a 本体



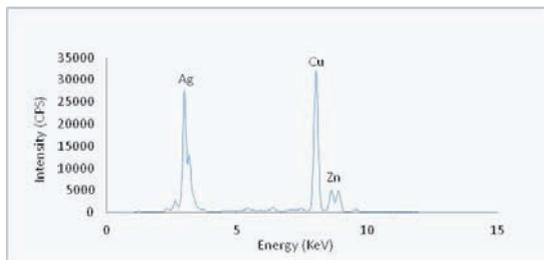
苦73a 飾り



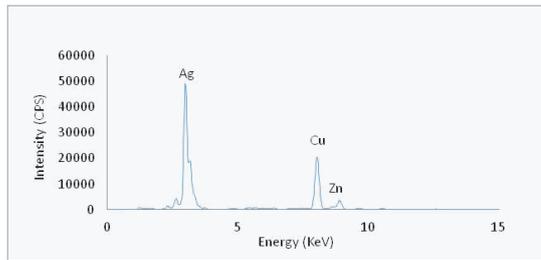
苦73b 本体



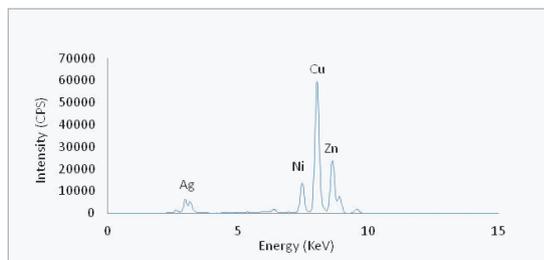
苦73b 飾り



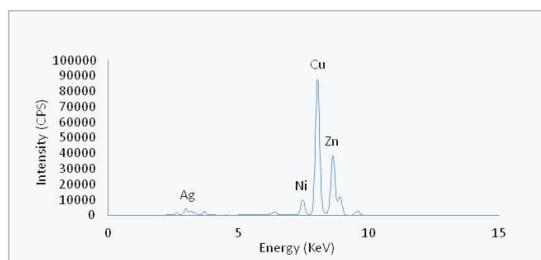
苦74a 本体



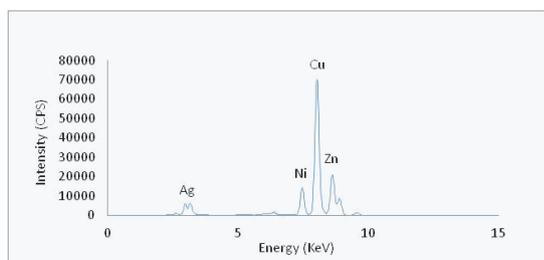
苦74a 飾り



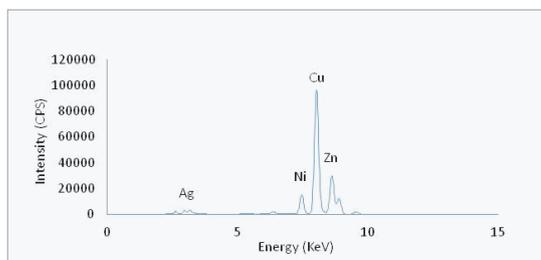
苦75a 本体



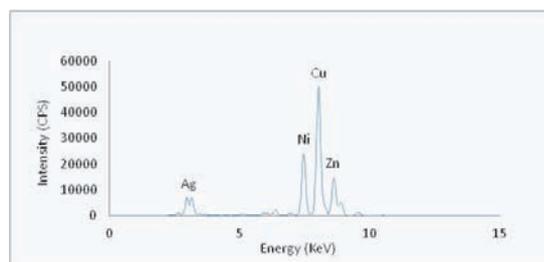
苦75a 飾り



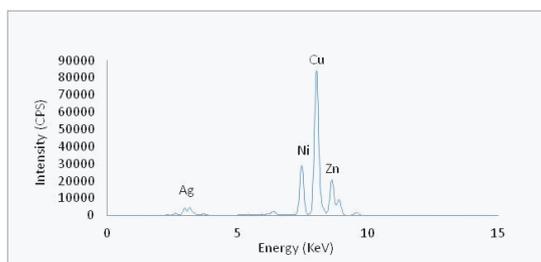
苦76a 本体



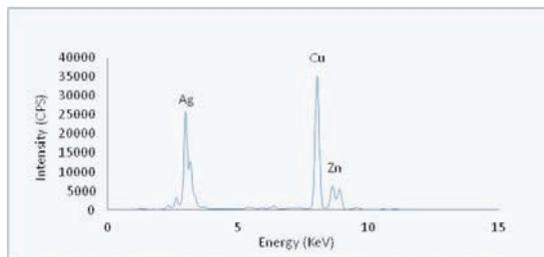
苦76a 飾り



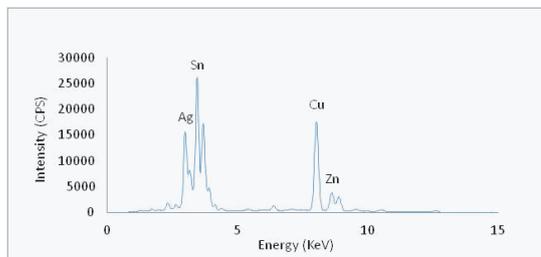
苦77a 本体



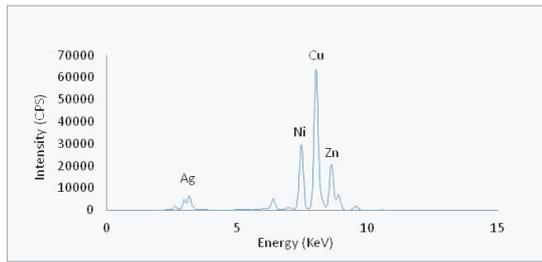
苦77a 飾り



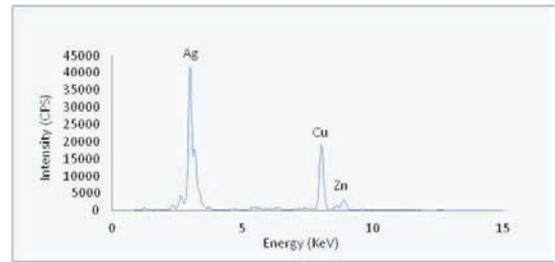
苦78a 本体



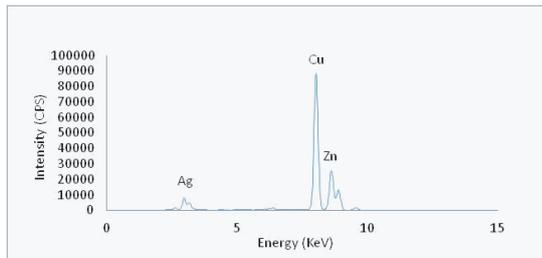
苦78a 飾り



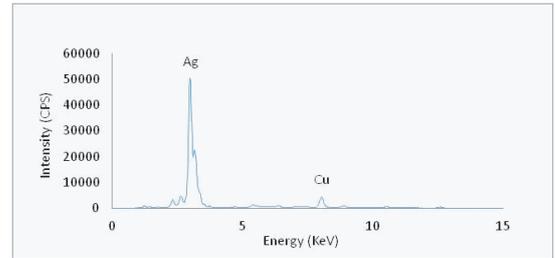
苦 79a 本体



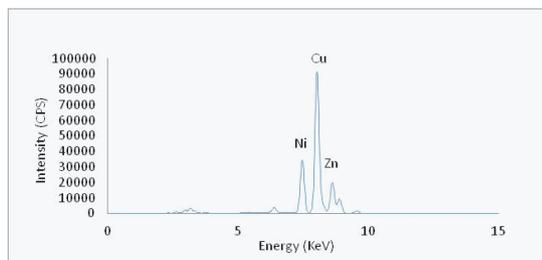
苦 80a 本体



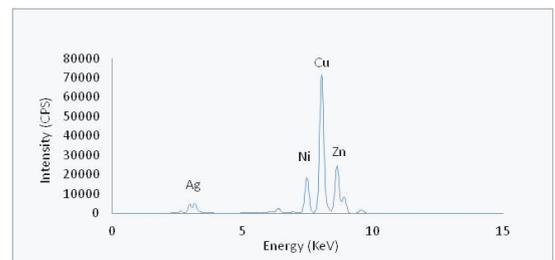
苦 81a 本体



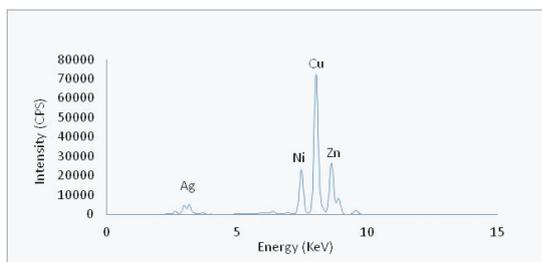
苦 82a 本体



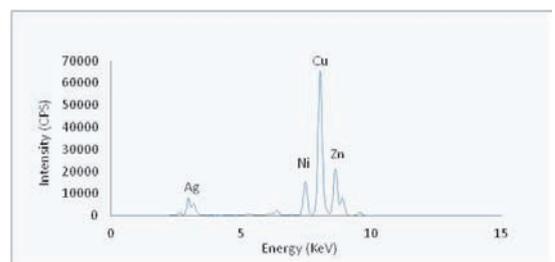
苦 82a 飾り



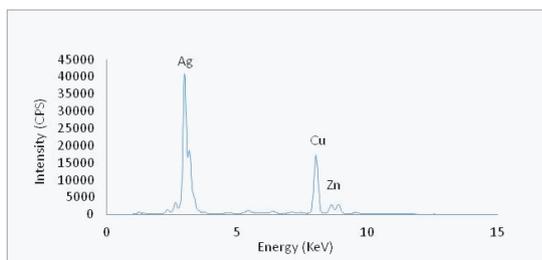
苦 83a 本体



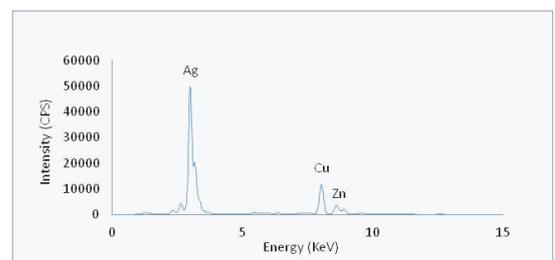
苦 83a 飾り



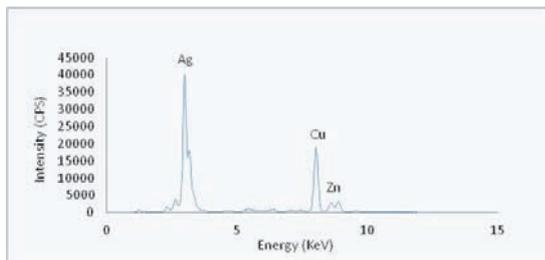
苦 84a 本体



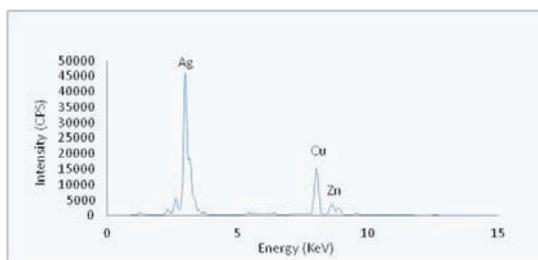
苦 85a 本体



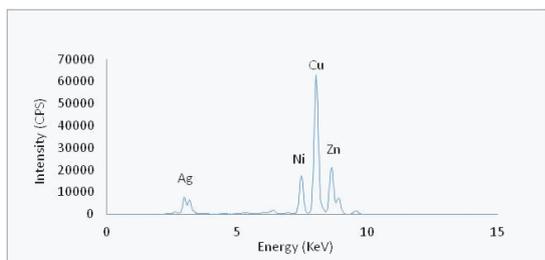
苦 85a 飾り



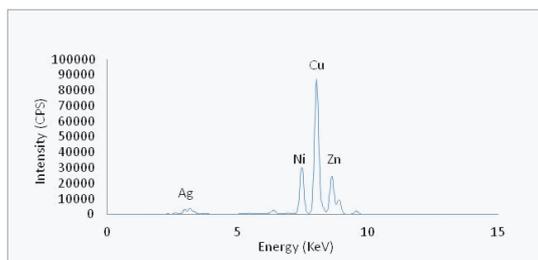
苦 85b 本体



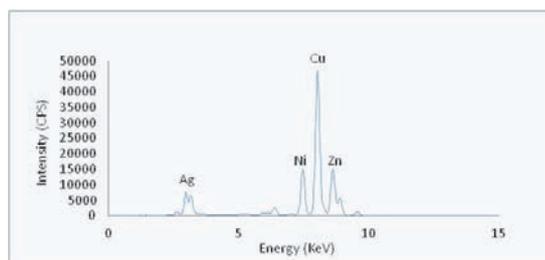
苦 85b 飾り



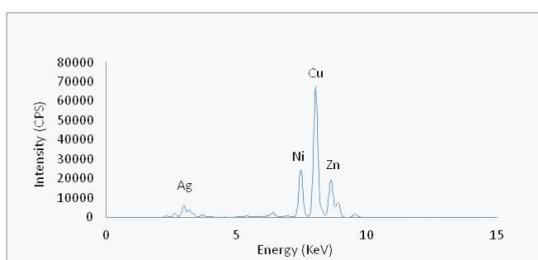
苦 86a 本体



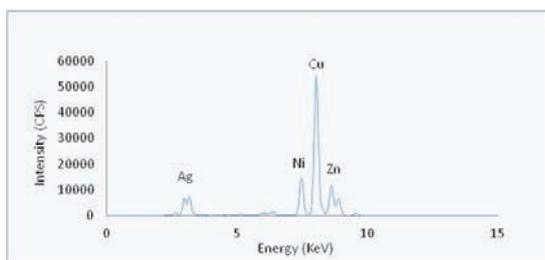
苦 86a 飾り



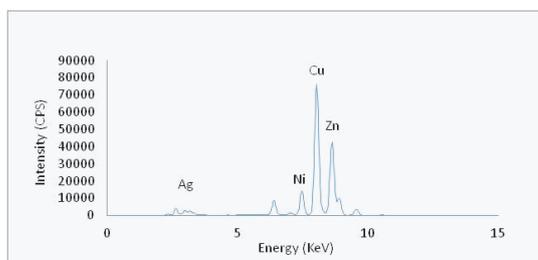
苦 87a 本体



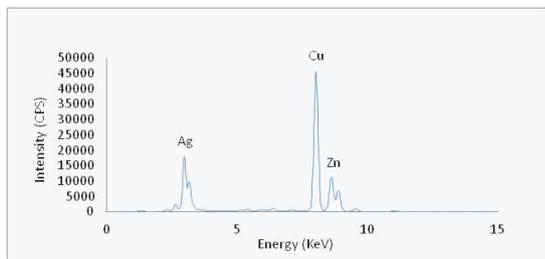
苦 87a 飾り



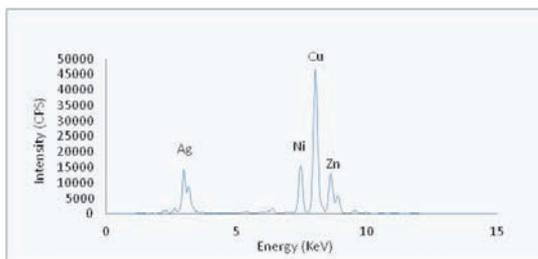
苦 88a 本体



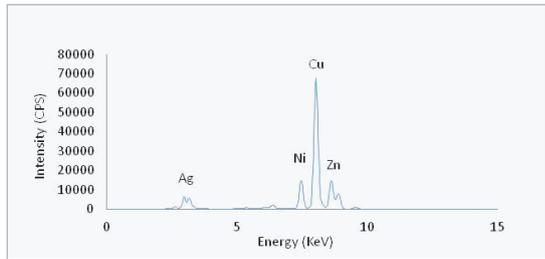
苦 88a 飾り



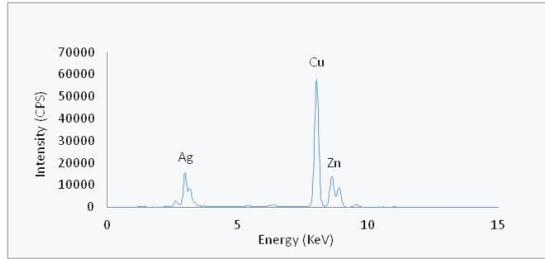
苦 89a 本体



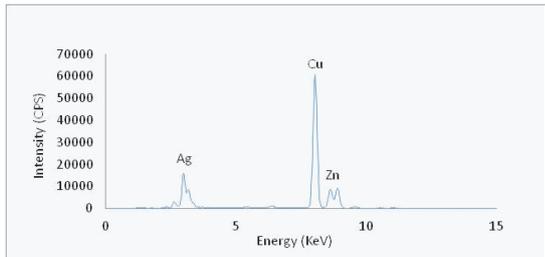
苦 90a 本体



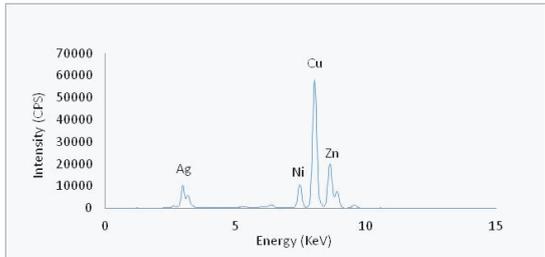
苦 91b 本体



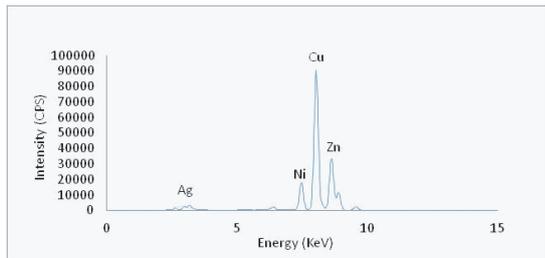
苦 92a 本体



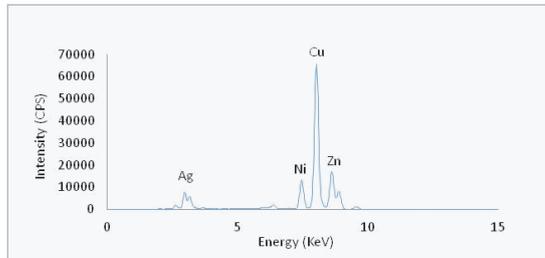
苦 93a 本体



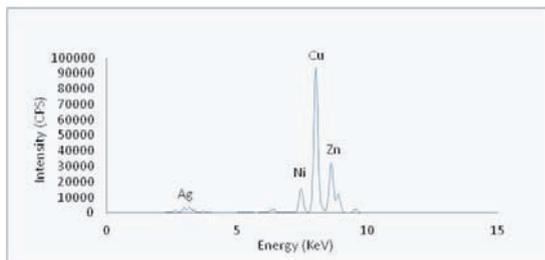
苦 94a 本体



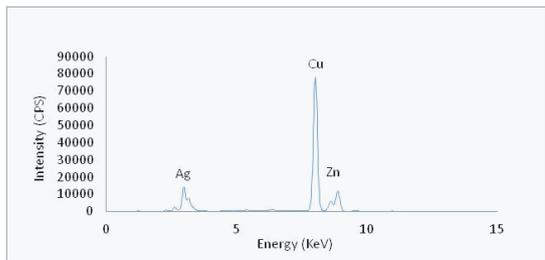
苦 94a 飾り



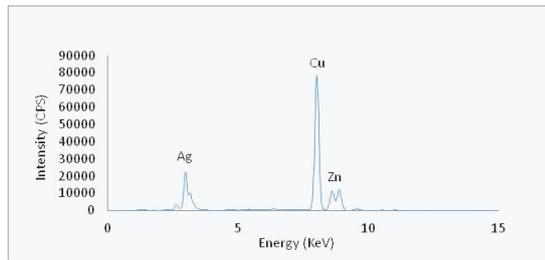
苦 95a 本体



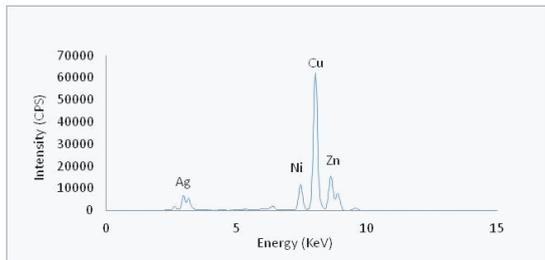
苦 95a 飾り



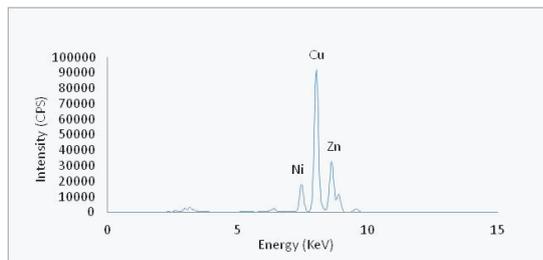
苦 96a 本体



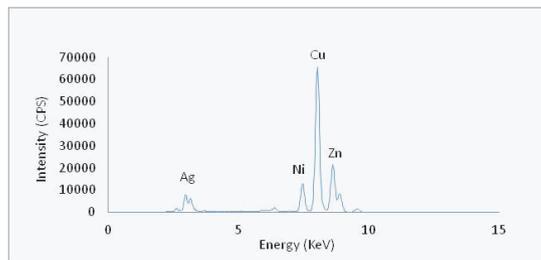
苦 96a 飾り



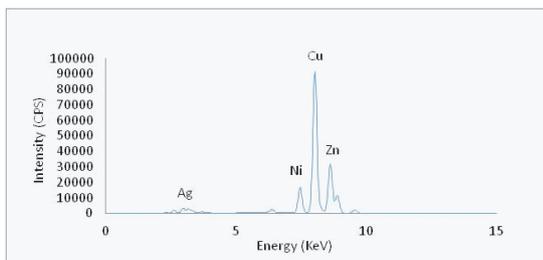
苦 97a 本体



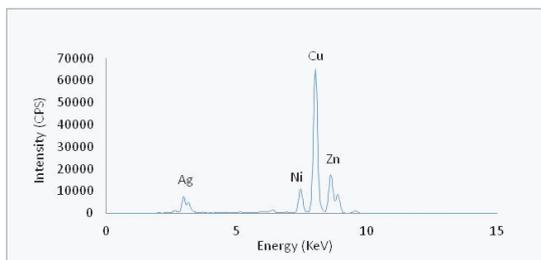
苦 97a 飾り



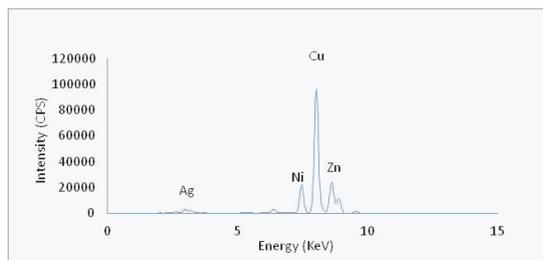
苦 97b 本体



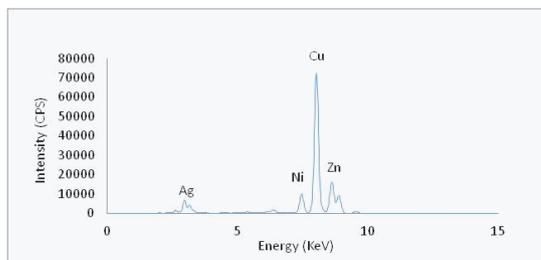
苦 97b 飾り



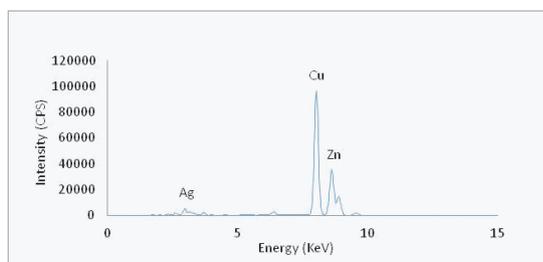
苦 98a 本体



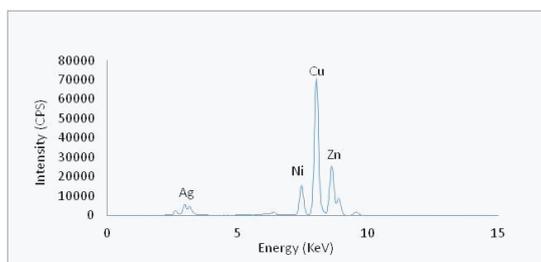
苦 98a 飾り



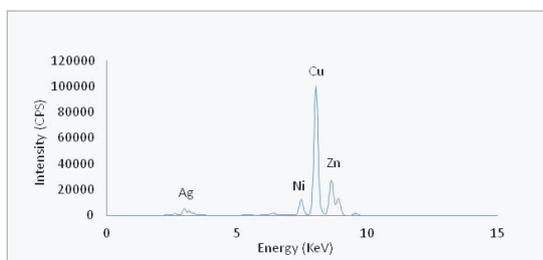
苦 98b 本体



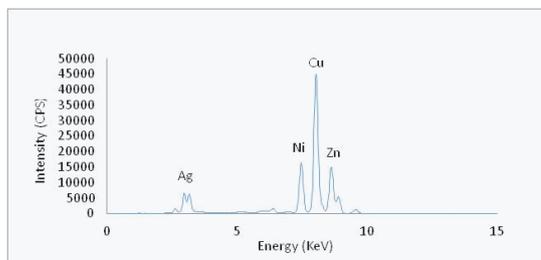
苦 98b 飾り



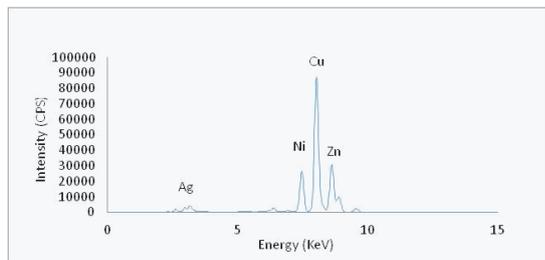
苦 99a 本体



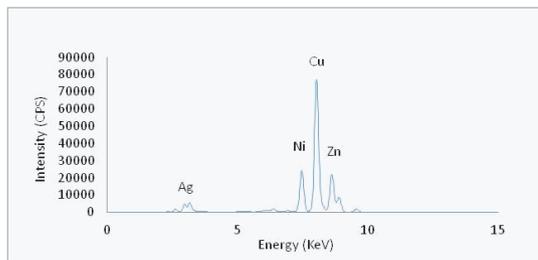
苦 99a 飾り



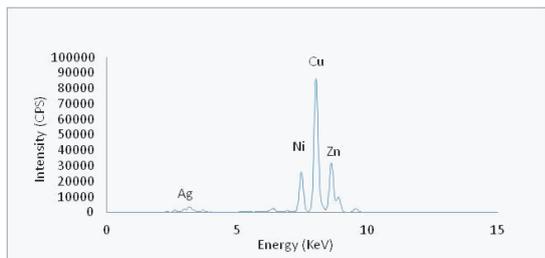
苦 100a 本体



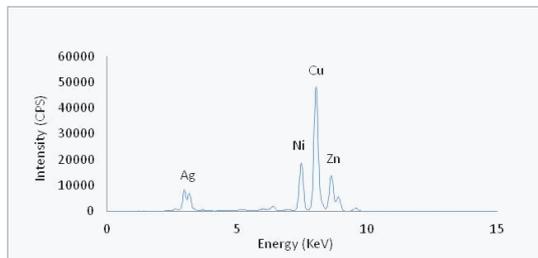
苦 100a 飾り



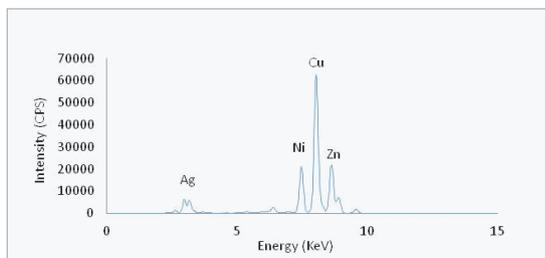
苦 101a 本体



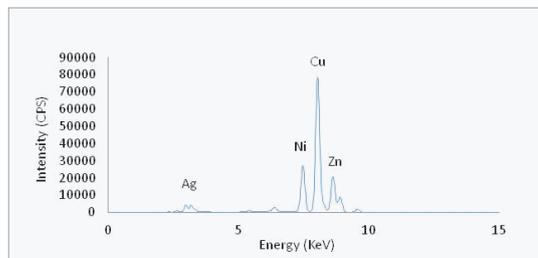
苦 101a 飾り



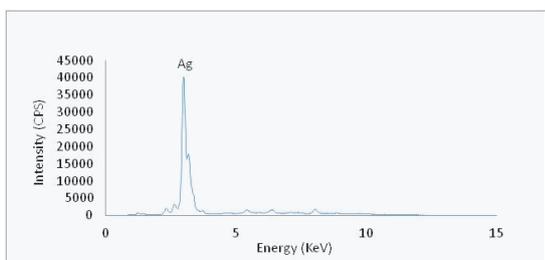
苦 102a 本体



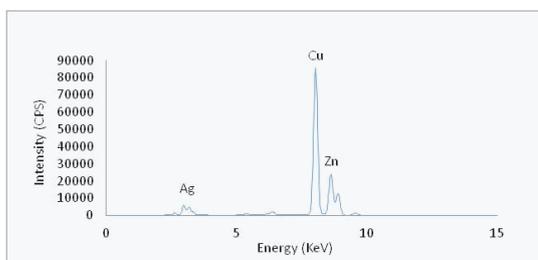
苦 103a 本体



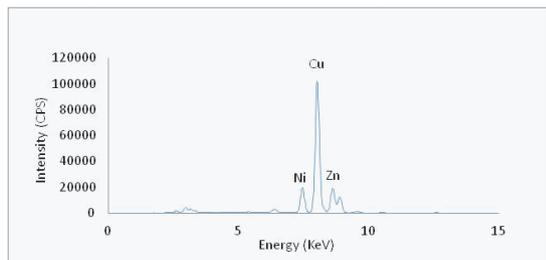
苦 103a 飾り



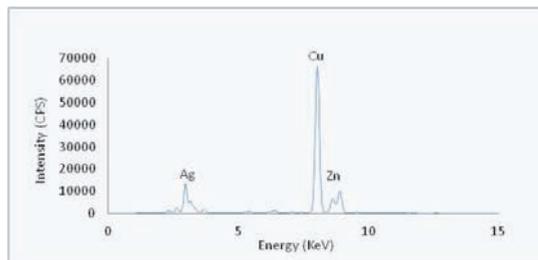
苦 104a 本体



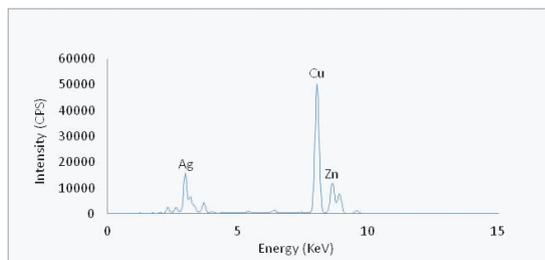
苦 105a 本体



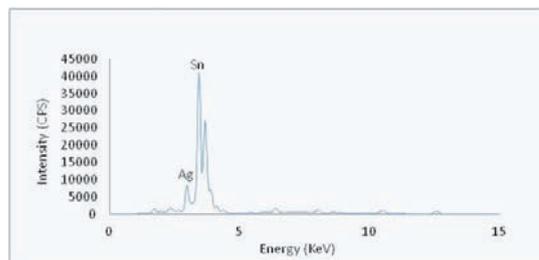
71① 本体



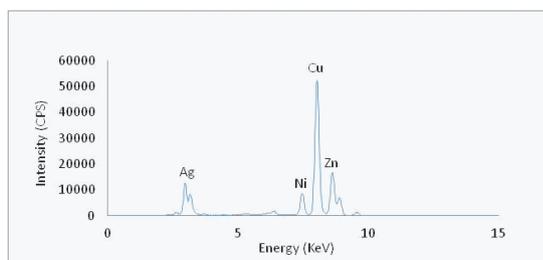
71② 本体



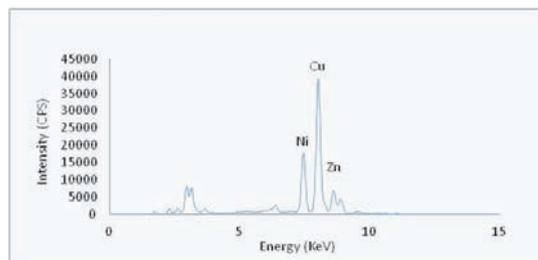
73① 本体



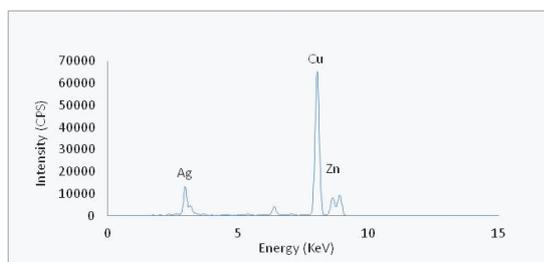
73① 飾り



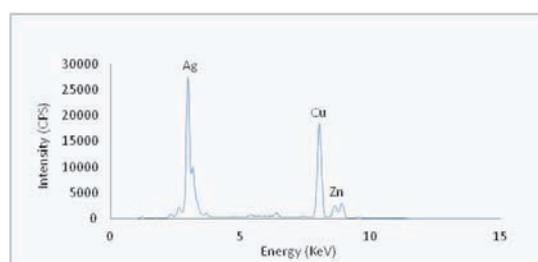
73② 本体



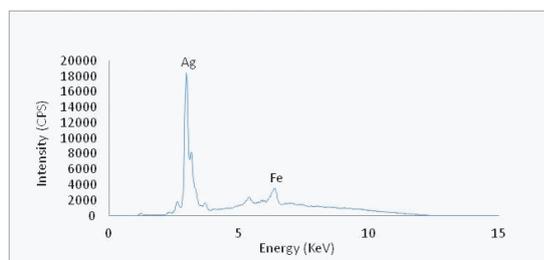
74 本体



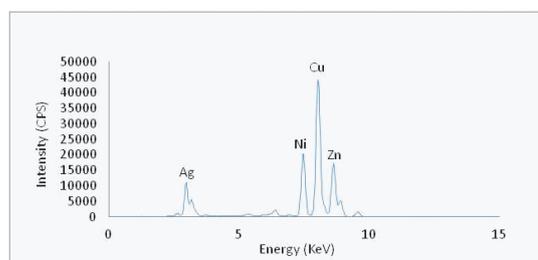
26274 本体



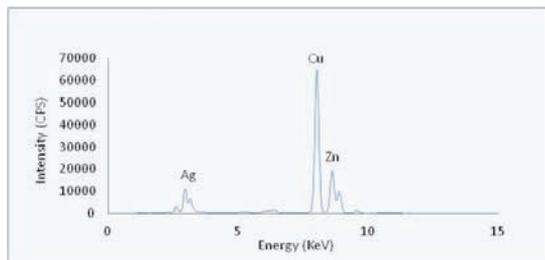
38362 本体



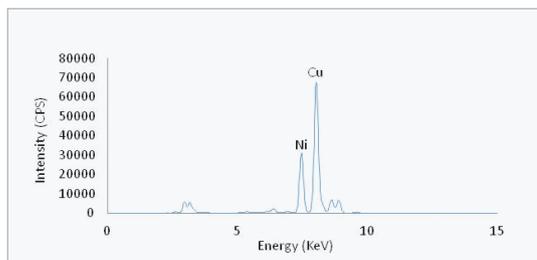
北 38363 本体



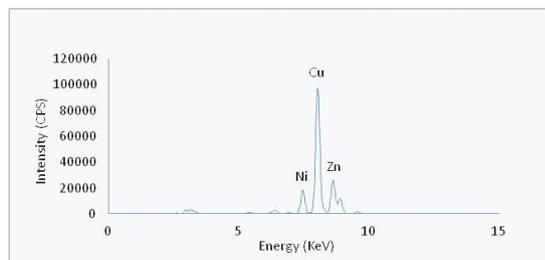
38363 飾り



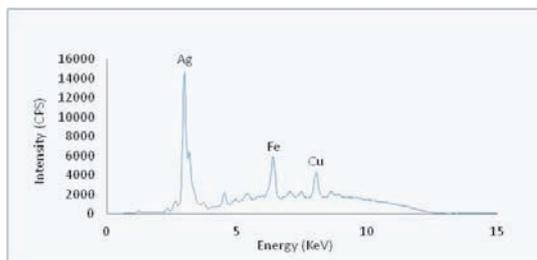
38364 本体



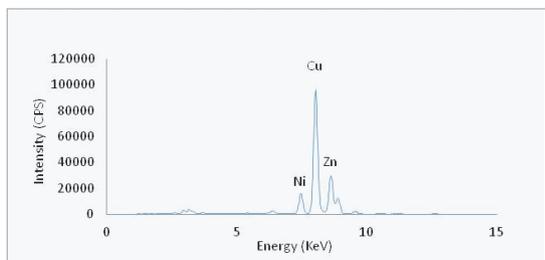
38366 本体



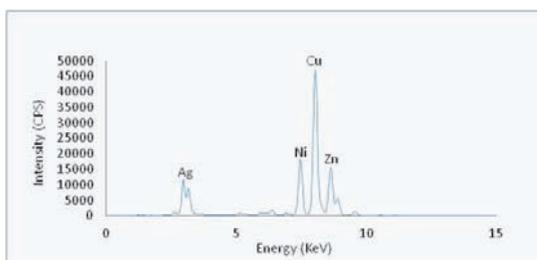
38366 飾り



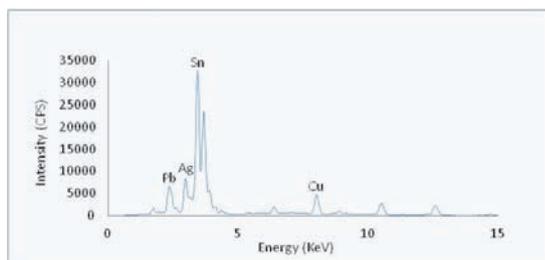
38370 本体



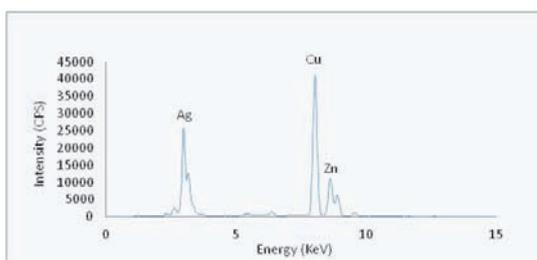
38370 飾り



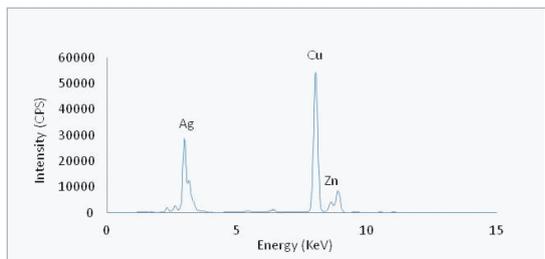
38371 本体



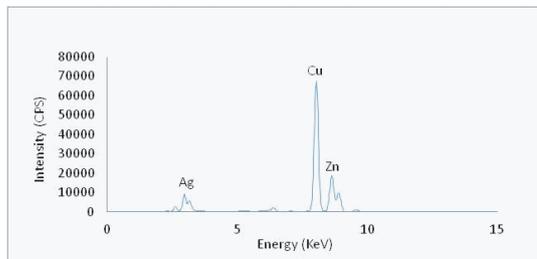
38371 飾り



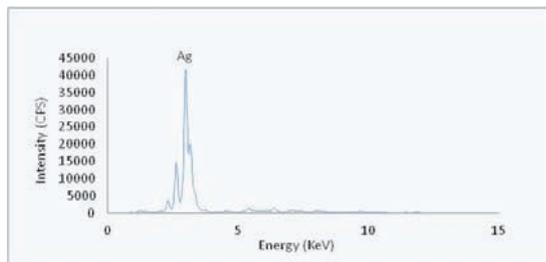
38372 本体



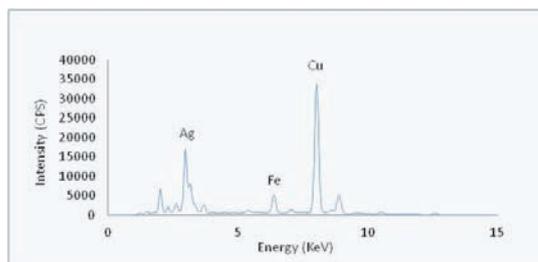
38372 飾り



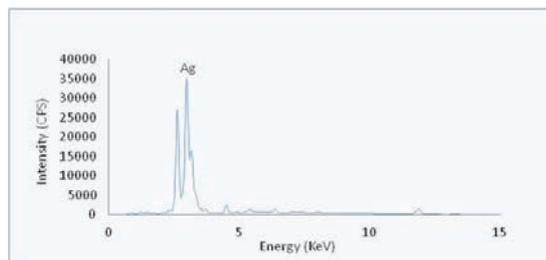
38373 本体



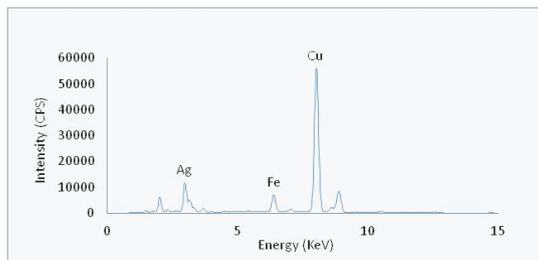
余 1a 本体



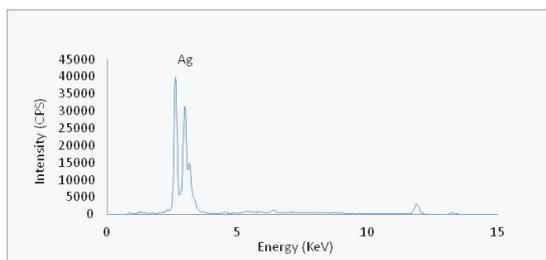
余 1a 飾り



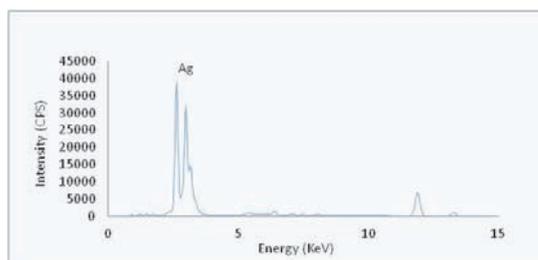
余 1b 本体



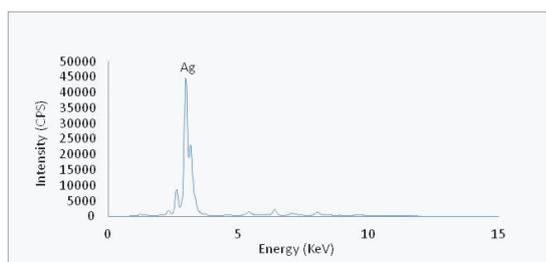
余 1b 飾り



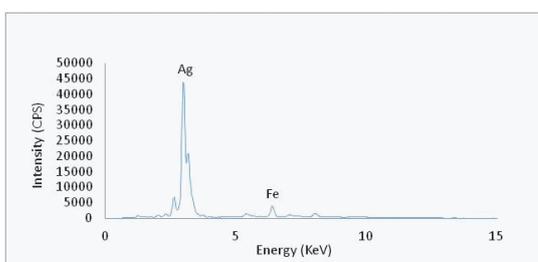
余 2a 本体



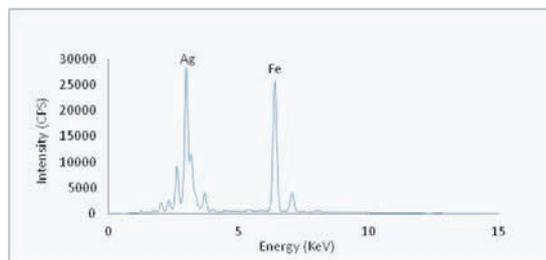
余 2b 本体



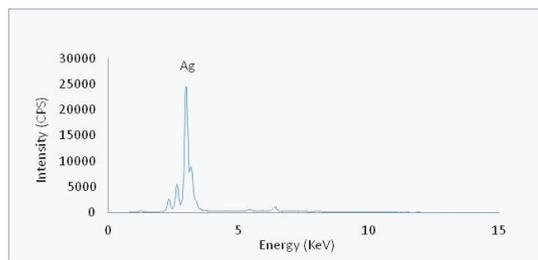
余 3a 本体



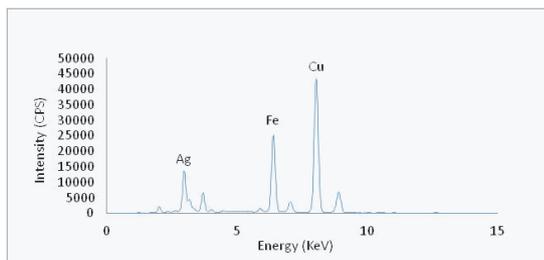
余 3b 本体



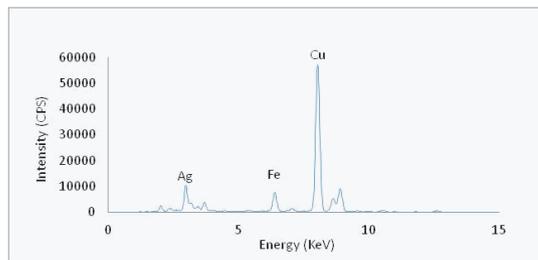
余 4a 本体



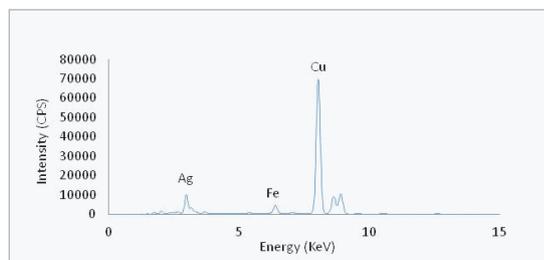
余 4b 本体



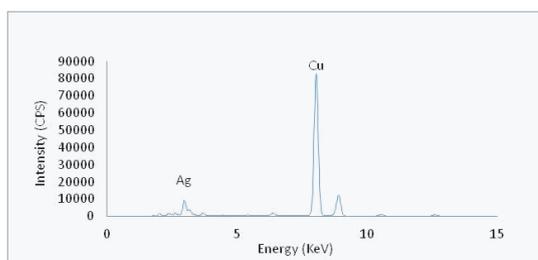
余5本体



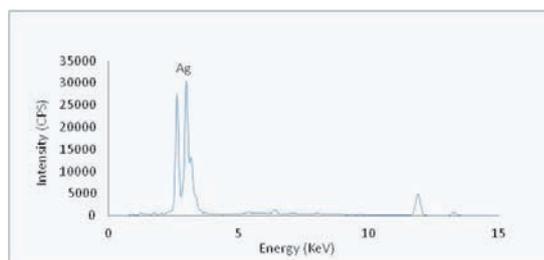
余6本体



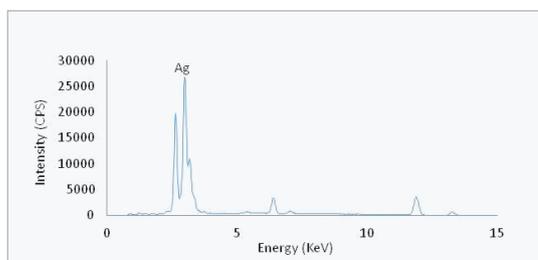
余7本体



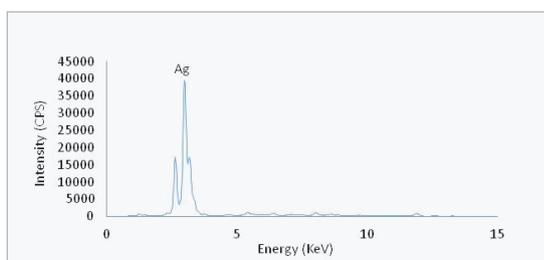
余8本体



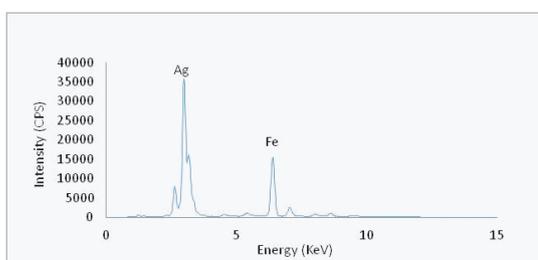
余9本体



余10本体



余11本体



余12本体

資料篇 表 対象耳飾り一覧

No.	収蔵機関	収蔵番号	名称	点数	型式	種類	全体の寸法(cm)					重さ(g)	飾り①の寸法(cm)		飾り②の寸法(cm)		飾り③の寸法(cm)		備考	
							タテ		ヨコ	厚さ			タテ	ヨコ or 厚さ	タテ	ヨコ or 厚さ	タテ	ヨコ or 厚さ		
							全体(飾り込)	輪のみ(飾り除く)		先	接点									
1		苦1a	耳輪 (ニンカリ)		I	b	6.7		6.8	0.10	0.32	10	1.40	1.40						
		苦1b					7.1		6.4	0.11	0.32	10	1.40	1.40						
2		苦2a	耳輪 (ニンカリ)		I	b	7.7		7.5	0.15	0.29	13	1.00	2.00						
		苦2b					7.8		7.3	0.16	0.32	16	1.00	2.00						
3		苦3a	耳輪 (ニンカリ)		I	b	7.1		6.8	0.15	0.29	13	1.10	1.60						
		苦3b					6.7		6.5	0.15	0.34	15	1.10	1.60						
4		苦4a	耳輪 (ニンカリ)		I	b	6.9		6.1	0.15	0.23	12	1.60	1.80						
		苦4b					7.1		6.8	0.13	0.24	11	1.60	1.80						
5		苦5a	耳輪 (ニンカリ)		II	b	7.6	5.3	6.0	0.16	0.24	8	1.10	1.10						
		苦5b					7.8	5.1	5.6	0.18	0.24	8	1.10	1.10						
6		苦6a	耳輪 (ニンカリ)		II	b	8.3	5.6	5.7	0.18	0.26	13	1.50	1.50						
		苦6b					8.6	5.6	5.9	0.14	0.21	10	1.50	1.50						
7		苦7a	耳輪 (ニンカリ)		II	b	7.8	4.8	4.8	0.13	0.27	7	1.50	1.30						
		苦7b					8.0	5.0	4.8	0.18	0.25	9	1.50	1.30						
8		苦8a	耳輪 (ニンカリ)		II	b	8.5	6.0	5.9	0.18	0.30	12	1.50	1.50						
		苦8b					8.9	6.0	5.8	0.18	0.31	13	1.50	1.50						
9		苦9a	耳輪 (ニンカリ)		I	a	6.9		6.1	0.15	0.25	10								
		苦9b					5.8		5.7	0.15	0.23	10								
10	苫小牧市 美術博物館	苦10a	耳輪 (ニンカリ)		I	a	7.0		7.0	0.15	0.30	12							左右別型式	
苦10b		6.8						7.0	0.25	0.28	13								左右別型式	
12		苦11a	耳輪 (ニンカリ)		II	a	7.7	4.8	5.3	0.11	0.24	9							昔は飾りがあった？	
		苦11b					7.5	4.5	4.8	0.10	0.24	5								昔は飾りがあった？
13		苦12a	耳輪 (ニンカリ)		II	b	12.0	7.8	7.6	0.19	0.27	17	1.30	1.50					金属製の飾りは2つの半球からなる	
14		苦12b					I	a	8.9		8.4	0.18	0.28	16						
15		苦13a	耳輪 (ニンカリ)		II	b	8.5	5.8	5.8	0.18	0.26	12	1.50	1.40						
		苦13b					7.8	5.0	5.0	0.10	0.21	9	1.50	1.40						
16		苦14	耳輪 (ニンカリ)		I	b	7.8		7.4	0.12	0.30	14	1.10	1.70						1個のみ
17		苦15a	耳輪 (ニンカリ)		I	b	7.0		7.8	0.13	0.30	12	1.10	1.90						
		苦15b					7.3		7.1	0.15	0.28	10	1.10	1.90						
18		苦16a	耳輪 (ニンカリ)		II	b	8.4	6.0	5.7	0.16	0.20	9	1.50	1.20						
		苦16b					8.6	6.2	6.3	0.14	0.27	16	1.40	1.10						
19		苦17	耳輪 (ニンカリ)		II	c	7.2	4.7	4.9	0.13	0.24	10	1.20	1.20						1個のみ
20		苦18a	耳輪 (ニンカリ)		I	b	6.0		6.2	0.17	0.29	10	1.40	1.40						
		苦18b					6.9		6.3	0.14	0.29	9	1.40	1.40						
21		苦19a	耳輪 (ニンカリ)		II	b	8.3	5.8	5.6	0.17	0.22	11	1.40	1.20						左右別型式
22		苦19b					I	b	7.4		6.7	0.14	0.26	10	1.10	1.40				
23		苦20a	耳輪 (ニンカリ)		II	b	10.8	6.7	7.3	0.21	0.21	18	1.80	2.10						左右別型式
24		苦20b					I	a	7.5		8.0	0.11	0.29	13						
25		苦21a	耳輪 (ニンカリ)		II	b	10.2	7.1	6.9	0.19	0.32	11	1.30	0.90						左右別型式
26		苦21b					I	b	6.9		5.5	0.19	0.30	13	1.10	1.10				
27		苦22	耳輪 (ニンカリ)		II	b	6.7	3.5	4.4	0.19	0.30	10	1.40	1.20						1個のみ
28		苦23	耳輪 (ニンカリ)		II	b	14.9	11.7	12.1	0.19	0.35	32	1.40	1.70						1個のみ
29		苦24	耳輪 (ニンカリ)		I	b	7.8		7.5	0.15	0.29	17	1.30	1.30						1個のみ
30		苦25a	耳輪 (ニンカリ)		II	b	7.5	4.7	4.5	0.23	0.34	12	1.60	1.10						
		苦25b					a	6.5	4.0	4.3	0.31	0.35	9	1.60	1.10					
31		苦26a	耳輪 (ニンカリ)		II	a	7.0	5.0	5.2	0.21	0.22	8								
		苦26b					6.5	5.3	5.6	0.14	0.20	5								
32		苦27a	耳輪 (ニンカリ)		II	a	8.5	5.5	6.0	0.13	0.30	10								左右別型式
33		苦27b					I	a	6.3		6.0	0.22	0.25	13						
34		苦28	耳輪 (ニンカリ)		I	a	7.0		7.0	0.18	0.30	11								1個のみ

No.	収蔵機関	収蔵番号	名称	点数	型式	種類	全体の寸法(cm)					重さ(g)	飾り①の寸法(cm)		飾り②の寸法(cm)		飾り③の寸法(cm)		備考
							タテ		ヨコ	厚さ			タテ	ヨコor厚さ	タテ	ヨコor厚さ	タテ	ヨコor厚さ	
							全体(飾り込)	輪のみ(飾り除く)		先	接点								
35		苫29	耳輪 (ニンカリ)		I	a	8.2		6.9	0.12	0.20	6						1個のみ	
36		苫30	耳輪 (ニンカリ)		I	a	7.9		7.7	0.15	0.39	14						1個のみ	
37		苫31	耳輪 (ニンカリ)		II	a	7.5	5.0	5.4	0.13	0.25	6						1個のみ	
38		苫32a	耳輪 (ニンカリ)		II	a	7.4	5.0	4.8	0.20	0.33	10							
		苫32b	耳輪 (ニンカリ)				7.4	5.0	4.8	0.31	0.18	9							
39		苫33	耳輪 (ニンカリ)		II	b	7.0	4.3	4.4	0.17	0.29	10	1.50	1.20				1個のみ	
40		苫34	耳輪 (ニンカリ)		I	a	5.8		5.9	0.14	0.24	9						1個のみ	
41		苫35a	耳輪 (ニンカリ)		I	a	8.2		8.2	0.21	0.44	26							
		苫35b	耳輪 (ニンカリ)				8.7		8.7	0.25	0.46	29							
42		苫36	耳輪 (ニンカリ)		I	a	7.0		7.0	0.17	0.34	14						1個のみ	
43		苫37a	耳輪 (ニンカリ)		I	a	5.3		5.3	0.20	0.24	7						完全なる円、切れ込みが2~3箇所	
		苫37b	耳輪 (ニンカリ)				5.3		5.3	0.22	0.29	7							完全なる円、切れ込みが2~3箇所
44		苫38a	耳輪 (ニンカリ)		I	a	7.0		7.3	0.31	0.50	43							
		苫38b	耳輪 (ニンカリ)				7.0		6.9	0.27	0.54	46							
45		苫39	耳輪 (ニンカリ)		I	a	5.0		5.3	0.15	0.18	4						1個のみ	
46		苫40	耳輪 (ニンカリ)		I	a	6.6		6.3	0.09	0.32	7						1個のみ	
47		苫41	耳輪 (ニンカリ)		II	a	7.8	5.0	5.4	0.29	0.32	14						1個のみ	
48		苫42	耳輪 (ニンカリ)		I	a	5.4		5.1	0.12	0.27	7						1個のみ	
49		苫43	耳輪 (ニンカリ)		II	b	8.0	4.5	4.7	0.11	0.29	12	1.50	1.50				1個のみ	
50		苫44	耳輪 (ニンカリ)		I	a	4.1		4.0	0.12	0.14	3						1個のみ	
51		苫45	耳輪 (ニンカリ)		I	a	4.6		4.7	0.11	0.20	6						1個のみ	
52		苫46	耳輪 (ニンカリ)		I	a	3.2		3.4	0.15	0.15	2						1個のみ	
53	苫小牧市 美術博物館	苫47	耳輪 (ニンカリ)		I	a	8.2		8.1	0.16	0.28	12						1個のみ	
54		苫48a	耳輪 (ニンカリ)		I	b	8.1		6.8	0.17	0.27	17	1.30	0.90					
		苫48b	耳輪 (ニンカリ)				7.9		6.9	0.17	0.22	16	1.30	0.90					
55		苫49a	耳輪 (ニンカリ)		I	b	9.3		9.9	0.17	0.18	26	1.60	1.90					
		苫49b	耳輪 (ニンカリ)				10.0		10.5	0.18	0.30	24	1.60	1.90					
56		苫50a	耳輪 (ニンカリ)		II	b	9.4	6.4	7.0	0.15	0.28	17	1.60	1.10					
		苫50b	耳輪 (ニンカリ)				10.1	7.0	6.8	0.12	0.27	15	1.60	1.10					
57		苫51a	耳輪 (ニンカリ)		I	b	7.9		6.8	0.18	0.26	11	1.10	1.70					
		苫51b	耳輪 (ニンカリ)				7.0		6.7	0.17	0.28	11	1.10	1.70					
58		苫52a	耳輪 (ニンカリ)		II	b	9.5	6.7	6.7	0.20	0.37	20	1.65	1.55					
		苫52b	耳輪 (ニンカリ)				9.5	6.7	6.8	0.23	0.34	21	1.65	1.55					
59		苫53a	耳輪 (ニンカリ)		II	b	9.5	6.8	6.3	0.15	0.28	16	1.40	1.40					
		苫53b	耳輪 (ニンカリ)				9.5	6.7	6.5	0.15	0.29	15	1.40	1.40					
60		苫54a	耳輪 (ニンカリ)		II	c	10.1	6.9	6.5	0.19	0.39	16	0.90	1.10					
		苫54b	耳輪 (ニンカリ)				9.7	6.2	6.3	0.10	0.34	15	0.90	1.10					
61		苫55a	耳輪 (ニンカリ)		II	b	7.8	5.6	5.5	0.16	0.28	10	1.40	0.80					
		苫55b	耳輪 (ニンカリ)				7.6	5.3	5.3	0.18	0.29	9	1.40	0.80					
62		苫56a	耳輪 (ニンカリ)		II	b	7.6	5.5	5.6	0.19	0.26	16	1.50	1.50					
		苫56b	耳輪 (ニンカリ)				7.9	5.4	5.6	0.17	0.25	16	1.50	1.50					
63		苫57a	耳輪 (ニンカリ)		II	b	8.1	5.7	5.4	0.13	0.15	11	1.50	1.30					
	苫57b	耳輪 (ニンカリ)		8.1			5.4	5.4	0.22	0.22	12	1.50	1.30						
64	苫58a	耳輪 (ニンカリ)		II	b	10.4	7.5	7.1	0.12	0.21	13	1.70	1.10						
	苫58b	耳輪 (ニンカリ)				9.9	6.8	7.3	0.11	0.22	12	1.70	1.10						
65	苫59a	耳輪 (ニンカリ)		I	a	7.0		6.4	0.11	0.21	10								
	苫59b	耳輪 (ニンカリ)				7.0		6.9	0.12	0.22	10								
66	苫60a	耳輪 (ニンカリ)		II	b	7.2	4.8	5.0	0.14	0.23	8	1.20	1.40						
	苫60b	耳輪 (ニンカリ)				7.2	4.6	4.9	0.18	0.24	10	1.20	1.40						

No.	収蔵機関	収蔵番号	名称	点数	型式	種類	全体の寸法(cm)					重さ(g)	飾り①の寸法(cm)		飾り②の寸法(cm)		飾り③の寸法(cm)		備考
							タテ		ヨコ	厚さ			タテ	ヨコor厚さ	タテ	ヨコor厚さ	タテ	ヨコor厚さ	
							全体(飾り込)	輪のみ(飾り除く)		先	接点								
67		苔61a	耳輪 (ニンカリ)		II	b	8.3	5.7	5.7	0.12	0.31	14	1.50	1.50					
		苔61b					7.9	5.7	5.9	0.12	0.33	15	1.50	1.50					
68		苔62a	耳輪 (ニンカリ)		II	b	8.0	5.5	5.5	0.13	0.22	8	1.00	0.90					
		苔62b					7.8	5.8	5.8	0.11	0.22	8	1.00	0.90					
69		苔63a	耳輪 (ニンカリ)		I	a	5.7		5.4	0.10	0.27	8							
		苔63b					5.5		5.3	0.09	0.26	9							
70		苔64a	耳輪 (ニンカリ)		II	b	11.5	8.4	7.8	0.23	0.32	19	1.70	1.50					
		苔64b					10.2	7.7	8.3	0.19	0.37	21	1.70	1.50					
71		苔65a	耳輪 (ニンカリ)		II	b	9.9	6.7	6.9	0.16	0.27	16	1.60	1.10					
		苔65b					9.9	6.6	6.4	0.15	0.31	16	1.60	1.10					
72		苔66a	耳輪 (ニンカリ)		II	b	9.7	6.8	6.7	0.11	0.30	16	1.50	1.50					
		苔66b					9.3	6.7	6.7	0.09	0.24	14	1.50	1.50					
73		苔67a	耳輪 (ニンカリ)		I	a	7.7		7.8	0.19	0.25	14							
		苔67b					7.5		8.2	0.17	0.30	17							
74		苔68a	耳輪 (ニンカリ)		II	b	8.5	5.9	6.2	0.18	0.25	16	1.50	1.60					
		苔68b					8.8	6.3	6.5	0.16	0.25	16	1.50	1.60					
75		苔69a	耳輪 (ニンカリ)		II	b	10.5	7.1	6.9	0.16	0.27	16	2.20	1.10					
		苔69b					11.0	7.8	6.7	0.15	0.26	16	2.20	1.10					
76		苔70a	耳輪 (ニンカリ)		I	b	5.8		5.9	0.18	0.23	7	1.40	1.40					
		苔70b					5.5		5.4	0.11	0.22	8	1.40	1.40					
77		苔71a	耳輪 (ニンカリ)		II	b	8.7	5.9	6.4	0.14	0.28	13	1.40	1.30					
		苔71b					8.0	5.2	5.7	0.14	0.17	8	1.40	1.30					
78		苔72a	耳輪 (ニンカリ)		I	b	7.6		7.3	0.09	0.31	11	1.25	1.25					
		苔72b					7.5		7.1	0.12	0.34	12	1.25	1.25					
79		苔73a	耳輪 (ニンカリ)		II	b	6.9	5.0	5.3	0.18	0.29	9	1.00	1.40					
		苔73b					8.0	5.4	5.3	0.14	0.19	7	1.50	1.50					
80	苫小牧市 美術博物館	苔74a	耳輪 (ニンカリ)		II	b	8.0	5.7	6.0	0.21	0.24	13	1.50	1.70					
		苔74b					8.4	5.8	5.7	0.16	0.29	13	1.60	1.60					
81		苔75a	耳輪 (ニンカリ)		II	b	10.4	7.6	7.6	0.16	0.29	17	1.20	1.30					
		苔75b					10.4	7.6	7.6	0.14	0.28	18	1.20	1.30					
82		苔76a	耳輪 (ニンカリ)		II	b	11.0	8.0	8.1	0.16	0.33	22	1.10	1.50					
		苔76b					10.3	7.9	8.1	0.14	0.30	21	1.20	1.50					
83		苔77a	耳輪 (ニンカリ)		I	b	8.2		7.3	0.17	0.31	11	1.40	1.00					
		苔77b					7.9		7.3	0.17	0.37	11	1.40	1.00					
84		苔78a	耳輪 (ニンカリ)		I	b	6.5		6.0	0.11	0.28	10	1.40	1.40					
		苔78b					6.0		5.8	0.12	0.25	11	1.40	1.40					
85		苔79a	耳輪 (ニンカリ)		I	c	7.5		7.3	0.23	0.41	15	0.40	0.52	1.30	0.79	0.40	0.52	
		苔79b					7.5		7.5	0.23	0.38	15	0.40	0.52	1.30	0.79	0.40	0.52	
86		苔80a	耳輪 (ニンカリ)		I	c	6.0		6.4	0.16	0.28	13	0.65	1.07	0.46	0.85			
		苔80b					6.2		6.4	0.14	0.28	13	0.65	1.07					
87		苔81a	耳輪 (ニンカリ)		II	c	9.0	6.0	6.2	0.18	0.26	17	0.80	1.09	0.90	1.16			
		苔81b					8.5	5.5	6.4	0.17	0.24	16	0.80	1.09	0.90	1.16			
88		苔82a	耳輪 (ニンカリ)		II	b	7.3	4.2	4.9	0.15	0.35	18	2.00	2.00					
		苔82b					7.9	4.8	4.7	0.16	0.25	17	2.00	2.00					
89		苔83a	耳輪 (ニンカリ)		I	b	7.4		7.2	0.17	0.29	16	1.10	1.70					
		苔83b					7.2		7.5	0.11	0.40	16	1.10	1.70					
90		苔84a	耳輪 (ニンカリ)		I	a	7.6		7.6	0.25	0.28	15							
		苔84b					7.6		7.9	0.14	0.29	13							
91		苔85a	耳輪 (ニンカリ)		II	b	6.8	4.5	4.7	0.18	0.25	8	1.20	1.10					
		苔85b					6.9	4.5	4.7	0.19	0.27	8	1.50	1.20					
92		苔86a	耳輪 (ニンカリ)		II	b	9.3	5.9	6.6	0.24	0.26	13	1.70	1.70					
		苔86b					9.5	5.9	6.3	0.22	0.24	14	1.70	1.70					

No.	収蔵機関	収蔵番号	名称	点数	型式	種類	全体の寸法(cm)					重さ(g)	飾り①の寸法(cm)		飾り②の寸法(cm)		飾り③の寸法(cm)		備考
							タテ		ヨコ	厚さ			タテ	ヨコ or 厚さ	タテ	ヨコ or 厚さ	タテ	ヨコ or 厚さ	
							全体(飾り込)	輪のみ(飾り除く)		先	接点								
93		苦87a	耳輪 (ニンカリ)		II	b	10.0	7.4	6.9	0.16	0.24	12	1.10	1.30					
		苦87b					10.4	7.4	7.0	0.18	0.25	12	1.10	1.30					
94		苦88a	耳輪 (ニンカリ)		II	b	12.9	10.7	9.9	0.19	0.33	27	1.70	1.60					
		苦88b					12.8	9.7	9.8	0.19	0.32	27	1.70	1.60					
95		苦89a	耳輪 (ニンカリ)		II	c	9.3	6.7	7.2	0.15	0.24	15	1.20	1.50					
		苦89b					9.6	6.7	7.1	0.15	0.28	17	1.20	1.50					
96		苦90a	耳輪 (ニンカリ)		II	c	8.1	5.7	5.9	0.21	0.32	16	1.20	1.20					
		苦90b					8.3	5.7	5.9	0.18	0.34	16	1.20	1.20					
97		苦91a	耳輪 (ニンカリ)		II	c	8.2	6.4	6.0	0.16	0.27	11	1.00	0.90					
		苦91b					7.8	6.0	5.8	0.16	0.27	11	1.00	0.90					
98		苦92a	耳輪 (ニンカリ)		II	c	9.1	7.0	7.4	0.15	0.28	15	0.90	1.30					
		苦92b					8.9	6.8	7.3	0.14	0.29	14	0.90	1.30					
99		苦93a	耳輪 (ニンカリ)		II	c	8.5	5.5	5.7	0.23	0.34	17	0.80	1.20	0.90	1.30			
		苦93b					8.5	5.5	5.7	0.12	0.32	14	0.80	1.20	0.90	1.30			
100		苦94a	耳輪 (ニンカリ)		I	b	10.0		9.1	0.18	0.26	18	1.30	2.10					
		苦94b					9.3		9.4	0.17	0.24	18	1.30	2.10					
101		苦95a	耳輪 (ニンカリ)		II	b	10.1	8.4	8.8	0.19	0.26	19	1.50	1.30					
		苦95b					11.7	8.2	8.3	0.17	0.28	19	1.50	1.30					
102	苫小牧市 美術博物館	苦96a	耳輪 (ニンカリ)		II	b	10.2	7.0	7.3	0.27	0.38	24	1.10	1.40					
		苦96b					10.2	7.0	7.1	0.24	0.40	26	1.10	1.40					
103		苦97a	耳輪 (ニンカリ)		I	b	9.2		8.9	0.20	0.25	18	1.30	1.50					使用している金属飾りは同じだが本体は別型式
104	苦97b	11.1					8.0	9.0	0.21	0.27	19	1.50	1.30					使用している金属飾りは同じだが本体は別型式	
105		苦98a	耳輪 (ニンカリ)		II	b	12.4	8.5	9.0	0.20	0.30	22	1.80	1.30					左右別型式
106	苦98b	10.7					7.3	7.5	0.16	0.26	12	1.40	0.90						左右別型式
107		苦99a	耳輪 (ニンカリ)		II	b	10.4	7.4	7.0	0.18	0.30	10	1.90	1.10					
		苦99b					9.9	7.0	6.7	0.18	0.29	10	1.90	1.10					
108		苦100a	耳輪 (ニンカリ)		I	b	7.5		7.2	0.19	0.35	17	1.10	1.50					
		苦100b					7.3		7.5	0.13	0.33	14	1.10	1.50					
109		苦101a	耳輪 (ニンカリ)		I	b	7.6		7.2	0.13	0.40	15	1.10	1.50					
		苦101b					7.9		7.6	0.11	0.31	14	1.10	1.50					
110		苦102a	耳輪 (ニンカリ)		I	a	5.5		5.6	0.13	0.23	6							
		苦102b					5.7		5.1	0.13	0.23	6							
111		苦103a	耳輪 (ニンカリ)		II	b	10.0	7.2	7.1	0.16	0.29	14	1.70	1.20					
		苦103b					11.0	7.8	7.5	0.16	0.27	14	1.70	1.20					
112		苦104a	耳輪 (ニンカリ)		II	c	9.5	6.8	6.0	0.21	0.25	計測不可	1.40	1.70	0.90	1.10			ニンカリ付きタマサイ
		苦104b					9.5	6.9	6.0	0.25	0.25	計測不可	1.40	1.70	0.90	1.10			ニンカリ付きタマサイ
113		苦105a	耳輪 (ニンカリ)		II	c	8.0	4.5	4.0	0.20	0.34	計測不可	0.80	1.20	0.90	1.10			ニンカリ付きタマサイ
		苦105b					8.5	4.5	4.0	0.18	0.22	計測不可	1.00	1.20	0.90	1.10			ニンカリ付きタマサイ
114	北大植物園	70	耳飾	2	I	c+d	40.0	8.5	9.2	0.27	0.48	48.20	0.00	0.00					タグ:「産地:八雲、昭和29年」、『目録』:「耳飾 渦巻き型 収集年:1954 収集地:八雲 収集者:犬飼哲夫」
115		71①	耳飾	2	I	a	5.4		5.1	0.10	0.05	24.00							重さは上下合わせて24g
116		71②	耳飾	2	II	c	7.1	4.8	4.4	0.14	0.27	—	1.50	1.70					重さは北13上下合わせて24g
117		72	耳飾	2	I	b	7.3		6.9	0.25	0.38	14.20	0.80	1.70					a,bの飾りの柄は異なる
118		73①	耳飾	2	II	b	9.1	6.5	6.2	0.14	0.30	21.00	1.90	1.50					収蔵番号73は2セットが一袋に入っている。同71と同様に、組み合わせされていた可能性が高い。『目録』:「耳飾 渦巻き型 収集年:1954 収集地:八雲 収集者:犬飼哲夫」
119		73②	耳飾	2	I	a	6.2		6.3	0.09	0.23	10.00							収蔵番号73は2セットが一袋に入っている。同71と同様に、組み合わせされていた可能性が高い。『目録』:「耳飾 渦巻き型 収集年:1954 収集地:八雲 収集者:犬飼哲夫」
120		74	耳飾	2	I	c	6.1		6.3	0.12	0.20	21.00	1.20	1.20					重さは左右の合計。布に縫い付けられたニンカリ(布は赤・紫の2枚つけ)。『目録』:「収集地:余市」
121		15386	耳飾	2	II	b	7.7	6.0	6.0	0.18	0.20	8.80	1.50	1.40					

No.	収蔵機関	収蔵番号	名称	点数	型式	種類	全体の寸法(cm)					重さ(g)	飾り①の寸法(cm)		飾り②の寸法(cm)		飾り③の寸法(cm)		備考
							タテ		ヨコ	厚さ			タテ	ヨコor厚さ	タテ	ヨコor厚さ	タテ	ヨコor厚さ	
							全体(飾り込)	輪のみ(飾り除く)		先	接点								
122	北大植物園	26274	耳飾	1	I	c	6.7		6.4	0.06	0.18	4.00	0.30	0.20	0.30	0.20	0.30	0.20	1個のみ。
123		38362	耳飾	2	II	c	7.3	4.4	4.7	0.17	0.22	9.00	0.60	0.80	1.00	1.20	0.00	0.00	bは白玉無し
124		38363	耳飾	2	II	b	7.2	4.8	5.0	0.17	0.25	11.00	1.50	1.20					
125		38364	耳飾	2	II	c	8.5	6.3	6.6	0.19	0.26	14.00	0.90	1.00					
126		38366	耳飾	2	I	b	7.6		7.7	0.14	0.26	14.00	1.00	1.50					
127		38367	耳飾	2	I	b	6.0		6.2	0.21	0.28	10.50	1.00	2.00					
128		38369	耳飾	2	I	b+c	7.3		8.3	0.24	0.32	22.20	0.60	0.60	0.70	0.70	1.50	1.50	左右の飾りは異なる
129		38370	耳飾	2	I	b	7.2		6.3	0.14	0.24	11.00	1.10	1.30					
130		38371	耳飾	2	II	b	7.8	5.5	5.7	0.11	0.21	12.00	1.50	1.50					
131		38372	耳飾	2	II	b	8.2	5.5	5.7	0.15	0.19	9.00	1.50	1.30					
132		38373	耳飾	2	I	a	9.1		8.7	0.24	0.24	19.00							
133		会津八一記念博物館	アイヌ資料75	耳飾り	2	II	b	9.0	6.7	6.9	0.17	0.35	15.00	1.50	1.30				
134	76		耳飾り	2	I	b	7.4		7.5	0.20	0.31	14.00	1.60	1.10					
135	77		耳飾り	2	I	b	6.8		6.8	0.18	0.32	16.00	1.60	1.00					
136	78		耳飾り	2	I	b	6.4		6.6	0.18	0.33	10.00	1.30	1.30					飾り：正円桜。かんざし？コイルは何かを止めている訳ではなく、ただ巻き付けてあるだけ。
137	79		耳飾り	2	II	b	15.5	6.8	7.4	0.22	0.32	24.00	1.50	1.40					ロシアコインは必ず頭同士or尻同士で接着。各飾りの金具は半田付け？コインは「1898」や「1891」の西暦が記載されている。
138	80		耳飾り	2	I	b	6.4		6.3	0.21	0.37	12.00	1.30	0.90					飾り：花と鳥
139	81		耳飾り	2	I	b	8.7		8.6	0.19	0.34	18.00	1.70	1.10					所々サビあり。接点のサビは使用痕か。
140	4840		耳飾り	2	I	bc	7.0		7.3	0.26	0.36	21.50	0.60	1.20	0.60	1.20			
141	4841		耳飾り	2	I	b	7.1		8.1	0.21	0.30	15.90	1.60	1.10					赤色リボンとは5144と同一素材か。
142	4842		耳飾り	2	II	b	6.5	4.0	4.4	0.16	0.25	7.70	0.15	0.13					
143	4843	耳飾り	1	II	b	7.0	4.5	4.5	0.23	0.30	9.10	1.40	1.40					黒紐で補修か	
144	4844	耳飾り	2	II	b	9.2	6.5	6.5	0.23	0.34	15.00	1.50	1.50					飾り・本体同一合金	
145	5141	耳飾り	2	II	b	—	(7.0)	(7.0)	—	—	—	—	—					展示中	
146	5142	耳飾り	2	II	b	8.7	6.2	6.5	0.20	0.30	12.80	1.80	1.20						
147	5143	耳飾り	2	II	b	11.4	8.2	8.4	0.22	0.41	26.60	0.90	1.60					飾り：スズ玉	
148	5144	耳飾り	2	I	d	7.0		7.3	0.26	0.33	16.60	8.00	1.30					赤リボンは普通の結び(玉結び)。4841と同じ紐使用か。	
149	5146	耳飾り	1	II	b	7.5	5.0	5.0	0.17	0.37	13.20	1.70	1.50					スズ玉	
150	5147	耳飾り	1	II	b	7.0	4.5	4.9	0.24	0.35	17.70	1.50	1.60					1個のみ。飾りは空洞か？	
151	5148	耳飾り	1	II	b	7.5	5.0	5.0	0.23	0.32	14.30	2.00	1.70					スズ玉	
152	5149	耳飾り	1	I	a	7.5		7.5	0.16	0.33	8.30							1個のみ。	
153	5150	耳飾り	1	II	b	8.4	5.0	5.1	0.19	0.33	17.30	2.30	1.80					1個のみ。おさえに3箇所穴あり。飾り・本体同一合金。	
154	5151	耳飾り	1	II	b	8.3	5.5	6.0	0.21	0.35	15.80	1.50	1.80					1個のみ。飾り・本体同一合金。	
155	旭川市博物館	5745	耳飾り	1	II	b	8.6	5.5	5.5	0.20	0.35	15.10	1.80	1.60					1個のみ。飾り・本体同一合金。洋銀か。上下抑えあり。
156		5801	耳飾り	2	II	b	7.4	4.7	4.8	0.19	0.31	11.40	0.90	0.90					透かし玉
157		5802	耳飾り	2	II	b	8.0	5.5	5.4	0.18	0.21	7.40	1.50	1.30					
158		5803	耳飾り	2	II	b	7.5	5.0	5.4	0.20	0.30	11.50	1.30	1.50					
159		5804	耳飾り	2	II	b	7.8	5.4	5.2	0.15	0.26	9.50	1.20	1.20					
160		5805	耳飾り	2	II	b	7.0	4.5	4.8	0.22	0.35	14.60	1.40	1.40					飾り：スズ玉
161		5806	耳飾り	2	II	b	7.5	4.0	4.9	0.28	0.30	18.30	2.00	2.10					洋銀か。飾り・本体同一合金。
162		5807	耳飾り	2	I	b	5.5		5.3	0.16	0.27	8.70	1.30	0.90					
163		5808	耳飾り	2	I	c	(8.0)	—	(8.0)	—	—	—	—	—					展示中。飾り：黒ガラス・青ガラス。キャプション「ニンカリ耳輪/アイヌ(サハリン)」
164		5809	耳飾り	2	I	b	6.8		6.5	0.13	0.25	7.90	1.10	1.10					
165		5810	耳飾り	2	I	b	5.4		5.3	0.24	0.29	9.60	1.90	1.10					模様：ぶどう
166		5812	耳飾り	2	II	b	11.3	7.3	8.2	0.25	0.44	30.90	2.00	2.00					飾り・本体同一合金
167		5813	耳飾り	2	I	d	(6.0)	—	(6.0)	—	—	—	—	—					展示中。赤布は化繊リボンではなく、木綿布か。
168		7245	耳飾り	1	II	a	6.8	4.5	4.7	0.24	0.24	5.70							1個のみ。おさえと本体は同一合金。飾りトシ。
169	7246	耳飾り	1	I	a	—	—	—	0.23	0.21	9.80							先端部分はニッパなどの工具で切ったままの断面。	

No.	収蔵機関	収蔵番号	名称	点数	型式	種類	全体の寸法(cm)					重さ(g)	飾り①の寸法(cm)		飾り②の寸法(cm)		飾り③の寸法(cm)		備考	
							タテ		ヨコ	厚さ			タテ	ヨコor厚さ	タテ	ヨコor厚さ	タテ	ヨコor厚さ		
							全体(飾り込)	輪のみ(飾り除く)		先	接点									
170	旭川市博物館	7247	耳飾り	2	I	b	12.6		11.6	0.36	0.38	36.40	1.70	1.80						
171		7248	耳飾り	1	I	c	9.4		8.7	0.29	0.44	16.00	0.50	0.50	1.10	1.10	0.50	0.50	本体一本。	
172		7249	耳飾り	1	I	b	8.4		8.0	0.15	0.23	6.00							針金一本による加工。	
173		7250	耳飾り	1	I	a	7.0		6.0	0.19	0.29	7.80							1個のみ。飾りなし。	
174		7251	耳飾り	2	I	b	12.3		11.4	0.37	0.36	37.70	1.80	1.60						
175		7252	耳飾り	1	I	b	6.3		6.4	0.20	0.31	15.70	1.20	1.00					1個のみ。飾り割れ(半田漏れ?)	
176		7253	耳飾り	1	I	b	7.0		6.5	0.19	0.27	11.20	1.20	1.10					1個のみ。模様：朝顔	
177		7254	耳飾り	1	I	a	5.4		5.7	0.11	0.35	5.80								
178		7703	耳飾り	2	I	b	7.8		7.8	0.35	0.16	14.40	1.50	1.20					飾り：竹	
179		7735	耳飾り	1	II	b	9.2	5.7	6.2	0.20	0.35	12.40	0.90	0.80					1個のみ。飾り・本体同一合金。本体+飾り+止めコイル。	
180		不明	耳飾り	2	II	b	—	—	—	—	—	—	—	—					展示中。飾り：透かし玉	
181		北海道博物館	11252	耳輪	2	I	a													
182			11253	耳輪	2	I	b													
183	11432		耳輪	2	II	b														
184	11528		耳輪	2	I	b													平取村荷負(昭和20年2月)	
185	32796		耳輪	2	II	b														
186	32820		耳輪	2	II	b														
187	32821		耳輪	2	II	b														
188	32822		耳輪	1	I	b													部品(1個のみ)	
189	32823		耳輪	1	I	b													部品(1個のみ)	
190	32824		耳輪	1	II	b													部品(1個のみ)	
191	32825		耳輪	1	II	b													部品(1個のみ)	
192	32976		耳輪	2	II	b														
193	32977		耳輪	2	II	b														
194	32978		耳輪	2	II	b														
195	32979		耳輪	2	II	b														
196	32980		耳輪	1	II	b													部品(1個のみ)	
197	32981		耳輪	1	II	b														
198	45662		耳輪	2	I	a														
199	45681		耳輪	2	I	c+d														
200	124663		耳飾	2	II	b														
201	124664		耳飾	2	I	b														
202	124665		耳飾	2	I	b														
203	124666		耳飾	2	I	c														
204	124667		耳飾	2	II	b+d														
205	124668		耳飾	2	II	c														
206	124669		耳飾	2	I	b														
207	133759		耳飾り	1	I	a														
208	130623		耳飾り	2	II	b														
209	158342		耳飾り	2	I	c														
210	158343		耳飾り	2	II	b														
211	158344		耳飾り	2	II	b														
212	158345		耳飾り	1	II	b														
213	158346	耳飾り	1	II	b															
214	158347	耳飾り	1	I	b															
215	158348	耳飾り	2	II	b															
216	158349	耳飾り	2	II	b															
217	158350	耳飾り	1	II	b															
218	158351	耳飾り	1	II	b															
219	158352	耳飾り	1	I	b															
220	158353	耳飾り	1	I	b															
221	158354	耳飾り	1	II	b															
222	158355	耳飾り	1	I	b															

No.	収蔵機関	収蔵番号	名称	点数	型式	種類	全体の寸法(cm)					重さ(g)	飾り①の寸法(cm)		飾り②の寸法(cm)		飾り③の寸法(cm)		備考
							タテ		ヨコ	厚さ			タテ	ヨコor厚さ	タテ	ヨコor厚さ	タテ	ヨコor厚さ	
							全体(飾り込)	輪のみ(飾り除く)		先	接点								
223	北海道博物館	158356	耳飾り	1	I	b													
224		158357	耳飾り	1	II	a													
225		158358	耳飾り	1	II	a													
226		158359	耳飾り	1	II	a													
227		158360	耳飾り	1	I	a													
228		158361	耳飾り	1	I	a													
229		158362	耳飾り	1	I	a													
230		165936	耳飾り	2	I	b													
231		165937	耳飾り	2	II	b													
232		165938	耳飾り	2	I	b													
233		165939	耳飾り	2	II	b													
234		165940	耳飾り	2	II	b													
235		165941	耳飾り	2	I	c													
236		165942	耳飾り	2	II	c													
237		165943	耳飾り	2	I	a													
238		165944	耳飾り	1	II	b													
239		165945	耳飾り	1	I	b													
240		165946	耳飾り	1	II	b													
241		165947	耳飾り	1	II	b													
242		165948	耳飾り	1	II	b													
243		165949	耳飾り	1	II	b													

Fundamental Study on Ear Ornaments of the Ainu People: Focusing on Items in Museums and Other Collections throughout Japan

KAMEMARU Yukiko

The target of this study is ear ornaments, which are assessed to be either passed down items or excavated items, from among Ainu folkcraft items in collections at museums and other facilities in Japan. We have classified these items into three types (Type I, Type II, and Type III), and analysed material composition to organize changes in type by era while examining production methods.

The earliest ear ornaments are of Type III, which was established before the 13th century and remained current until the latter half of the 15th century, and confirmed that tin (Sn) was the primary material for Type III. Later, Type I, which was made of materials such as silver or *shibuichi* (alloy of 3 parts copper to 1 part silver), was established before the middle of the 17th century, and replaced Type III. Type II was established around the 18th

century, and is also known to be the main type from the Meiji era (1868-1912) and onwards. This study has made the following findings regarding ear ornaments which included metal decorations: (1) Type II items with tin decorations appeared as ear ornaments around the 19th century. (2) Once nickel silver became commonplace around the middle of the 19th century, nickel silver decorations became mainstream on both Type I and Type II ear ornaments.

Further, X-ray fluorescence analysis has allowed this study to identify changes in material by era for each type. Through this analysis, this study has found that items apparently assessed as Type I or Type II which feature metal decorations, as well as ear ornaments which utilized nickel silver or nickel plating, are new types of ear ornaments.